

—茨城県土浦市—

坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会
有限会社 毛野考古学研究所

—茨城県土浦市—

坂田台山古墳群 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）
坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

土浦市教育委員会
有限会社 毛野考古学研究所

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川など豊富な水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところでありました。そのため市内には、集落跡や貝塚、古墳など数多くの遺跡が存在しています。これらの遺跡は、当時の人々の生活や環境を知る手掛かりとなります。また、現代に生きる私たちが、豊かな生活を送ることのできる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化財を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な任務であり、また、郷土の発展のために大切なことです。

この度、上坂田地区と下坂田地区において大規模な埋地帯総合整備事業が計画され、今年度は下坂田中台遺跡と下坂田貝塚、坂田台山古墳群の記録保存を目的とした発掘調査が行われました。

調査の結果は本文に記載されているとおりですが、土浦の古代の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係者の皆様のご協力とご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

平成25年3月
土浦市教育委員会
教育長 井坂 隆

目次

ごあいさつ

例言・凡例

目次・図版目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と基本層序	5
第1節 調査の方法	5
第2節 基本層序	5
第4章 坂田台山古墳群	11
第1節 竪穴住居跡	11
第2節 溝跡	12
第3節 土坑	13
第4節 古墳	14
第5節 ビット	15
第6節 遺構外出土遺物	16

第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区	17
第1節 竪穴住居跡	17
第2節 溝跡	37
第3節 土坑	42
第4節 井戸跡	52
第5節 建物跡	54
第6節 ビット	54
第7節 地点貝塚	57
第8節 遺構外出土遺物	59
第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区	62
第1節 竪穴住居跡	62
第2節 溝跡	63
第3節 土坑	64
第4節 ビット	68
第5節 遺構外出土遺物	69
第7章 まとめ	71
付章	74
写真図版	
報告書抄録・奥付	











挿図目次

第1図 調査地点位置図	2	第15図 1～3・6号ビット	15
第2図 遺跡分布図	4	第16図 3号ビット出土遺物	15
第3図 基本層序	5	第17図 遺構外出土遺物	16
第4図 調査区位置図	6	第18図 1号住居跡	17
第5図 グリッド配置図	7	第19図 1号住居跡カマド	18
第6図 坂田台山古墳群全体図	8	第20図 1号住居跡出土遺物	19
第7図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区全体図	9	第21図 1号住居跡出土遺物	20
第8図 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区全体図	10	第22図 1号住居跡出土遺物	21
第9図 1号住居跡・1号住居跡出土遺物	11	第23図 2号住居跡	22
第10図 1号住居跡出土遺物	12	第24図 2号住居跡出土遺物	23
第11図 1・2号溝跡	12	第25図 3号住居跡	24
第12図 1～3号土坑	13	第26図 3号住居跡出土遺物	25
第13図 1号土坑出土遺物	13	第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物	26
第14図 厘数付古墳・1号周溝	14	第28図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物	27

例言

1. 本書は、土浦市坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の発掘調査報告書である。
2. 調査は、土浦市より委託契約を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 調査については、土浦市教育委員会の指導の下に行った。
4. 遺跡の所在地・調査面積・調査期間等は下記の通りである。
所在地 茨城県土浦市下坂田 1467 番地外
調査面積 2760㎡
調査期間 平成 23 年 12 月 14 日～平成 24 年 3 月 21 日
調査指導 比毛君男（土浦市教育委員会）
調査担当 柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）
調査作業員 市村浩男 江口弘男 榎戸洋子 遠藤幸子 大沼義則 表豊 加藤通紀 清原卓
小角みや子 相良麻美 下山豊二 寺崎清次 萩原和宏 針ヶ谷紀夫 平林敬子
宮本富夫 矢口克（50 音順）
5. 整理期間と整理従事者は以下の通りである。
整理期間 平成 24 年 10 月 6 日～平成 24 年 3 月 8 日
整理作業員 荒井佳子 石山亜希子 大滝千晶 丸山由子 木村宏次 菅谷万須美 仙波葉津美
高橋真弓 土井航平 成田恵美 根本正子
6. 本書の原稿執筆分担は以下の通りである。
第 1 章第 1 節を比毛、第 1 章第 2 節～第 7 章を柴田が担当した。
7. 住居跡出土遺物の写真撮影は有山啓世（毛野考古学研究所）、その他は柴田が担当した。
8. 本遺跡から出土した貝・獣骨類の分類作業は常深尚（毛野考古学研究所）が担当した。
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の方々、諸機関より御指示・御協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略）
茨城県教育委員会文化課 茨城県県南農林事務所 国立歴史民俗博物館 常洋建設工業株式会社
坂田地区県営畑地帯総合土壌改良事業実施協議会 土浦市産業部耕地面課
独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
富山市教育委員会埋蔵文化財センター 魚津市教育委員会
青木正博 斎藤弘道 下川浩一 高山茂樹 納屋内高史 西本豊弘 町田賢一
10. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真などは、一括して上高津貝塚ふるさと歴史の広場で保管している。

凡例

1. 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図のうち、平面図の方位は座標北を、土層断面図の水準高の数値は海拔標高を示す。
2. 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。
S I：竪穴住居跡 S D：溝 S K：土坑 S E：井戸 S B：掘立柱建物跡 S Z：周溝 貝：貝塚
S X：性格不明遺構 P：ピット K：カクラン
3. 遺構平面図・断面図の縮尺は 1/30・1/60・1/150・1/200、遺物実測図の縮尺について土器は 1/3、土製品は 1/1・1/2・1/3、石製品は 1/1・1/3、貝製品・骨角器は 1/1・1/2・1/3 にて掲載し、スケールを明示している。また、遺物写真は遺物実測図とはほぼ同縮尺である。
4. 観察表における（ ）は推定値を、〈 〉は残存値を示す。
5. 各遺構番号は調査区ごとに振り分けを行い、本報告書においても一部を除き調査時の番号のまま報告している。なお、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 1 区における 12 号住居跡、4・17 号土坑、2・13～15・25・26・28 号ピット、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 2 区における 3・9・23 号ピットは欠番となっている。
6. 遺構図中における  は炭化物を、 は焼土を、 は硬化面（柱あたり）を、 は貝を示す。
7. 遺物実測図中における  は黒色処理を、 は赤彩を、 は油煙を、 は鉄銹を、 は被熱を、 は繊維を示す。
8. 本書中の色調に関する表現は、『新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2002 年版）』に従った。
9. 引用・参考文献は一括して文末に記した。

第29図	6号住居跡・6号住居跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 28	第51図	23・25～27号土坑出土遺物	・ ・ ・ ・ 49
第30図	6号住居跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 29	第52図	27号土坑出土遺物	・ ・ ・ ・ 50
第31図	7号住居跡	・ ・ ・ ・ 29	第53図	1号井戸跡	・ ・ ・ ・ 52
第32図	7号住居跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 30	第54図	1号井戸跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 53
第33図	8号住居跡	・ ・ ・ ・ 30	第55図	1号建物跡	・ ・ ・ ・ 54
第34図	8号住居跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 31	第56図	1・5～8号ピット	・ ・ ・ ・ 55
第35図	9号住居跡・10号住居跡	・ ・ ・ ・ 32	第57図	20～24・35号ピット	・ ・ ・ ・ 56
第36図	11号住居跡・11号住居跡出土遺物	・ ・ 33	第58図	ピット位置図	・ ・ ・ ・ 56
第37図	13号住居跡	・ ・ ・ ・ 34	第59図	ピット出土遺物	・ ・ ・ ・ 57
第38図	13号住居跡出土遺物	・ ・ ・ ・ 35	第60図	地点貝塚・地点貝塚出土遺物	・ ・ ・ 58
第39図	14号住居跡出土・14号住居跡出土遺物	・ 36	第61図	遺構外出土遺物	・ ・ ・ ・ 59
第40図	15号住居跡	・ ・ ・ ・ 37	第62図	遺構外出土遺物	・ ・ ・ ・ 60
第41図	3・5・7・8・10・11号溝跡	・ ・ ・ 38	第63図	1号住居跡	・ ・ ・ ・ 62
第42図	9・12～14号溝跡	・ ・ ・ ・ 39	第64図	2号住居跡	・ ・ ・ ・ 62
第43図	2・3・5・7・8・9・11・12号溝跡 出土遺物	・ ・ ・ ・ 40	第65図	1・2号溝跡	・ ・ ・ ・ 63
第44図	12・13・16号溝跡出土遺物	・ ・ ・ 41	第66図	1号土坑	・ ・ ・ ・ 64
第45図	2・3号土坑	・ ・ ・ ・ 43	第67図	2・3・6・9・14号土坑	・ ・ ・ 65
第46図	6・9・11～13号土坑	・ ・ ・ ・ 44	第68図	1号土坑出土遺物	・ ・ ・ ・ 65
第47図	15・16・21・23～27・29号土坑	・ ・ 45	第69図	1・2・3・6号土坑出土遺物	・ ・ 66
第48図	9・11・12号土坑出土遺物	・ ・ ・ 46	第70図	6・9・14号土坑出土遺物	・ ・ ・ 67
第49図	12・13・15号土坑出土遺物	・ ・ ・ 47	第71図	ピット出土遺物	・ ・ ・ ・ 69
第50図	15・16号土坑出土遺物	・ ・ ・ 48	第72図	遺構外出土遺物	・ ・ ・ ・ 69
			第73図	遺構外出土遺物	・ ・ ・ ・ 70

表 目 次

表1	調査地点周辺の遺跡一覧表	・ 4	表14	6号住居跡出土遺物観察表	・ 29	表27	11号溝出土遺物観察表	・ 42
表2	1号住居跡出土遺物観察表	・ 12	表15	7号住居跡出土遺物観察表	・ 30	表28	12号溝出土遺物観察表	・ 42
表3	溝跡一覧表	・ 12	表16	8号住居跡出土遺物観察表	・ 32	表29	13号溝出土遺物観察表	・ 42
表4	土坑一覧表	・ 13	表17	11号住居跡出土遺物観察表	・ 33	表30	16号溝出土遺物観察表	・ 42
表5	1号土坑出土遺物観察表	・ 13	表18	13号住居跡出土遺物観察表	・ 35	表31	土坑一覧表	・ 43
表6	ピット一覧表	・ 15	表19	14号住居跡出土遺物観察表	・ 36	表32	9号土坑出土遺物観察表	・ 50
表7	3号ピット出土遺物観察表	・ 15	表20	溝跡一覧表	・ 37	表33	11号土坑出土遺物観察表	・ 50
表8	遺構外出土遺物観察表	・ 16	表21	2号溝跡出土遺物観察表	・ 41	表34	12号土坑出土遺物観察表	・ 50
表9	1号住居跡出土遺物観察表	・ 21	表22	3号溝跡出土遺物観察表	・ 41	表35	13号土坑出土遺物観察表	・ 50
表10	2号住居跡出土遺物観察表	・ 23	表23	5号溝出土遺物観察表	・ 41	表36	15号土坑出土遺物観察表	・ 50
表11	3号住居跡出土遺物観察表	・ 25	表24	7号溝跡出土遺物観察表	・ 41	表37	16号土坑出土遺物観察表	・ 51
表12	4号住居跡出土遺物観察表	・ 27	表25	8号溝出土遺物観察表	・ 41	表38	23号土坑出土遺物観察表	・ 51
表13	5号住居跡出土遺物観察表	・ 28	表26	9号溝出土遺物観察表	・ 41	表39	25号土坑出土遺物観察表	・ 51

表 40	26号土坑出土遺物観察表・51	表 49	溝跡一覧表・63	表 58	ピット出土遺物観察表・69
表 41	27号土坑出土遺物観察表・51	表 50	土坑一覧表・64	表 59	遺構外出土遺物観察表・70
表 42	1号井戸跡出土遺物観察表・53	表 51	1号土坑出土遺物観察表・67	表 60	土壌洗浄・貝分類表・73
表 43	ピット一覧表・55	表 52	2号土坑出土遺物観察表・67		
表 44	ピット出土遺物観察表・57	表 53	3号土坑出土遺物観察表・68		
表 45	地点貝塚一覧表・58	表 54	6号土坑出土遺物観察表・68		
表 46	1号地点貝塚出土遺物観察表・58	表 55	9号土坑出土遺物観察表・68		
表 47	2号地点貝塚出土遺物観察表・59	表 56	14号土坑出土遺物観察表・68		
表 48	遺構外出土遺物観察表・60	表 57	ピット一覧表・68		

写真図版 目次

P L. 1	1号住居跡全景・1号住居跡遺物出土状況・1・2号溝跡全景・1号土坑全景・2号土坑全景・3号土坑全景・屋敷付古墳調査前全景・1号周溝全景	P L. 6	24号土坑全景・25号土坑注口土器出土状況・1号建物跡検出状況・1号井戸跡全景・地点貝塚検出状況・20～23号ピット全景・1区南側東西路線全景・1区北側東西路線全景
P L. 2	1号住居跡全景・1号住居跡カマド・2号住居跡全景・2号住居跡白玉出土状況・3号住居跡全景・3号住居跡遺物出土状況・4号住居跡全景・4号住居跡遺物出土状況	P L. 7	1号住居跡全景・2号住居跡全景・1号溝跡全景・2号溝跡全景・1号土坑セクション・2号土坑セクション・3号土坑全景・2区全景
P L. 3	5号住居跡全景・5号住居跡遺物出土状況・6号住居跡全景・6号住居跡遺物出土状況・7号住居跡全景・7号住居跡遺物出土状況・8号住居跡全景・8号住居跡遺物出土状況	P L. 8	出土遺物
P L. 4	9号住居跡全景・10号住居跡全景・11号住居跡全景・11号住居跡遺物出土状況・13号住居跡全景・13号住居跡遺物出土状況・13号住居跡土製模造鏡出土状況・14号住居跡全景	P L. 9	出土遺物
P L. 5	14号住居跡石製模造品出土状況・2号溝跡遺物出土状況・6号溝跡全景・7・8・10号溝跡全景・9号溝跡硬化面検出状況・12号溝跡全景・13号溝跡全景・11号土坑馬骨出土状況	P L. 10	出土遺物
		P L. 11	出土遺物
		P L. 12	出土遺物
		P L. 13	出土遺物
		P L. 14	出土遺物
		P L. 15	出土遺物
		P L. 16	出土遺物
		P L. 17	出土遺物
		P L. 18	出土遺物
		P L. 19	出土遺物
		P L. 20	出土遺物
		P L. 21	出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

1995（平成7）年2月、新治村（当時）教育委員会教育長宛に茨城県土浦土地改良事務所から、下坂田・上坂田の台地上縁辺部にかけて県営畑地帯総合土地改良事業を計画しており、その予定地内の埋蔵文化財の有無について照会が提出された。現地踏査を行ったところ、包蔵地・貝塚・古墳群の存在が確認されたため、試掘確認調査が必要である旨を回答した。2002（平成14）年8月、茨城県土浦土地改良事務所から、埋蔵文化財の有無と遺跡が存在した場合の取扱についての照会が提出された。

2006（平成18）年2月に新治村が土浦市と合併すると、当事業は計画が具体化し、同年6月に土浦市教育委員会は全域の現地踏査を行った。2008（平成20）年3月には、赤弥堂遺跡の西側から事業区域西端の坂田峯の台古墳群にかけて、事業区域内全体に試掘確認調査を行った。これら試掘確認調査の結果をもとに、土浦市教育委員会は茨城県土浦土地改良事務所・土浦市産業部耕地課と協議を継続し、道路建設対象箇所に対して記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。2008（平成20）年3月25日、茨城県知事と土浦市長との間で坂田地区の埋蔵文化財取扱全般に関する覚書を締結。2011（平成23）年度は、事業地のほぼ中央にあたる下坂田中台遺跡・下坂田貝塚・坂田山古墳群と、事業地の東端にあたる下坂田場台遺跡・坂田場台古墳群の2地点の発掘調査を実施しており、当報告書は前者分に当たっている。

今回の調査に関する文化財保護法関連の手続きは、2008（平成20）年6月17日付けで茨城県土浦土地改良事務所長（呼称は当時）より当事業全体に関する埋蔵文化財の発掘の通知（文化財保護法第94条）が土浦市教育委員会に提出され、6月27日付けで茨城県教育長宛に進達した。調査年度の2011（平成23）年度には、一部道路の線形変更があったため、これにつき平成23年9月6日付けで茨城県南農林事務所長より埋蔵文化財の発掘の通知が土浦市教育委員会に提出され、9月29日付けで茨城県教育長宛に進達した。発掘調査は有限会社毛野考古学研究所が実施することとなり、埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第92条）を、9月30日付けで茨城県教育委員会教育長宛に進達した。11月10日付けで茨城県教育長より埋蔵文化財発掘調査の通知を受けている。なお、平成24年3月29日付けで発掘調査の終了確認依頼の進達を行い、同年3月31日付けで茨城県教育委員会教育長より終了確認の通知を受けた。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成23年12月14日～平成24年3月21日まで、整理作業は平成24年10月6日～平成25年3月8日まで行った。経過は以下の通りである。

平成23年12月期：プレハブ・簡易トイレ・発掘器材の搬入。坂田山古墳群から調査を開始する。また、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区（以下1区）の表土除去も一部行う。坂田山古墳群における調査は28日で終了。平成24年1月期：1区の調査を開始。住居・土坑を複数確認。調査区の西端で地点貝塚を確認。工事の進捗状況に伴い、終了した区域から部分的に明け渡しを行う。2月期：下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区（以下2区）の重機掘削を行う。3月期：2区の調査を開始。土坑とピットを多数検出した。1区の調査は13日で、2区の調査は16日で終了。21日、発掘器材の撤収を行い、全ての発掘調査業務は終了となる。

平成24年10月期：遺物の洗浄作業を開始し、洗浄終了のものから注記作業を行う。遺構平面図・セクション図のデジタルトレースを行う。11月期：遺物の接合作業を開始。12月期：遺物の写真撮影・実測作業を開始する。平成25年1月期：引き続き遺物の実測作業を行い、中旬に終了。遺物実測図のデジタルトレース作業を開始し、1月中に終了。2月期：図版の版組み・原稿作成・編集作業を行い、中旬に入稿。3月期：報告書を刊行し、教育委員会に納品する。

第2章 遺跡の位置と環境

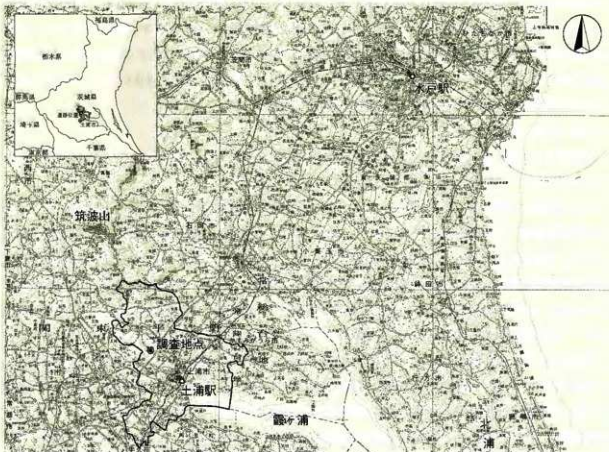
第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図）

坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚は、現在土浦市下坂田に所在しているが、2006年の合併以前は新治郡新治村の所在であった。土浦市は茨城県の南部に位置し、北は石岡市、西はつくば市、東はかすみがうら市、南は牛久市・稲敷郡阿見町と接し、北西には筑波山を望むことができる。

土浦市の中央部には桜川が霞ヶ浦に向かって流れ、河口部は土浦入りを形成している。土浦市はこの桜川を境に、左岸は新治台地、右岸は筑波・稲敷台地が広がり、桜川の周囲は低地（幅2～3km）となっている。本遺跡は桜川の左岸である新治台地の縁辺部（標高28～29m）に位置している。

土浦市を含む霞ヶ浦周辺の地形の形成は今から約30,000年前までさかのぼると考えられ、古鬼怒川によって形成された谷地形（桜川周辺の低地帯も含む）が元になっている。約18,000年前（後旧石器時代）から温暖化に伴う海面の上昇が徐々に始まり、約9,000年前頃（縄文早期）から谷地形に海水が流入し始め、入江が形成される。約6,000年前の縄文海進期（縄文前期）には海水の流入がピークを迎え、桜川低地帯の汽水域（淡水と海水の混在域）は現在の湖岸より4kmほど内陸まで広がっていたとされる。ちょうど、本遺跡が位置している下坂田地区辺りの低地までと考えられている。

現在、本遺跡を含む下坂田周辺は畑地・果樹園が広がり、台地の縁辺部には針葉樹林が形成されている。遺跡の北部には土浦市街地に向かう国道125号線が走り、西部には国道を縦断する形で常磐自動車道が走るなど、交通の要所が集中する地域でもある。また、下坂田の西側は上坂田となり、両地区を合わせて坂田地区と呼称している。



第1図 調査地点位置図（国土地理院発行「水戸」1：200,000を50%縮小して加筆）

第2節 歴史的環境

本遺跡を含めた新治台地の周辺で確認されている遺跡の概要について各時代別に述べることにする。

旧石器時代 旧石器時代の遺跡は常磐自動車道の東側に位置している常名台遺跡群【25～30】で確認されているが、その数は少ない。神明遺跡【27】第4次調査ではローム層から石器ブロック1基、隣接する山川古墳群【29】第2次調査でもローム層から石器ブロック3基と炉跡を検出している。炉跡から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、約32,000年前のものであるとした測定結果が示されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡は集落だけでなく地点貝塚も広く分布している。上坂田北部貝塚【4】は前期の地点貝塚で、ハイガイを主体とした貝層が住居内に確認されている。また、上坂田寺裏貝塚【8】・下坂田馬場先貝塚【14】・赤弥堂【18】でも前期の地点貝塚が確認されている。神明遺跡【27】では中期の土坑からサルボウやハマグリが主体の地点貝塚が、下坂田貝塚【★】は筑波大学による畑地帯の確認調査によって後晩期の地点貝塚であることが確認されている。新治台地で確認された地点貝塚はいづれも小規模なものであるが、広範囲にわたって点在している状況が調査によって判明している。

弥生時代 弥生時代に該当する遺跡は少なく、確認されていたとしてもその遺構数はさらに乏しいものである。山川古墳群【29】第3次調査では後期に比定される住居跡2軒が確認されているが、依存状態が悪く遺物も小片が出土したに留まっている。北西原遺跡【28】第2次調査でもわずかに1軒の住居跡が確認されたのみである。本遺跡周辺の赤弥堂遺跡【18】や下坂田馬場台遺跡【12】などでもわずかに弥生土器の小片が採集されているが、現時点で該期の遺構を確認している遺跡はない。

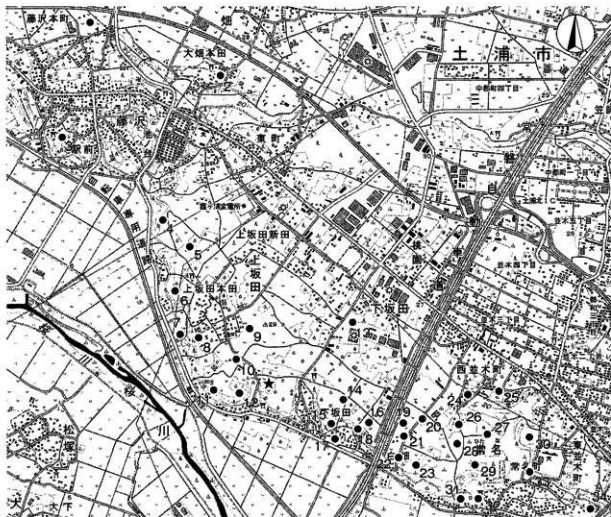
古墳時代 古墳時代に該当する遺跡は弥生時代から格段に増え、台地の縁辺部に多くの古墳が築かれているが、湮滅してしまったものも多いとみられる。集落跡は常名台遺跡群【25～30】で多く確認され、古墳時代前期・後期の堅穴住居跡が多く確認されている。神明遺跡【27】第3次調査では古墳時代前期の住居跡からパレススタイルの壺や結合器台などが出土している。下坂田周辺では赤弥堂遺跡【18】で前期の住居跡が確認されているが、後期の住居跡は確認されていない。上坂田周辺では現時点で集落跡は確認されていないが、上坂田塚原古墳群【5】や上坂田立野古墳群【6】が存在していることから、上坂田にも古墳群の埋葬者に関係する集落が展開していた可能性は十分考えられる。坂田・常名地区で確認された古墳は、前期から終末期まで多岐にわたり、武者塚古墳群【10】と常名天神山古墳【32】は市の指定史跡となる。武者塚古墳群【10】は2基の古墳からなるが、墳丘は削平されてしまっている。古墳時代終末期（7世紀後半）に築造されたと思われる1号墳の主体部は箱型横穴式石室を有し、6体分の人骨が確認され、一部髭や美豆良が残存していた。前室からは全国的にも珍しい青銅製の杓が出土するなど貴重な発見が相次いだ。本調査にかかる坂田台古墳群【★】は現在3基の古墳からなり、1号墳は昭和39年に國學院大学と土浦第二高等学校により主体部のみの調査が行われ、武者塚古墳1号墳とほぼ同時期の7世紀に築造された終末期の古墳であるとされる。

奈良・平安時代 奈良・平安時代になると遺跡数は古墳時代の半分以下となるが、大多数は常名台遺跡群【25～30】に集中している。弁才天遺跡【30】では堅穴住居跡や掘立柱建物跡が多く確認され、奈良時代の堅穴住居跡のカマド内からは和銅開弥が出土、隣接する西谷津遺跡【25】の奈良時代の堅穴住居跡からは青銅製帯金具が出土している。八幡下遺跡【34】の平安時代の堅穴住居跡からは円面硯が出土している。また、同遺跡1号土坑内から丸瓦が出土していることから周辺において寺院の存在を窺わせるが、確証を得るものではない。

中世 遺跡周辺には藤沢城跡【3】、峯台館跡【7】、上坂田館の内館跡【9】などの城館跡が台地の縁辺に沿うように存在しており、現在も土塁や堀の跡が確認できる。しかし、調査が及ぶものは少なく、遺跡の範囲

や建物配置等は明瞭になっていない。神明遺跡【27】では薬研堀や建物跡、山川古墳群【29】では井戸跡などが確認され、13～14世紀における常名地区の大規模な居館跡の存在が明らかとなっている。

近世 明確に近世に属する遺跡は少なく、赤弥堂遺跡【18】・神明遺跡【27】・山川古墳群【29】などで道路跡や溝跡・土坑などが確認されるに留まる。山川古墳群【29】で確認された溝跡は畑の境界溝と考えられている。



第2図 遺跡分布図(国土地理院発行「常陸藤沢」1:25,000に加筆)

第1表 調査地点周辺の遺跡一覧

1	高岡愛宕塚古墳			●													19	中畑遺跡		●														
2	大塚本田貝塚	●																20	アラク遺跡														●	
3	龍沢遺跡																	21	小取の上遺跡	●	●													
4	上坂田北部貝塚	●				●												22	板の上遺跡	●	●													
5	上坂田東原古墳群																	23	羽黒後遺跡	●	●													
6	上坂田立野古墳群																	24	西谷津西遺跡					●										
7	奉合館跡																	25	西谷津遺跡					●										
8	上坂田寺島貝塚	●																26	北西原古墳群					●										
9	上坂田館の内館跡																	27	神明遺跡		●	●												●
10	武者塚古墳群																	28	北西原遺跡					●	●	●	●							
11	坂田塚台古墳群																	29	山川古墳群		●	●					●	●	●	●	●	●		
12	下坂田鳩合遺跡																	30	舟才天遺跡								●	●						
13	坂田船舟山塚群	●				●												31	瓢箪塚古墳					●	●	●	●	●	●	●	●	●		
14	下坂田烏嶋先貝塚	●																32	常名天神山古墳					●	●	●	●	●	●	●	●			
15	下坂田八幡神社古墳群																	33	天神島遺跡								●	●						
16	下坂田向山古墳群																	34	八幡下遺跡								●	●						
17	下坂田屋敷内館跡																		下坂田中台遺跡					●	●	●	●	●	●	●	●			
18	赤弥堂遺跡	●				●													下坂田貝塚					●	●	●	●	●	●	●	●			
																			坂田台山古墳群		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法 (第3～8図)

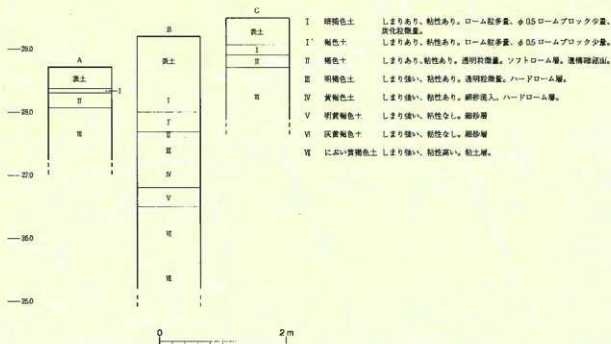
本発掘調査は、坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う下坂田中台遺跡(南地区)外埋蔵文化財発掘調査として行われ、調査対象地域は事前の試掘調査によって遺構の有無を確認し、調査地区の設定を行った。調査対象地域には3つの遺跡が複合しており、坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚が確認されている。調査は坂田台山古墳群→下坂田中台遺跡・下坂田貝塚(1・2区)の順で行った。発掘調査を進めるにあたり、平面測量は世界測地系の公共座標に基づいて行い、3つの調査区を包括する形で20mの大グリッドを設定。グリッド名は北からA・B・C・・・、西から1・2・3・・・とし、A1・A2といったような名称を付けて各遺構の位置を示すものとした。

調査方法は表土掘削→遺構確認作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。遺構確認作業にはジョレン、遺構掘削作業には移植ゴテを使用して掘り下げを行い、出土遺物は可能な限り平板とトータルステーションを併用して3次元計測による記録を行った。

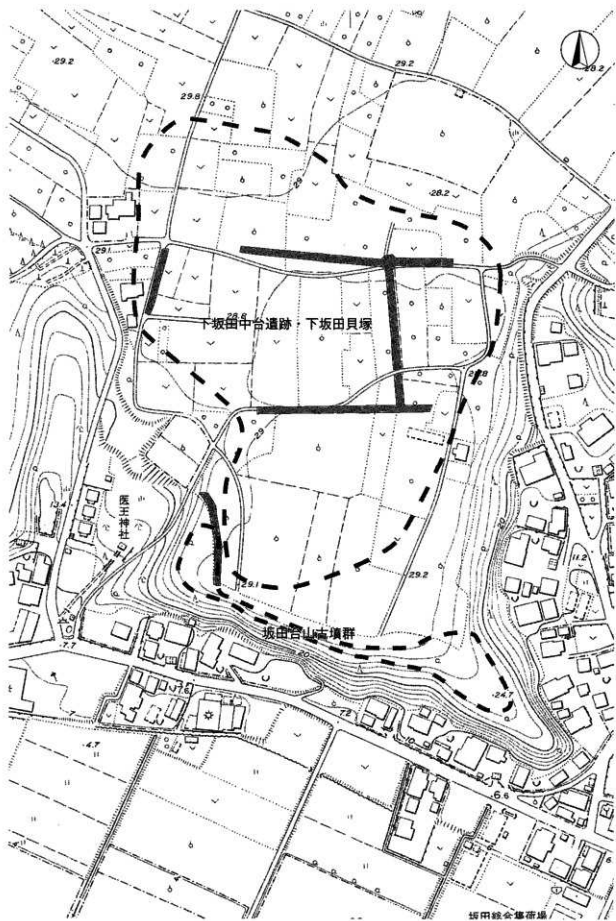
遺構の記録方法は、平面図・セクション図は基本1/20で作成し、平面図はトータルステーションを用いて測量している。遺構の写真撮影は、35mm白黒フィルム・35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ(1,400万画素)を使用した。

第2節 基本層序 (第3図)

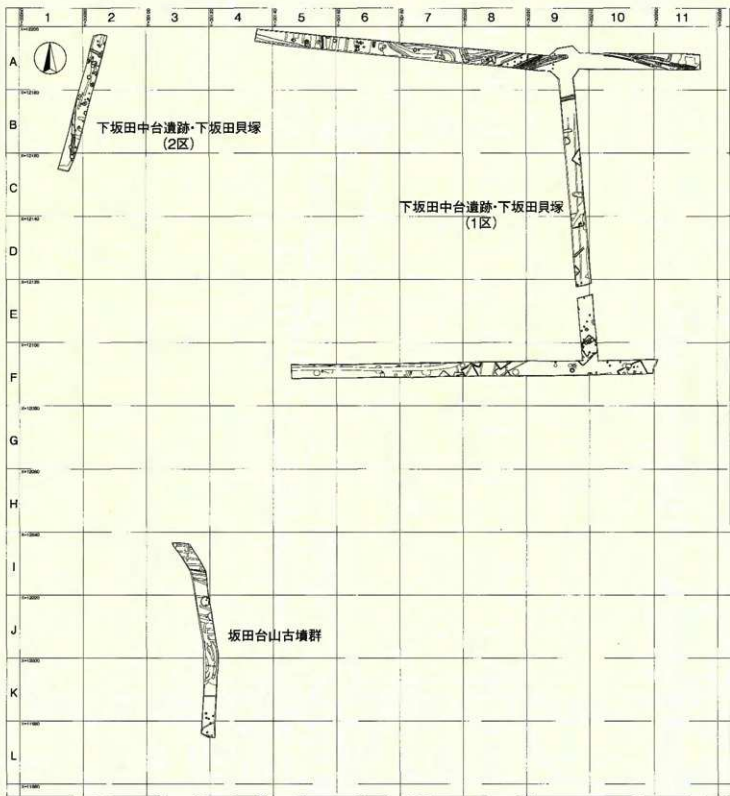
本調査において、3地点で基本層序の確認を行った。A地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区北側、B地点は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区井戸跡壁面、C地点は同区東側にあたり、遺構確認面はいずれもII層上面である。A・C地点においてはIII層までしか確認できなかったが、B地点は安全に留意し可能な限り井戸跡の壁面において土層の変化を確認したところ、VII層まで確認することができた。



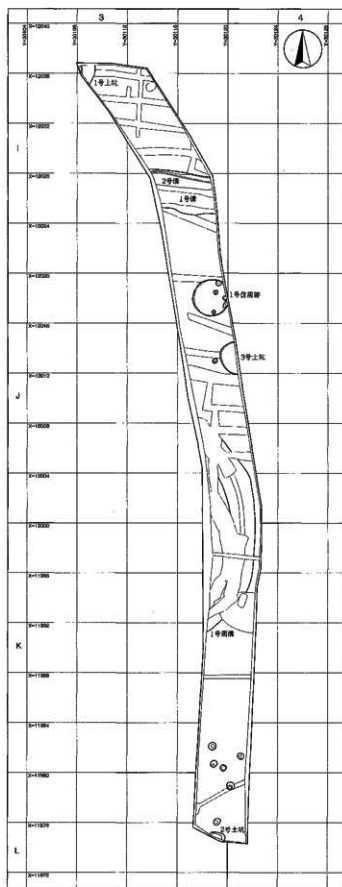
第3図 基本層序 (1:60)



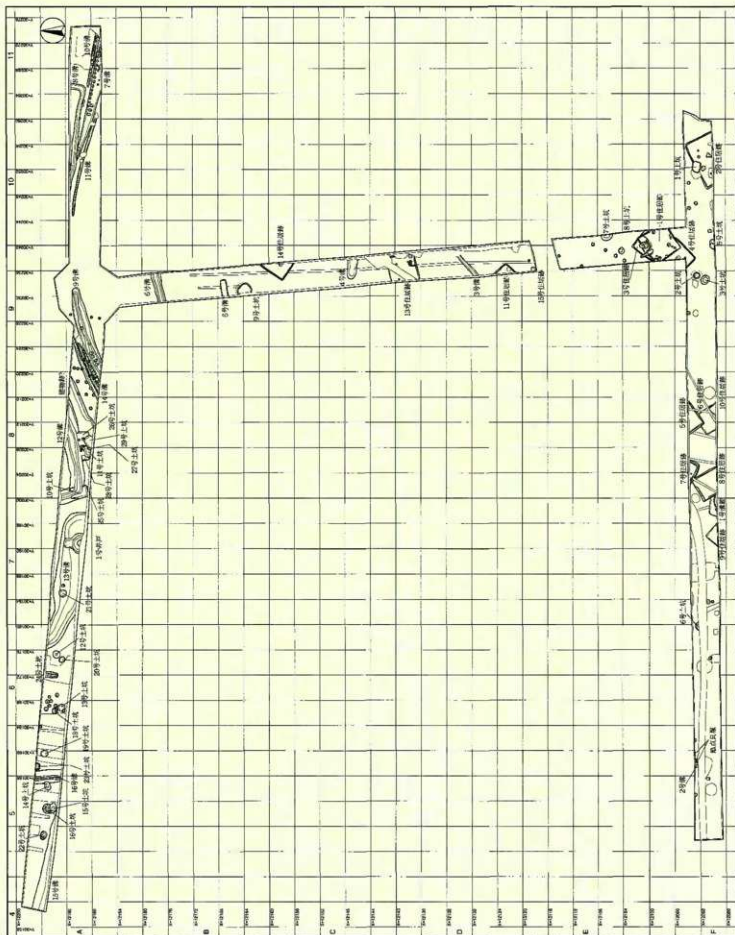
第4図 調査区位置図(新治村都市計画図1:2,500に加筆)



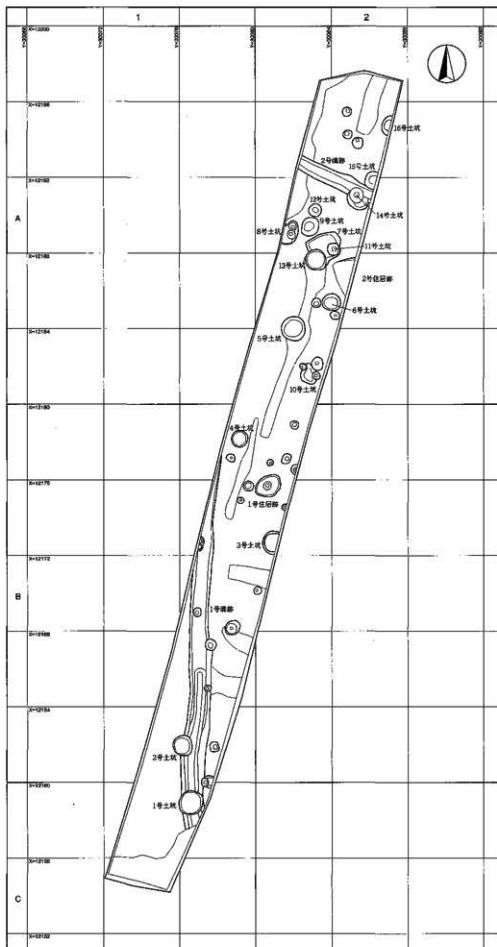
第5図 グリッド配置図 (S = 1 : 1,200)



第6圖 坂田台山古墳群全体圖 (S = 1 : 300)



第7图 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区全体図 (S = 1 : 600)



第8图 下板田中台遺跡·下板田貝塚2区全体图 (S = 1 : 200)

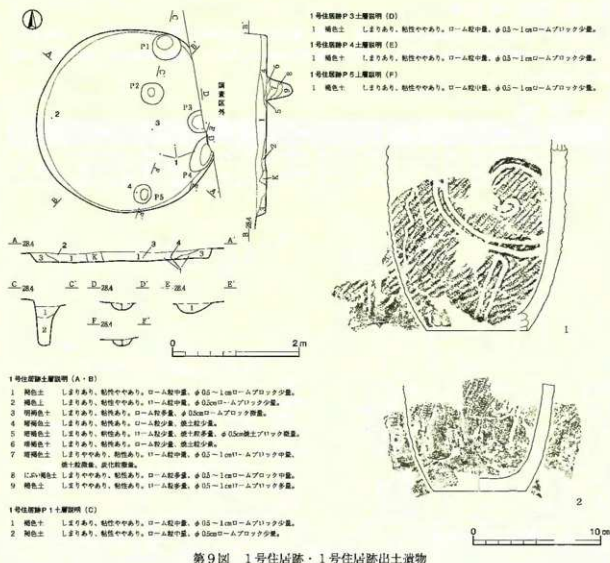
第4章 坂田台山古墳群

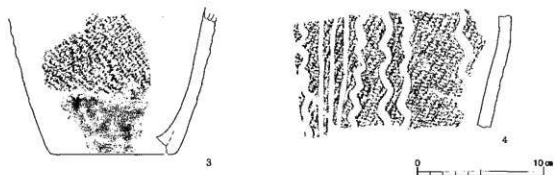
坂田台山古墳群の調査は平成23年12月14日～同年12月28日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡2条、土坑3基、古墳周溝1基、ピット7基を数える。また、隣接する栗畑の土壌改良や散水用パイプの埋設など、攪乱も多くみられた。

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡 (第9・10図)

位置 J3グリッドに位置している。規模 直径2.9mの円形を呈している。主軸方位 不明。壁 壁高は15cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床 はほぼフラットで、一部根による攪乱を受けていた。硬化面の範囲などを確認することは出来なかった。ピット 5基確認したが、東側に偏っており、明確に柱穴として組めるものはない。炉 確認することは出来なかった。覆土 褐色土を主体とした自然堆積とみられる。遺物 覆土上層～下層を中心に出土したが、小片が多く個体になるものは少なかった。また、床面直上で確認できた遺物はごくわずかであった。所見 床面から炉跡が確認できなかったことや、規模が直径2.9mと小型であることから、住居というよりも簡易的な小屋であった可能性も考えられる。出土遺物から縄文時代中期後葉に属するとみられる。





第10図 1号住居跡出土遺物

表2 1号住居跡出土遺物観察表

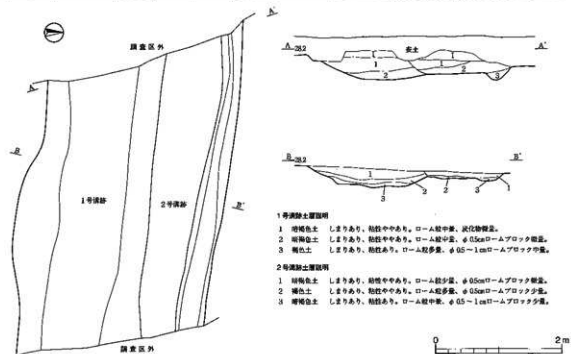
番号	遺物	形状	寸法	数量	材質	特徴	位置	説明
1	縄文土器	深鉢	<15.2>	(82)	石英・長石 白磁器・金銅器	外-5YR6/6 橙 内-7.5YR1.7/1 黒	やや中央	外面：LⅡ基筋縄文を施文後、渦巻文・蛇行波線・波じ字状文を施す。 内面：ミガキ 大木Sa・b
2	縄文土器	深鉢	<8.5>	72	石英・長石・チャート 白磁器	外-5YR6/6 橙 内-7.5YR2/1 黒	やや中央	外面：LⅡ基筋縄文を施文。 内面：ナゲ。 加曾利 EⅠ
3	縄文土器	深鉢	<11.7>	(96)	石英・長石・白磁器	外-5YR6/6 橙 内-7.5YR3/1 黒褐	やや中央	外面：RⅠ基筋縄文を施文。底部付近ミガキ。 内面：ミガキ。 加曾利 EⅠ
4	縄文土器	深鉢	<8.8>	—	石英・長石・白磁器	外-7.5YR6/4 に近い橙 内-10YR5/2 灰黄褐	やや中央	外面：LⅡ基筋縄文を施文後、蛇行波線とミガキの縞文を施す。 内面：ナゲ。 加曾利 EⅠ

第2節 溝跡 (第11図)

坂田台山古墳で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。遺物は流れ込みとみられる縄文時代の遺物が中心で、わずかに陶器片が確認されたが、明確に時期決定・掲載できる遺物はみられなかった。

表3 溝跡一覧表

溝跡番号	位置	方位	長さ	幅	深さ	遺物	時期	備考
1号溝	I 3	N - 83° - W	2.11	1.07	0.41	縄文土器・陶磁器	中・近世?	2号溝と重複。2号溝より古い。
2号溝	I 3	N - 83° - W	1.2	0.95	0.26	縄文土器・陶磁器	中・近世?	1号溝と重複。1号溝より新しい。底面が一部硬化しており、道路跡と考えられる。



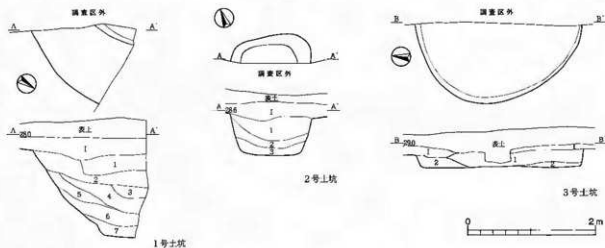
第11図 1・2号溝跡

第3節 土坑 (第12・13図)

坂田台山古墳で確認された土坑は3基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。いずれも出土遺物から縄文時代に属するとみられるが、2・3号土坑は小片が多く、掲載遺物はない。

表4 土坑一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	長軸方位	規模 (m)		深さ (m)	平面 形状	遺物	時期	備考
			長軸×短軸	深さ					
1号土坑	I 3	N・2°・W	1.66×1.32	1.4	1.4	円形	縄文土器・石鏡	縄文時代中期後半	障し穴。
2号土坑	L 3	N・66°・W	1.25×(0.48)	0.61	0.61	方形	縄文土器	縄文時代	
3号土坑	J 4	N・6°・W	2.6×(1.3)	0.22	0.22	円形	縄文土器	縄文時代	



1号土坑土層説明

- 褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量
灰白物散在。障し穴あり。
- 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック多量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5cmロームブロック少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-2cmロームブロック多量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。11-A粒少量。φ0.5-2cmロームブロック多量。

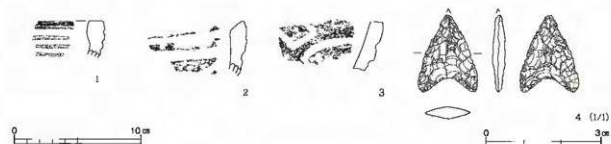
2号土坑土層説明

- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5cmロームブロック少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- にがい しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
褐色土

3号土坑土層説明

- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5-1cmロームブロック多量。

第12図 1～3号土坑



第13図 1号土坑出土遺物

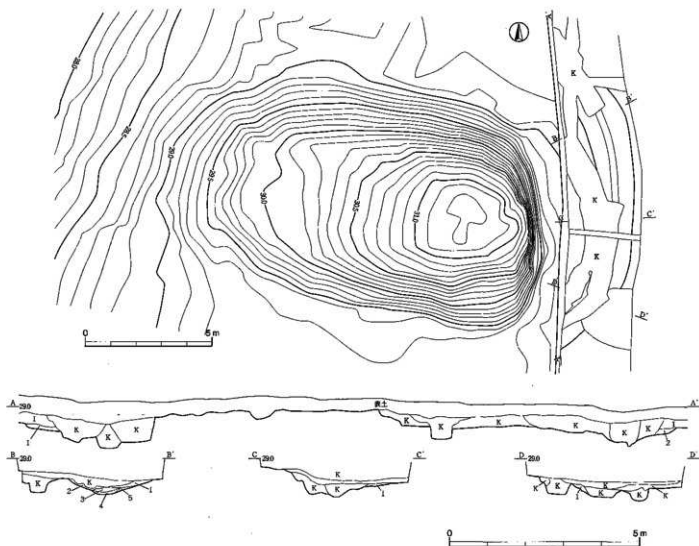
表5 1号土坑出土遺物観察表

No.	種別	器種	質量 (cm)			胎土	色別	変成	成・彫形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<29>	—	石英・長石 白雲母・金雲母	5YR5/4 に近い赤褐色	やや白	外面：平行波線が施され、波線間 は斜交波線が施される。 内面：十字。	加賀利 II Ⅱ
2	縄文土器	深鉢	—	<13>	—	石英・長石・金雲母	7.5YR7/4 に近い黄褐色	白	外面：波線で文様を施す。 内面：1.5g。	加賀利 II Ⅱ
3	縄文土器	深鉢	—	<38>	—	石英・長石・金雲母	7.5YR5/6 位	白	外面：波線をわずかに帯び、 内面：1.5g。	加賀利 II Ⅱ
No.	種別	器種	質量 (cm)			厚さ (g)	成・彫形技法の特徴		備考	
		長さ		幅	厚さ					
4	石鏡品	打製石鏡	<29>	1.6	0.3	0.7%	磨製。先端部欠損。チャートを使用。			

第4節 古墳 (第14図)

調査区の西に位置している古墳は坂田台山古墳群の一つとして確認されている屋敷付古墳 (別称:塚山古墳) で、墳丘の東側は削平されており当時の様子を窺い知ることは出来ない。現在は雑木林である。屋敷付古墳は1964年 (昭和39年) に国学院大学と土浦第二高等学校によって主体部の調査が行われている。当時の調査によって、古墳の規模は約20×10mを測り、円墳または前方後円墳とされている。埋葬施設は箱式石棺で、石棺内の側面は赤彩が認められた。確認された人骨は推定5体分で、副葬品は直刀4・刀子2・鉄族26・鉄環2が出土している。埴輪は確認されておらず、出土遺物・埋葬方法から7世紀に築造されたものと考えられている。出土遺物は現在、土浦第二高等学校と国学院大学にて保管されている。

今回の調査区は古墳の東側を南北に横断する形で設定された。掘り下げを行った結果、周溝が一部確認されたが、字界のために掘られたとみられる溝が裾部と周溝を破壊し、正確な周溝の幅を確認することは出来なかった。わずかに確認された周溝は、上端幅21m、下端幅0.5m、深さ42cmを測る。覆土中から出土した遺物は攪乱によって混入した近現代の陶器片や金属片に加え、流れ込みとみられる縄文土器片が主体で、古墳築造期を示す遺物はほとんど出土しなかった。また、主体部調査時以来行われていなかったコンター図の作成を再度行ったが、墳丘の形状を特定することは出来なかった。



第14図 屋敷付古墳・1号周溝

土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5~2cmロームブロック少量。

土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5~2cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。

土層説明 (C)

- 1 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。

土層説明 (D)

- 1 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。

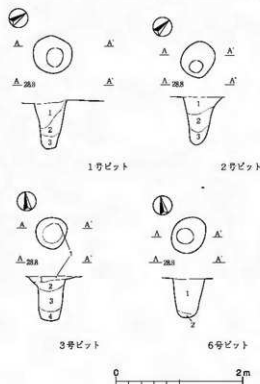
第5節 ビット (第15・16図)

坂田台山古墳で確認されたビットは7基である。位置・規模などの詳細は一覧表にて記載した。1号ビットから5号ビットは密集しており、当初は建物跡を想定したが、明確に組めるものはなかった。遺物の出土は少なく、3号ビットより出土した遺物のみ掲載する。出土遺物から3号ビットは縄文時代中期中葉に属するとみられる。

表6 ビット一覧表

遺物名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形態	備考
1号ビット	K3	0.62×0.6	0.81	円形	
2号ビット	K3	0.58×0.53	0.81	円形	
3号ビット	K3	0.5×0.48	0.75	円形	
4号ビット	L4	(0.63)×0.6	0.68	円形	

遺物名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形態	備考
5号ビット	K4	0.52×0.52	0.37	円形	
6号ビット	L3	0.58×0.5	0.61	円形	
7号ビット	J3	0.39×0.37	0.49	円形	



第15図 1~3・6号ビット

1号ビット土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。

2号ビット土層説明

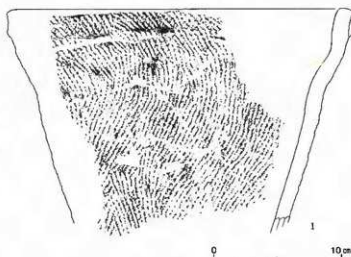
- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームブロック少量。

3号ビット土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5~1cmロームブロック少量。

6号ビット土層説明

- 1 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。



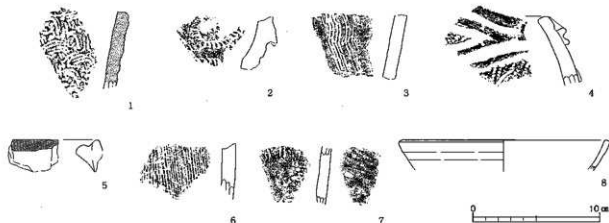
第16図 3号ビット出土遺物

表7 3号ビット出土遺物観察表

No.	採り	図録	位置			出土	色調	形状	成・製法の特徴	備考
			グリッド	緯度	経度					
1	縄文土器	漆器	(26)	<17>	—	石英・黒石・白雲母	外径7.7x6.6mm 内径7.5x7.4mmに近い	やや凸	内側：少し厚部縄文を画入。 内面：口縁部をぎく。縁部ナガ。	阿玉台印

第6節 遺構外出土遺物

坂田台山古墳群の調査で、遺構外より出土した遺物の中から8点を掲載する。遺構が確認されている縄文時代中期の土器に加えて、前期の土器もわずかに確認された。円筒埴輪とみられる小片も出土しているが、今回の調査区に隣接する屋敷付古墳は埴輪を有していないため、調査区の周囲で埋滅してしまった古墳のものと考えられる。須恵器や土師質土器も確認されたが、出土遺物の主体は縄文土器である。



第17図 遺構外出土遺物

表8 遺構外出土遺物観察表

番号	遺物名	素材	寸法	特徴	出土層	観察内容	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・白雲母・繊維 外—10YR6/2 灰黄緑 内—10YR6/4 に近い黄緑	やや良 外蓋：羽状縄文を施す。 内蓋：ヒダキ。	黒浜
2	縄文土器	深鉢	—	<4.7>	—	石英・長石・白雲母・ 金雲母 外—7.5YR4/1 暗灰 内—5YR5/5 明赤黄	やや良 外蓋：隆帯形付後、隆帯の周囲に 竹管による角形文を施す。 内蓋：ナデ。	阿玉台
3	縄文土器	深鉢	—	<5.1>	—	石英・長石・チャート・ 白雲母 外—5YR5/5 橙 内—10YR6/4 に近い黄緑	良 外蓋：楕圓状工具による隆帯文を 施す。 内蓋：ナデ。	阿玉台
4	縄文土器	深鉢	—	<5.5>	—	石英・長石・白雲母・ 金雲母 外—7.5YR5/5 橙 内—5YR5/5 橙	良 外蓋：L 文基盤縄文を施した後、隆 帯を附付け、文様帯を区画。 内蓋：ナデ。	加曾崎 E 1
5	縄文土器	鉢	—	<2.6>	—	石英・長石・白雲母 外—2.5YR4/5 赤黒 内—10YR6/4 に近い黄緑	良 外蓋：口唇部・外蓋に赤帯。 内蓋：ケズリ。	加曾崎 E 1
6	埴輪片	(円筒)	—	<4.5>	—	石英・黒色粒・赤色粒 7.5YR6/6 橙	やや良 外蓋タテハケ。内蓋ナデ。	
7	須恵器	壺	—	<4.5>	—	石英・長石 5Y5/1 灰	良 外蓋平行印奇、ヘワケズリ。内蓋 ヘワナデ。	
8	土師質土器	皿	(16.6)	<2.3>	—	赤色粒 6YR5/5 橙	良 楕圓盤形。	

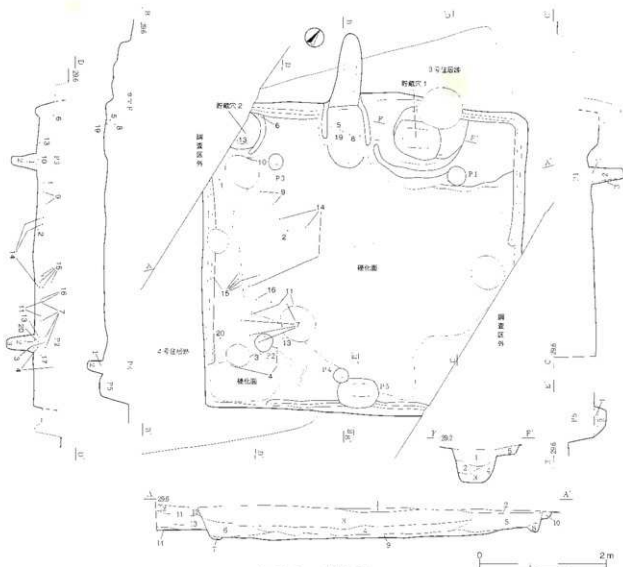
第5章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の調査は平成23年12月21日～平成24年3月13日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡14軒、溝16条、土坑27基、井戸1基、地点貝塚2ヶ所、建物跡、ピット35基を数える。

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡（第18～22図）

位置 E9・10、F9・10グリッドに位置している。規模 南北4.90m×東西5.04mの方形。重複関係出土遺物・土層の観察から、3・4号住居跡より新しい。主軸方位 N・33°・W。壁 壁高は33cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。カマド東側の貯蔵穴周辺は床面が15cmほど高く、いわゆる棚状施設に分類されるものと考えられる。壁周溝が巡るが一部途切れる。貯蔵穴 カマドの両脇と住居南壁際（P5）で検出している。貯蔵穴1は東西幅が長い長方形で2段掘りになっており、上段幅は80cm×112cm、下段幅は55cm×76cmで、深さは54cmである。貯蔵穴2は一部調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、60cm×東西40cm以上である。深さは28cmで、貯蔵穴2



第18図 1号住居跡

- 1号住居跡上層説明 (A)
- 1 暗褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒多量、φ0.5~2cm中量、炭化物微量。
 - 2 黒褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5ロームブロック少量。
 - 3 暗褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 4 黒褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5~2cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 5 暗褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 6 暗褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 7 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 8 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒中量、φ0.5~1cmロームブロック少量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 9 黒褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量、炭化物中量。
 - 10 暗褐色土 しりりあり、粘性ややあり、ローム粒多量、φ0.5cmロームブロック多量、3号住居跡層土。
 - 11 2号褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒中量、炭化物あり込み。
 - 12 黒褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、4号住居跡層土。
 - 13 黒褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~2cmロームブロック少量、4号住居跡層土。
 - 14 2号褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量、4号住居跡層土。

- 1号住居跡P4土層説明 (B)
- 1 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量。
 - 2 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック多量。

- 1号住居跡P1土層説明 (C)
- 1 黒褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 2 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~3cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 3 切羽褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~3cmロームブロック多量、炭化物微量。

- 1号住居跡P3土層説明 (D)
- 1 2号褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 2 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック多量。

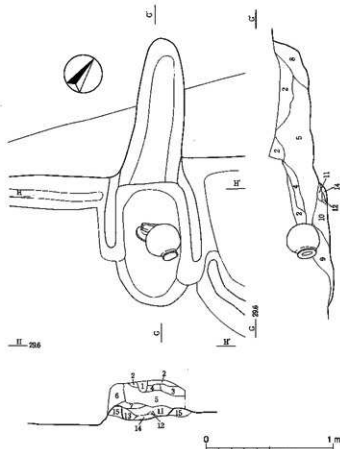
- 1号住居跡P2土層説明 (D)
- 1 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 2 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~2cmロームブロック多量。
 - 3 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~2cmロームブロック多量。

- 1号住居跡P5土層説明 (E)
- 1 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 2 褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~2cmロームブロック中量。

- 1号住居跡P6土層説明 (F)
- 1 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 2 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 3 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~3cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 4 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒大量、φ0.5~1cmロームブロック多量、炭化物微量。
 - 5 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒大量、φ0.5~1cmロームブロック多量、炭化物微量。

- 1号住居跡P7土層説明 (F)
- 1 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒多量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量、炭化物塊あり。
 - 2 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 3 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒少量、φ0.5~3cmロームブロック中量、炭化物微量。
 - 4 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒大量、φ0.5~1cmロームブロック多量、炭化物微量。
 - 5 暗褐色土 しりりあり、粘性あり、ローム粒大量、φ0.5~1cmロームブロック多量、炭化物微量。

- 1号住居跡P8土層説明 (G・H)
- 1 褐色土 しりり強い、粘性やや強い、細砂ブロック、ホドア天用層粘土少量。
 - 2 暗褐色土 しりり強い、粘性やや強い、ローム粒多量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物中量、φ0.5~1cm粘土ブロック中量。
 - 3 暗褐色土 しりり強い、粘性やや強い、ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物少量、φ0.5~1cm粘土ブロック少量。
 - 4 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物中量、φ0.5~1cm粘土ブロック少量、炭化物少量。
 - 5 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5~1cm粘土ブロック少量、炭化物少量。
 - 6 2号褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5~1cmロームブロック少量、炭化物少量、炭化物塊あり。
 - 7 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物少量。
 - 8 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5cm粘土ブロック少量、炭化物少量。
 - 9 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、φ0.5~1cmロームブロック中量、炭化物少量。
 - 10 暗褐色土 しりり強い、粘性やや強い、ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物少量。
 - 11 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物少量、炭化物塊あり。
 - 12 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒中量、φ0.5cmロームブロック少量、炭化物少量、炭化物塊あり。
 - 13 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒中量、炭化物少量、炭化物塊あり。
 - 14 暗褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、炭化物少量、炭化物塊あり。
 - 15 褐色土 しりり強い、粘性ややあり、ローム粒少量、炭化物少量、細砂ブロック、ホドア天用層粘土少量。

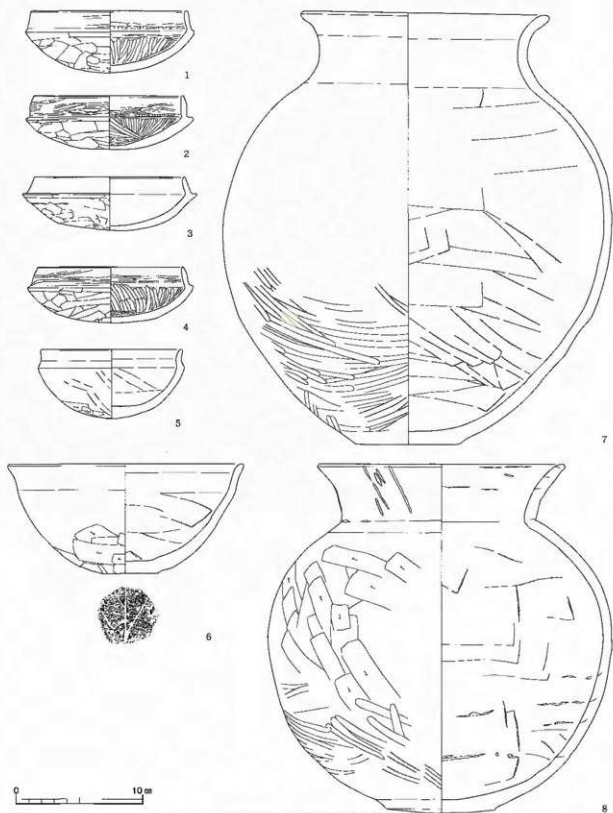


第19図 1号住居跡カマド

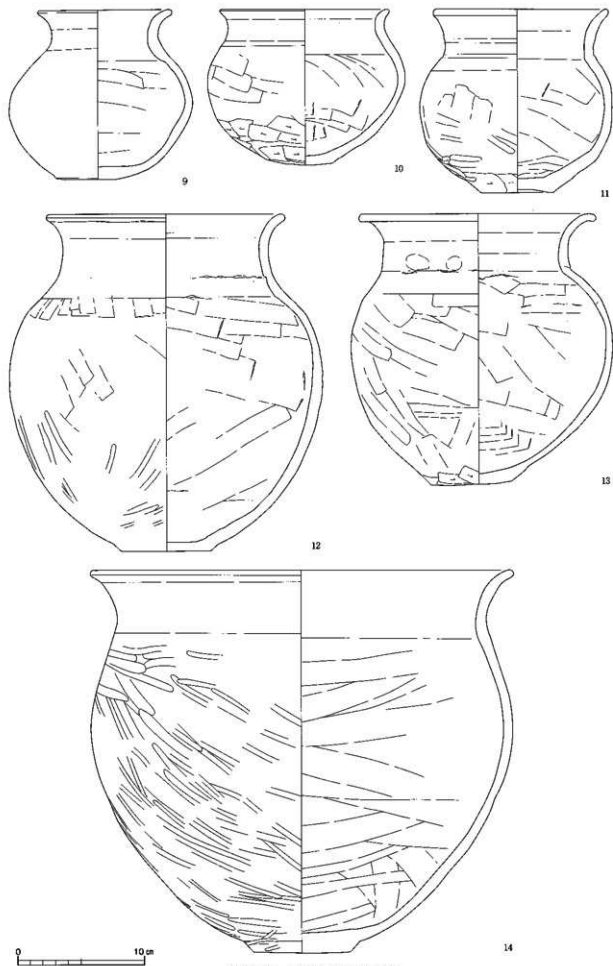
の東側は周堤状の高まりが存在している。カマド 北壁中央やや西寄りであり、袖部はそのほとんどが壊れ、基部が残っている程度であった。燃焼部と煙道部との間には段差があり、煙道部は緩やかに立ち上がっている。ピット 床面上では複数のピットが検出されたが、その半数は重複する3・4号住居のもので、1号住居に属するピットは5基である。P1:30×29cm、深さ44cm。P2:28×28cm、深さ39cm。P3:25×23cm、深さ24cm。P4:22×25cm、深さ24cm。P5:46×65cm、深さ19cm。柱穴になるものはP1~P3で、検

出できなかった南東部の柱穴は調査区外にあるとみられる。P4は位置的に出入り口ピットであるとみられる。

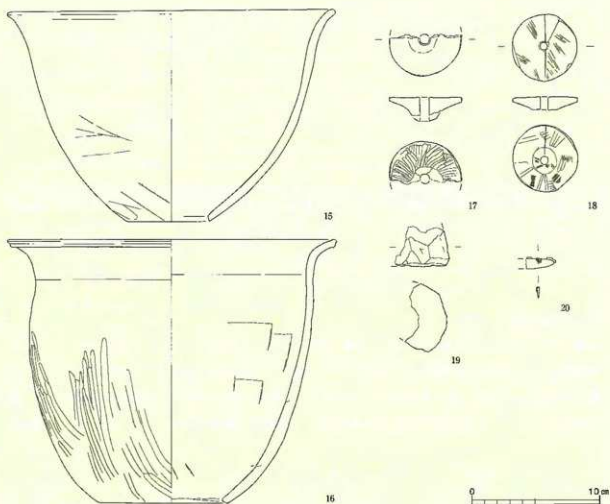
覆土 自然堆積である。遺物 遺物の出土には偏りがあり、住居の西側に集中して個体となる遺物が大量に出土している。しかし、床面直上から出土した遺物少なく、多くは覆土中層から下層にかけてである。カマド内燃焼部からは折れた状態の支脚(19)と逆位の坏(5)が壺(8)の直下で確認された。また、貯藏穴中から目立った遺物の出土はみられなかった。所見 出土遺物、住居の形態から6世紀中～後葉に属する。



第20図 1号住居跡出土遺物



第 21 图 1 号住居跡出土遺物



第22図 1号住居跡出土遺物

表9 1号住居跡出土遺物観察表

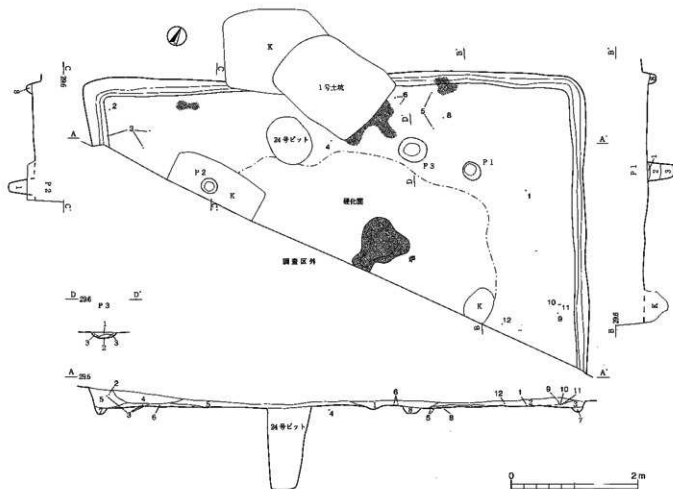
No	種類	形状	寸法 (cm)			胎土	色調	焼成	点・変形技法の特徴	備考
			口径	深高	底径					
1	土鉢器	坏	125	4.9	—	石英・白雲母	75YR6/4 に近い黄	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナガ。ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。	
2	土鉢器	坏	120	4.3	—	石英・白雲母	25YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。 内面：ヘラミガキ。	
3	土鉢器	坏	120	4.3	—	石英・白雲母・薄層骨針	75YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後ヘラナガ。 内面：ナガ。	
4	土鉢器	坏	116	4.4	—	石英・炭石・白雲母	外：10YR4/2 灰黄褐 内：10YR2/2 黒褐	良	外面：口縁部ヨコナガ後ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナガ後ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。	外面内面 灰色変質
5	土鉢器	坏	113	5.5	—	石英・炭石・白雲母	外：75YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、上半ナガ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	カマド内 出土
6	土鉢器	鉢	187	8.7	5.4	石英・炭石・白雲母	10YR6/4 に近い黄橙	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、上半ナガ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	底部 木炭痕
7	土鉢器	甕	197	34.2	8.2	石英・炭石・白雲母	10YR6/3 に近い黄橙	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部下半ヘラミガキ。上半ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	
8	土鉢器	甕	196	27.7	8.6	石英・炭石・白雲母	10YR6/4 に近い黄橙	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、下半ヘラミガキ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	カマド内 出土
9	土鉢器	甕	106	13.6	6.5	石英・炭石・白雲母	25YR6/6 橙	やや良	外面：口縁部ヨコナガ。底部唇部厚縁。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	
10	土鉢器	甕	134	12.3	5.2	石英・炭石・白雲母	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR4/2 灰黄褐	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、上半ヘラナガ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	
11	土鉢器	甕	136	14.6	5.5	石英・炭石・白雲母	75YR5/6 明黄	良	外面：口縁部ヨコナガ。底部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ。上半ヘラナガ。 内面：口縁部ヨコナガ。底部ヘラケズリ。	

12	土師器	壺	(184)	26.8	(7.0)	石英・長石・白雲母	外：5YR5/6 明赤褐色 内：10YR6/4 に近い黄褐色	良	外周：口縁部ココナダ。底部下平ヘラケズリ後ヘラミガキ。上平ヘラナダ。 内周：口縁部ココナダ。底部ヘラナダ。
13	土師器	壺	188	21.5	6.4	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 橙	良	外周：口縁部ココナダ。底部下平ヘラケズリ。上平ヘラナダ。底部ヘラナダ。 内周：口縁部ココナダ。
14	土師器	壺	(33.5)	30.3	7.6	石英・白雲母	外：10YR5/3 に近い黄褐色 内：10YR3/1 黒褐色	良	外周：口縁部ココナダ。底部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内周：口縁部ココナダ。底部ヘラナダ。
15	土師器	瓶	25.5	16.8	6.4	石英・長石	5YR7/6 橙	やや良	外周：底部下平ヘラケズリ・ヘラナダ。 内周：砂面塗。
16	土師器	瓶	26.0	23.0	10.0	石英・長石・白雲母	10YR5/4 に近い黄褐色	良	外周：口縁部ココナダ。底部ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内周：口縁部ココナダ。底部ヘラナダ。

17	土師品	紡輪草	直径 5.7	孔径 0.7	1.9	26.77	ミガキ表面。石英・長石・白雲母を含む。		
18	土師品	紡輪草	直径 5.2	孔径 0.6	1.5	30.04	両方向からの研孔。全面研輪。		
19	土師品	文庫	<2.8>	5.4	—	99.38	表面ケズリ。破損により厚くなっている。石英・長石・白雲母を含む。		カマド内出土
20	土師品	刀子	(2.5)	0.8	0.2	1.1	木質付着。		

2号住居跡 (第23・24図)

位置 F 10 グリッドに位置している。規模 南北 4.75 m 以上×東西 7.81 m で、方形になるとみられる。重複関係 出土遺物・土層の観察から、24号ピットより新しく、1号土坑より古い。主軸方位 N・27°・W。壁 壁高は 31cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。一部 1号土坑と攪乱によって破壊されている。床はほぼフラットで、一部攪乱を受ける。壁周溝が巡る。貯蔵穴 確認できなかった。ピット 3基確認。



第23図 2号住居跡

2号住居跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05cmロームブロック少量。炭十粒少量。内包層少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05-1cmロームブロック少量。炭土粒少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05-1cmロームブロック少量。炭土粒少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05-1cmロームブロック少量。φ05-1cm炭土ブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05-1cmロームブロック少量。
- 6 暗褐色土 しまり強い、粘性やや弱い。ローム粒少量。φ05cmロームブロック少量。白灰細砂少量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05cmロームブロック少量。炭土粒少量。
- 8 P3層土

2号住居跡P1土層説明 (B)

- 1 暗褐色 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05cmロームブロック少量。炭土粒少量。内包層少量。
- 2 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05-1cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05-1cmロームブロック中量。

2号住居跡P2土層説明 (C)

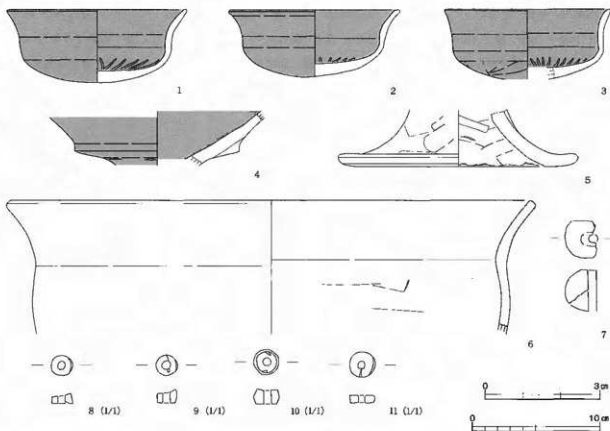
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ05-1cmロームブロック中量。

2号住居跡P3土層説明 (D)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05-1cmロームブロック中量。炭土粒中量。φ05cm炭土ブロック少量。白灰細砂少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05cmロームブロック少量。炭土粒少量。白灰細砂少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。炭土粒少量。白灰細砂少量。砂層。

P 1 : 25 × 25cm、深さ 42cm。P 2 : 30 × 27cm、深さ 29cm。P 3 : 40 × 45cm、深さ 18cm。P 1・2 は柱穴である。P 3 は浅いピットであるが、セクションで確認したところ、覆土中に白色細砂が混入した層を確認した。

炉 住居が方形であった場合、住居中央やや北寄りに位置している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土し、その多くが柱穴の外側で確認されている。円玉 4 点は住居東側で確認されたもので、いずれも床面直上からの出土である。所見 出土遺物、住居の形態から 6 世紀前～中葉に属する。



第 24 図 2号住居跡出土遺物

表 10 2号住居跡出土遺物観察表

No.	種類	器様	寸法 (cm)			胎土	色調	焼成	底・整形残存の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	土師器	杯	142	5.7	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6 赤褐色	良	外底: L線部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、ナデ。	赤彩
2	土師器	杯	(13.5)	5.3	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6 赤褐色	良	外底: L線部ヨコナガ。底部器底厚薄。内底: L線部ヨコナガ。底部放射状腐文。	赤彩
3	土師器	杯	13.0	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6 赤褐色	良	外底: L線部ヨコナガ。底部ヘラケズリ後、ヘラケナデ。	赤彩
4	土師器	高杯	—	<4.4>	—	石英・長石・白雲母	25YR4/6 赤褐色	良	内底: ナデ。底部放射状腐文。	赤彩

5	土器器	高坏	—	<15>	(19.0)	石英・長石・白雲母	5YR5/6 明赤褐	良	外面：緑部ヘラナダ。 内面：ヘラナズリ、ヘラナダ。
6	土器器	甕	(41.6)	<10.6>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/6 明黄褐	良	外面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラナダ。 内面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラナダ。
7	土製品	土瓦	直径 14.0	孔径 0.6	<27>	13.8	ナダによる整形。石英を含む。		
8	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.3	0.07	全面研磨。一方からの穿孔。		
9	石製品	白玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.4	0.14	全面研磨。一方からの穿孔。		
10	石製品	白玉	直径 0.7	孔径 0.2	0.4	0.27	全面研磨。一方からの穿孔。		
11	石製品	白玉	直径 0.7	孔径 0.2	0.2	0.17	全面研磨。一方からの穿孔。		

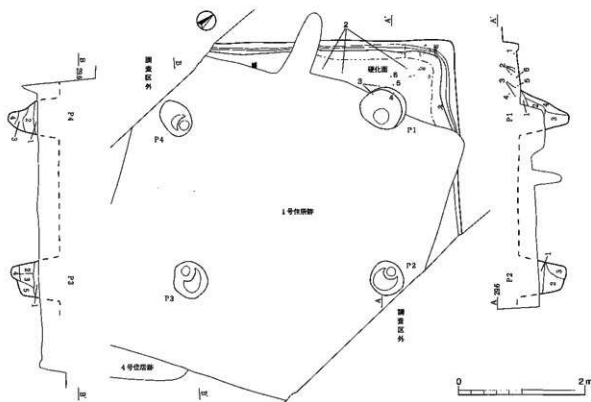
3号住居跡 (第25・26図)

位置 E9・10、F9・10に位置している。規模 南北3.05m以上×東西3.7m以上の方形であるとみられる。

重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。4号住居跡とも若干の重複があったとみられるが、1号住居跡によって重複箇所が破壊されてしまっているため、4号住居跡との新旧関係は不明である。主軸方位 N-52°-W。壁 壁高は26cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。床 フラットで、壁間溝が巡る。

貯蔵穴 確認できなかった。ピット 4基確認。P1:66×72cm、深さ78cm。P2:55×52cm、深さ45cm。P3:60×54cm、深さ44cm。P4:55×50cm、深さ46cm。いずれも柱穴である。炉 確認できなかった。

覆土 自然堆積とみられる。遺物 覆土上層～下層にかけて出土したが、一部の遺物は1号住居跡の覆土中に混入しており、接合関係が認められた遺物も確認している。所見 出土遺物、住居の形跡から4世紀前半代に属するとみられる。



3号住居跡P1土層説明 (A)

- 1 緑褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-3cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-5cmロームブロック少量。

3号住居跡P2土層説明 (A)

- 1 緑褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック多量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-4cmロームブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック中量。

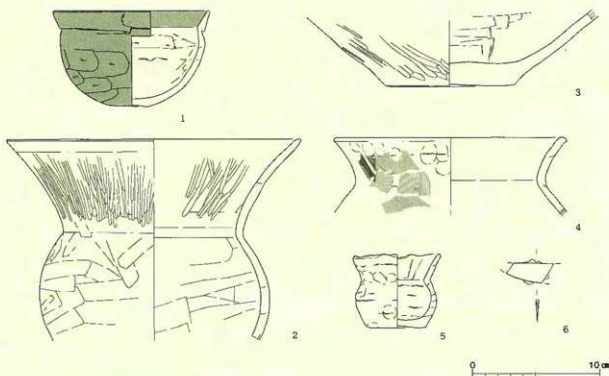
第25図 3号住居跡

3号住居跡P3土層説明(西)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-2cmロームアブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-2cmロームアブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームアブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5-1cmロームアブロック中量。
- 5 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-3cmロームアブロック多量。

3号住居跡P4土層説明(東)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5-1cmロームアブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームアブロック中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5-1cmロームアブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5cmロームアブロック少量。



第26図 3号住居跡出土遺物

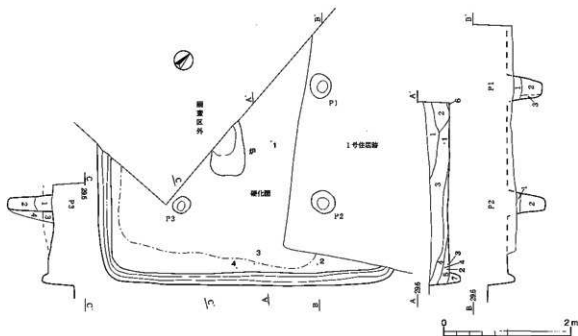
表11 3号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	形状	寸法 (cm)			土質	色調	形状	成・発掘状況の特徴	備考
			口径	容高	底径					
1	土師器	碗	12.3	7.6	2.8	石英・灰石・白雲母	7SYR6/6 橙	良	外面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナズリ。	外周赤筋
2	土師器	皿	23.2	<16.0>	—	石英・灰石・白雲母	10YR7/4 明黄緑	良	外面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナズリ。 内面：口縁部ヘラミダキ。底部ヘラナズリ。	
3	土師器	皿	—	<6.0>	10.3	石英・灰石・白雲母	外：10YR6/6 明黄緑 内：10YR7/4 に近い黄緑	やや良	外面：底部ヘラミダキ。底部付近ヘラナズリ。 内面：底部ヘラナズリ。	
4	土師器	壺	(18.4)	<6.2>	—	石英・灰石・白雲母	10YR6/6 明黄緑	やや良	外面：口縁部ヨコナデ。加須溝。 内面：口縁部ヨコナデ(厚縁)。	
5	土師器	ミニチュア土器	6.9	5.8	4.4	石英・灰石・白雲母	7SYR6/6 橙	良	外面：底縁溝。 内面：口縁部ヘラナズリ。底部底縁溝。	
No.	種別	形状	寸法 (cm)			重量 (g)	厚さ	成・発掘状況の特徴	備考	
			長さ	幅	厚さ					
6	鉄製品	刀子	<3.9>	1.6	0.1	308				

4号住居跡(第27図)

位置 F9・10グリッドに位置している。規模 南北2.25m以上×東西4.7mの方形であるとみられる。唯一残存している南西コーナーはやや丸味を帯びている。重複関係 出土遺物・土層の観察から1号住居跡より古い。主軸方位 N・45°・W。壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、貼り床が施してあるが、一部根による攪乱を受ける。貯蔵穴 確認できなかった。ピット 3基確認。P1:40×34cm、深さ44cm。P2:35×37cm、深さ46cm。P3:25×28cm、深さ69cm。いずれも柱穴である。炉 住居中央部やや西寄り確認している。90cm以上×55cmの南北に長い楕円形を呈し、中心部分の火床

面は硬化している。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、その多くは小片で、全体的な出土量も少なかった。個体になるようなものは住居の南壁に沿うような形で出土した。所見 出土遺物、住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



4号住居跡土層説明 (A)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、 ϕ 0.5cmロームブロック微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-2cmロームブロック微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック少量。
粘土粘層あり。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-2cmロームブロック少量。
- 5 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5cmロームブロック少量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック中量。

4号住居跡P1土層説明 (B)

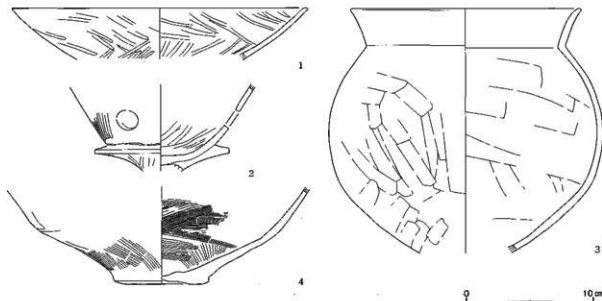
- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-2cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-2cmロームブロック多量。
- 3 赤色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック中量。

4号住居跡P2土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-3cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、 ϕ 0.5cmロームブロック中量。

4号住居跡P3土層説明 (C)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック中量。
- 3 赤褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量、 ϕ 0.5-1cmロームブロック中量。
腐り深。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、 ϕ 0.5-2cmロームブロック中量。



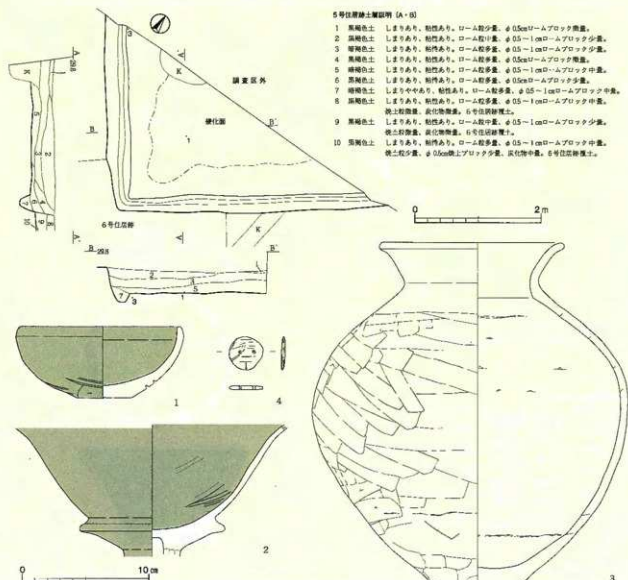
第27図 4号住居跡・4号住居跡出土遺物

表12 4号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	特徴	寸法 (cm)			胎土	色調	焼成	産・製法技術の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土製器	高坪	(11.7)	<4.1>	—	石美・灰石・白雲母	外：TSYRS/冷明焼 内：10YR5/4黄焼	真	外面：ヘラケズリ後、ヘラミガキ。 内面：ヘラミガキ。	
2	土製器	脚台	—	<6.9>	—	石美・灰石・白雲母	10YR5/6明黄焼	やや真	外面：体部ヘラミガキ。底部穿孔3箇所。 内面：ヘラミガキ。	
3	土製器	壺	(18.2)	<6.0>	10.3	石美・チャート	外：10YR5/2灰黄焼 内：10YR6/4にぶい黄焼	やや中真	外面：口縁部ヨコナダ。体部ヘラナダ。 内面：口縁部ヨコナダ。体部ヘラナダ。	
4	土製器	壺	—	<7.7>	7.5	石美・灰石・白雲母	外：5YR5/4にぶい赤黄焼 内：10YR5/3にぶい黄焼	やや中真	外面：体部ヘラケズリ。底部付定タテハケ。 内面：ヨコハケ。	

5号住居跡 (第28図)

位置 F8グリッドに位置している。規模 南北31m以上×東西42m以上の方形であるとみられる。重複関係 出土遺物・土層の観察から6号住居跡より新しい。軸方位 N・35°・W。壁 壁高は42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面が確認できた。また、一部脱乱を受けてる。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土したが、個体になるものは少ない。住居北西部の床面直上からはほぼ完形の壺(3)が1点出土している。所見 出土遺物、住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



- 5号住居跡土層説明 (A・B)
- 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5cmロームブロック散在。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5cmロームブロック中量。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック中量。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5cmロームブロック中量。
 - 黒褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック中量。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック中量。
 - 黒褐色土 土層間隙。表化物散在。ローム粒少量。しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック少量。粘土粒少量。粘土塊少量。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック中量。焼土粒少量。φ0.5cm焼土ブロック少量。灰化物中量。6号住居跡土。
 - 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-1cmロームブロック中量。焼土粒少量。φ0.5cm焼土ブロック少量。灰化物中量。6号住居跡土。

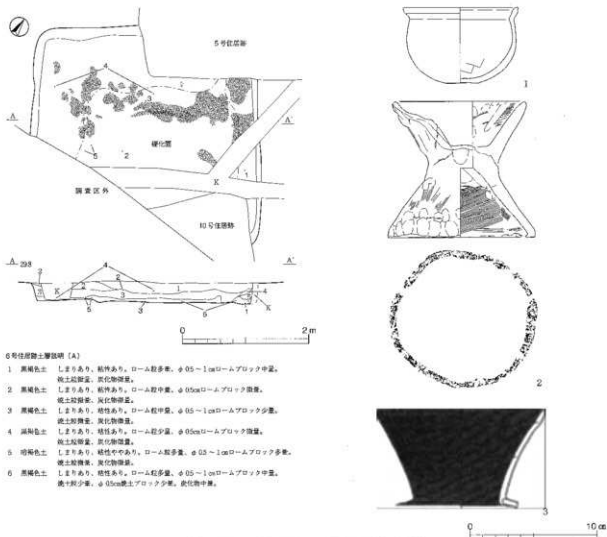
第28図 5号住居跡・5号住居跡出土遺物

表 13 5号住居跡出土遺物観察表

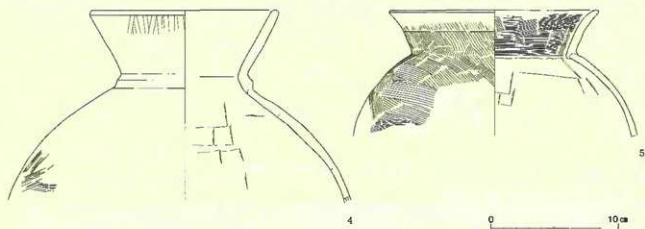
品名	数量	規格	材質	特徴	備考	写真			
土器器	碗	(121)	5.7	4.8	石英・長石・白磁粒	5YR5/6割漆黒	良	外面：白磁部コナダ。各器部底面成。 手平ヘラタズリ、キザシ。 内面：白磁部コナダ。各器部底面成。	赤影
土器器	高坪	—	<104>	—	石英・長石・白磁粒	5YR6/6割漆黒	やや良	外面：体部ヘラミゼキ。 内面：ヘラミゼキ。	赤影
土器器	盤	(146)	27.1	7.8	石英・長石・白磁粒	10YR6/6割漆黒	良	外面：白磁部コナダ。体部ヘラタズリ 後、上平ヘラナダ。 内面：白磁部コナダ。体部ヘラナダ。	
石製品	双孔円盤	直径 35	孔径 0.15	0.4	7.07	全面研削。一方向からの穿孔。			

6号住居跡 (第 29・30 図)

位置 F 8 グリッドに位置している。規模 3.5 × 3.5 m の方形の住居である。重複関係 出土遺物・土層の観察から 5・10号住居跡より古い。軸方位 N - 35° - W。壁 壁高は 31cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。床 はほぼフラットである。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。覆土下層では焼土が多量に確認され、炭化物・炭化材も確認された。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土した。所見 出土遺物、住居の形態から 4 世紀前半代に属するとみられる。また、覆土中で確認された焼土・炭化材から焼失家屋であるとみられるが、屋根部材となる炭化材は圧倒的に少ない。



第 29 図 6号住居跡・6号住居跡出土遺物



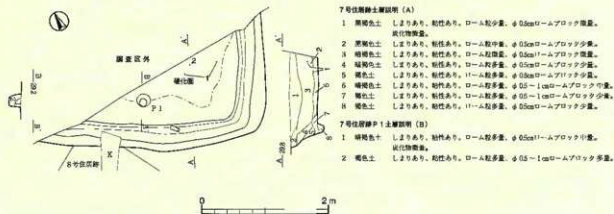
第30図 6号住居跡出土遺物

表14 6号住居跡出土遺物観察表

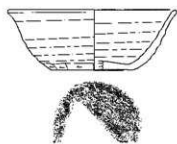
No.	種類	形状	長さ (cm)			胎土	色調	焼成	文・彫技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	甗	91	60	25	白雲母・白色粒	SYR6/6度	良	外面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラケズリ後、丁字ナナデ。 内面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラケズリ後、ヨコナダ。	
2	土師器	煎餅器台	(102)	108	117	石灰・長石・白雲母	SYR5/6明赤焼	良	外面：口縁部ヘラミギキ。底部タテハケ、流部付近縁縁線。 内面：台部ヘラケ後、ナデ。煎餅器ヨコナダ。提出品。	台部と脚部に穿孔はない。
3	土師器	壺	133	<7.8>	—	石灰・長石・白雲母	SYR4/6赤焼	良	外面：口縁部ヘラミギキ。 内面：口縁部ヘラミギキ。	赤影
4	土師器	壺	149	<15.3>	—	石灰・長石・白雲母	SYR5/6明赤焼	やや良	外面：口縁部ヘラミギキ。底部縁線。 内面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラケナデ。	外側赤影
5	土師器	壺	(166)	<10.0>	—	石灰・長石・白雲母	SYR5/6明赤焼	良	外面：口縁部タテハケ後、ヨコナダ。底部タテハケ・ヨコハケ。 内面：口縁部ヨコナダ。底部ヘラケナデ。	

7号住居跡 (第31・32図)

位置 F8グリッドに位置している。規模 南北22m以上×東西3.6m以上の方形であるとみられる。重複関係 出土遺物から8号住居跡より新しい。主軸方位 N・29°・E。壁 壁高は44cmで、緩やかに立ち上がる。一部攪乱を受ける。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。ピット 1基確認している。P1: 18×21cm、深さ19cm。住居の南壁際で確認していることから、出入口ピットであるとみられる。カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。一部攪乱を受ける。遺物 覆土上層～下層にかけて出土した。所見 出土遺物と住居の形態から、8世紀後葉～9世紀前葉に属するとみられる。



第31図 7号住居跡



第32図 7号住居跡出土遺物

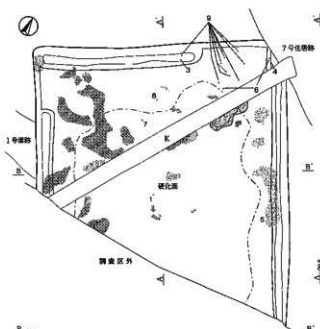


表15 7号住居跡出土遺物観察表

品番	形状	寸法	材質	特徴	備考		
1	碗片	133 × 48	63	石英・長石・白雲母	2STR6/2秋実	裏	外面：ロタロ型製。底部下層へラケズリ。底部へラケズリ。内面：ロタロ型製。
2	板	—	<2>	—	2STR6/2秋実	裏	外面：ナデ。内面：ナデ。

8号住居跡 (第33・34図)

位置 F7・8グリッドに位置している。規模 南北455m以上×東西40mの長方形の住居である。主軸方位 N・30°・W。重複関係 出土遺物と土層の観察から7号住居跡より古く、1号溝跡より新しい。壁 壁高は33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。一部攪乱を受ける。床 ほぼフラットで、硬化面の範囲を検出している。住居の中央部分は攪乱によって床面が壊されている。ピット 確認できなかった。炉 住居内北東部においてわずかに焼土の範囲と硬化面を検出した。覆土 自然堆積である。覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。遺物 覆土上層～床面直上にかけて出土している。個体となるものは住居北壁付近に集中している。所見 住居覆土中から多量の焼土・炭化物が確認されたことから焼失家屋であるとみられる。また、住居北西部で確認された炭化物は籐状の細い形状をしていた。出土遺物と住居の形態から、5世紀後葉に属する。

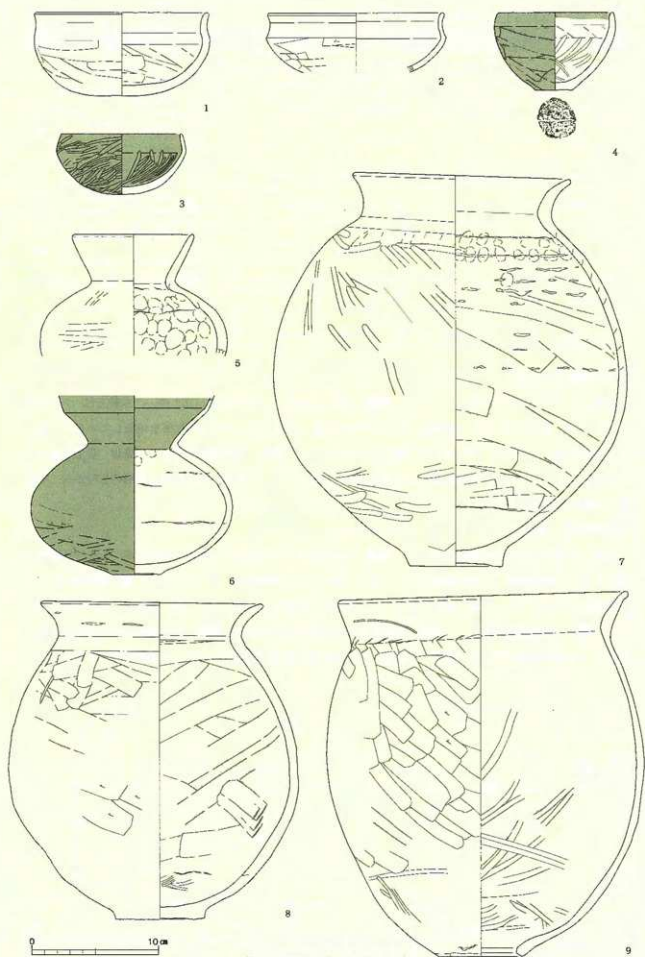


8号住居跡土層説明 (A・B)

- 1 山黄土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5-2cmロームブロック少量。焼土粒少量、φ0.5cm以上ブロック少量。
- 4 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ0.5-1cmロームブロック少量。焼土粒中量、φ0.5-3cm以上ブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ0.5cmロームブロック少量。焼土粒中量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ0.5-1cmロームブロック少量。



第33図 8号住居跡



第34图 8号住居跡出土遺物

表 16 8号住居跡出土遺物観察表

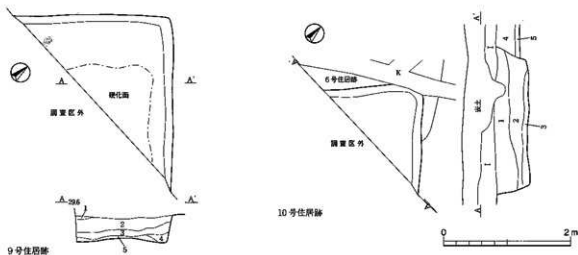
1	土師器	坪	13.8	6.6	—	石英・黒石・白磁母	外：5YR5/6 明赤銅 内：7.5YR5/4 に近い焼	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ	
2	土師器	坪	(14.0)	<4.7>	—	石英・白磁母・チャート	5YR5/6 明赤銅	やや良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。	
3	土師器	坪	9.5	4.8	—	石英・白磁母	10R4/6 赤	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。	赤彩
4	土師器	甕	8.9	6.2	2.9	石英・白磁母	10R5/6 赤	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。	外面赤彩 底部ヘラ 記号
5	土師器	壺	(9.6)	<9.6>	—	石英・黒石・白磁母	7.5YR5/6 明赤銅	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。	
6	土師器	壺	—	<14.2>	3.8	石英・黒石・白磁母	5YR4/6 赤銅	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。	外面赤彩 内面黒彩 まで赤彩
7	土師器	壺	16.2	31.1	7.2	石英・黒石・白磁母	外：7.5YR5/6 焼 内：5YR5/6 赤	良	外面：口縁部ココナテ。底部上平ヘラナ テ後。ヘラミガキ。下平ヘラナテ後ヘ ラミガキ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 焼痕。	二次焼熱
8	土師器	壺	17.6	26.7	7.0	石英・黒石・白磁母	外：10YR6/3 に近い黄 銅 内：7.5YR5/6 赤	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 上平ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 底部付近ヘラミガキ。	
9	土師器	甕	(22.8)	29.0	6.6	石英・黒石・白磁母	7.5YR4/4 赤	良	外面：口縁部ココナテ。底部ヘラナテ。 内面：口縁部ココナテ。底部ヘラミガキ。	

9号住居跡 (第 35 図)

位置 F7グリッドに位置している。規模 南北2.8m以上×東西2.55m以上の。主軸方位 N・50°・W。壁 壁高は35cmで、ほぼ直に立ち上がる。床 ほぼフラットで、硬化面を確認している。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層から下層にかけて出土したが、個体になるものは見受けられなかった。所見 出土遺物と住居の形態から、平安時代に属するとみられる。

10号住居跡 (第 35 図)

位置 F8グリッドに位置している。規模 南北1.8m以上×東西1.6m以上であるが、大部分は調査区外となる。重複関係 土層の観察からS I 06より新しい。主軸方位 N・40°・W。壁 壁高は52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラット。ピット 確認できなかった。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 確認することは出来なかった。所見 出土遺物がみられなかったため正確な焼属時期は不明だが、重複している6号住居跡が4世紀であることから、4世紀以降と考えられる。



第 35 図 9号住居跡・10号住居跡

9号住居跡土層説明 (A)

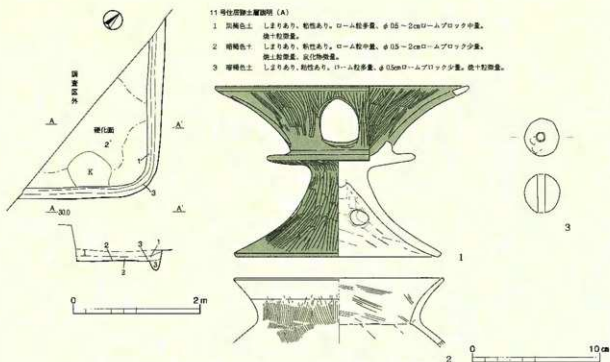
- 1 黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームブロック中量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック中量。炭土粒少量。炭化物少量。
- 4 黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。

10号住居跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭土粒少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック中量。炭土粒少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭土粒少量。
- 4 黄褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック中量。炭土粒少量。炭化物少量。6号住居跡層。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。6号住居跡層。

11号住居跡 (第36図)

位置 D9グリッドに位置している。規模 南北285m以上×東西22m以上であるが大部分は調査区外となる。主軸方位 N-42°-W。壁 壁高は18cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 はほぼフラットで、硬化面の範囲を確認している。壁周溝が巡る。ピット 確認できなかった。炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。遺物 覆土上層～覆土下層にかけて出土しているが、出土数は少ない。住居南東隅から器台と土玉が出土している。所見 出土遺物と住居の形態から4世紀前半代に属するとみられる。



第36図 11号住居跡・11号住居跡出土遺物

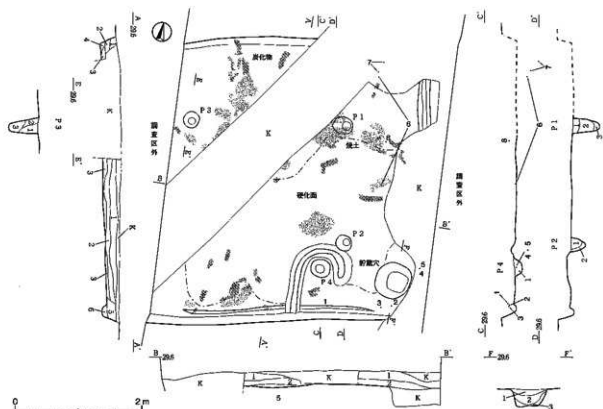
表17 11号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	容積	寸法 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土埴器	器内	202	136	165	石灰・南緯骨針	外: 25YR5/6 明赤褐 内: 10YR2 に近い黄褐色	良	外面: L線部ヨコナデ。底部ヘラミダキ。 内部: 三角形の透孔4箇所。 内面: 台部ヘラミダキ。脚部ヘラナデ。 口部の透孔5箇所。	脚部内面 以外赤銅
2	土埴器	兼	(166)	<52>	—	石灰・白雲母	7.5YR5/6 橙	良	外面: 口縁部タテハケ後、ヨコナデ。底部タテハケ。 内面: 口縁部ヨコナデ後、ヨコナデ。底部ヘラナデ。	
No.	種別	高径	寸法 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴はか		備考	
			高さ	口径	厚さ					
3	土製品	土玉	高さ2.8	口径0.6	3.0	22.55	テラによる成形。一方向からの穿孔。石灰を食む。			

13号住居跡 (第37・38図)

位置 C9、D9グリッドに位置している。規模 南北4.5m×東西4.0m以上の方形になるとみられる。主軸方位 N-13°-W。壁 壁高は27cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 はほぼフラットで硬化面を

確認しているが、住居中央部分は大きく擾乱を受けている。出入り口とみられる住居南側では、ピットの周囲に周堤状の高まりを有している。貯蔵穴 住居南東隅で検出しており、54cm×56cm、深さ25cmを測る。ピット 4基確認している。P 1:26×29cm、深さ42cm。P 2:24×25cm、深さ22cm。P 3:25×25cm、深さ46cm。P 4:28×30cm、深さ11cm。柱穴になるものはP 1～P 3で、P 4は出入り口ピットであるとみられる。カマド・炉 確認できなかった。覆土 自然堆積である。覆土中層～下層にかけて焼土・炭化物が多量に確認されている。遺物 南壁から東壁に沿うような形で遺物が出土している。また、カマドがあったとみられる東壁付近からは、土製の横造鏡(8)が覆土の下層から出土している。所見 覆土中から焼土・炭化材を多量に確認したことから焼失家屋とみられ、出土遺物と住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



13号住居跡P1土層説明 (D)

- 1 黒褐色土 しまりやあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。焼土粒微量。炭化物微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-2cmロームブロック少量。焼土粒少量。炭化物微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。焼土粒少量。φ05-2cm焼土ブロック少量。炭化物中量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。
- 5 灰褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム磁多量。φ05-2cmロームブロック中量。炭化物少量。

13号住居跡P4土層説明 (C)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05cmロームブロック微量。

13号住居跡P1土層説明 (D)

- 1 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05cmロームブロック中量。焼土粒微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-2cmロームブロック少量。

13号住居跡P2土層説明 (C)

- 1 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。

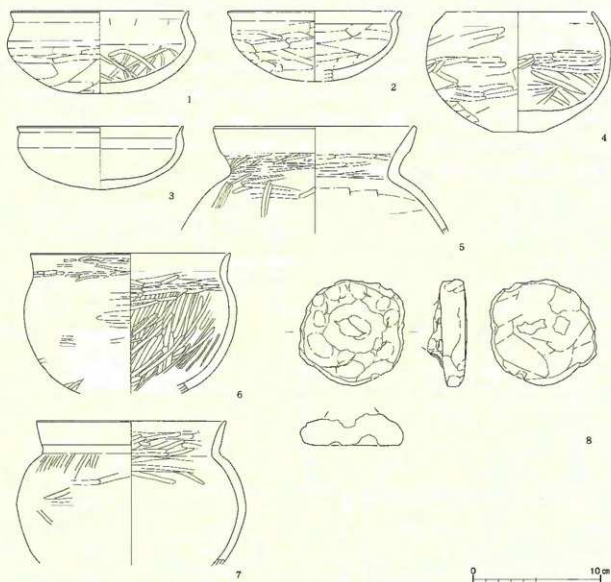
13号住居跡P3土層説明 (E)

- 1 灰褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-2cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。

13号住居跡P6土層説明 (F)

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05cmロームブロック微量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム磁多量。φ05cmロームブロック少量。炭化物微量。

第37図 13号住居跡



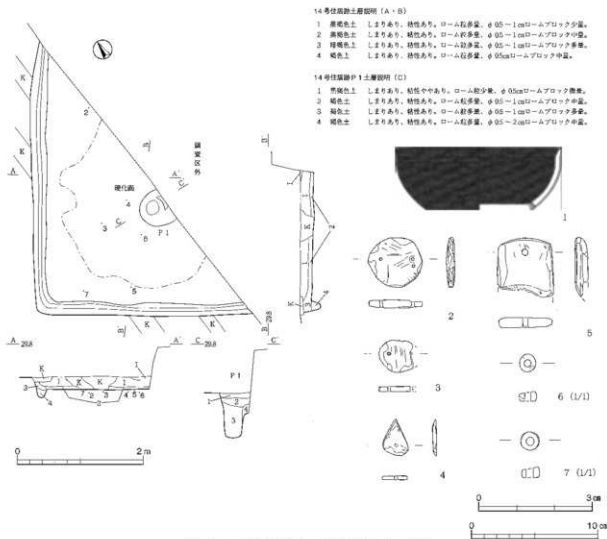
第38図 13号住居跡出土遺物

表18 13号住居跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	寸法 (cm)			胎土	色澤	破成	底・裏面技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土師器	杯	13.8	6.5	—	石英・長石・白雲母	SY95/6 明赤褐色	片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ・ヘラナデ。体部ヘラミダキ。	
2	土師器	杯	(13.8)	<5.5>	—	石英・長石・白雲母	SY24/6 赤褐色	片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	
3	土師器	杯	13.2	5.0	—	石英・長石・白雲母	外：10YR6/2 灰青褐色 内：SY24/6 赤褐色	やや片	外面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 内面：口縁部ヨコナデ。体部器面摩滅。 外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、ヘラミダキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。	
4	土師器	鉢	11.6	9.4	4.0	石英・長石・白雲母	10R6/6 明黄褐色	片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。 外面：口縁部ヨコナデ・ヘラミダキ。体部ヘラナデ。	
5	土師器	壺	15.6	<8.2>	—	石英・長石・白雲母		やや片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。	
6	土師器	壺	(15.6)	<11.1>	—	石英・長石・白雲母	外：7.5YR4/3 褐色 内：5YR6/6 褐色	片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。	
7	土師器	壺	(14.8)	<11.6>	—	石英・長石・白雲母	外：10YR6/4 に近い黄褐色 内：5YR6/6 褐色	片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラミダキ。	
No.	種別	器種	寸法 (cm)			重量 (g)	底・裏面技法の特徴			備考
			長さ	幅	厚さ					
8	土製品	磨石	8.3	8.1	1.8	168.93	磨欠頂。表面はヘラナデによる彫形。文様面は指ナデによる彫形。石英・長石・白雲母を含む。			

14号住居跡 (第39図)

位置 B9・C9グリッドに位置している。規模 南北4.3m以上、東西3.5m以上の方形とみられる。主軸方位 N・35°・E。壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 はばフラットで硬化面を確認しているが、一部擾乱を受けるピット1を確認している。P1:56cm×50cm以上、深さ70cmを測る。炉・カマド 確認できなかった。覆土 自然地積である。遺物 覆土上層へ床面直上にかけて出土しているが、土器は小片がほとんどで、個体になるものはない。床面直上からは石製模造品が4点出土している。所見 出土遺物と住居の形態から5世紀後葉に属するとみられる。



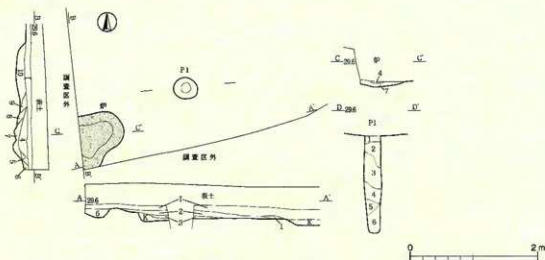
第39図 14号住居跡・14号住居跡出土遺物

表19 14号住居跡出土遺物観察表

品目	形状	寸法	重量	材質	特徴	位置	備考
1	土師器 杯	(130) <49>	—	石英・白雲母	外: 5Y2/4-5赤黒 内: 2.5Y2/4-5赤黒	内	外側: 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデリ後。ヘラナデ。 内側: 口縁部ヨコナデ。唇部ヘラナデ
2	石製品 双孔円盤	3.8	4.2	0.7	14.45		全面研磨。一方角からの穿孔。
3	石製品 双孔円盤	2.1	<27>	0.4	4.91		全面研磨。一方角からの穿孔。
4	石製品 斬形模造品	2.9	2.1	0.3	2.31		全面研磨。一方角からの穿孔。
5	石製品 斧形模造品	<47>	4.5	1.0	30.42		全面研磨。一方角からの穿孔。
6	石製品 白玉	直径0.5	孔径0.15	0.25	0.10		全面研磨。一方角からの穿孔。
7	石製品 白玉	直径0.5	孔径0.2	0.29	0.08		全面研磨。一方角からの穿孔。

15号住居跡(第40図)

位置 B9・C9グリッドに位置している。規模 不明。主軸方位 不明。壁 硬化面等を確認することは出来なかったが、調査区壁面において一部硬化している層を確認している。ピット 1基確認している。P1:34cm×38cm、深さ153cmを測る。炉 62×82cm、深さ10cmを測る。覆土 自然堆積である。遺物 確認できなかった。所見 遺物の出土もなく、他の遺構との重複関係も認められないため、帰属時期は不明である。



第40図 15号住居跡

15号住居跡土層説明(A-C)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック中量。
- 2 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック少量。壁上粒数豊富。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性やや低い。ローム粒多量。φ05cmロームブロック中量。壁上粒数豊富。φ05-1cm焼土ブロック中量。焼期により脆い。灰。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック多量。壁上粒少量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05cmロームブロック少量。壁上粒豊富。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ05-1cmロームブロック少量。壁上粒少量。灰。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒少量。φ05cmロームブロック少量。壁上粒豊富。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05cmロームブロック少量。壁上粒豊富。灰化物豊富。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック少量。

15号住居跡P1土層説明(D)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ05cmロームブロック少量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05-1cmロームブロック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05-1cmロームブロック多量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05cmロームブロック少量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ05-2cmロームブロック多量。

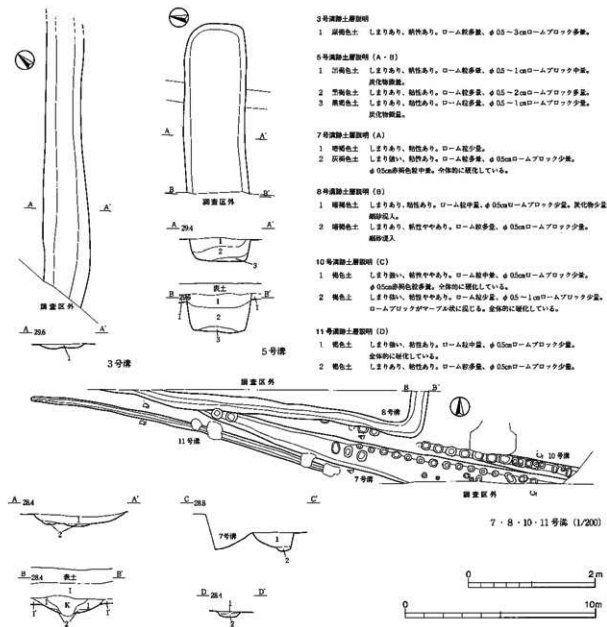
第2節 溝跡(第41～44図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された溝跡は16条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。調査区幅の制約から遺構の全体像が把握できないものが多く、2・4号溝に関しては土坑である可能性が高い。また、溝の多くは調査区の北側で確認されており、そのほとんどは中世に帰属するものである。遺物の掲載に関しては基本的に遺構に帰属するものを主としているが、流れ込みとみられる遺物の中からも特徴的なものは掲載対象としている。

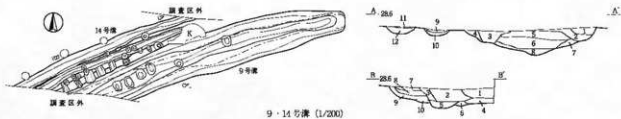
表20 溝跡一覧表

遺構名	位置 グリッド	軸方位	規模 (m)		深さ (m)	遺物	時期 (推定)	備考
			上端幅	下端幅				
1号溝	F7	N-85°-W	1.2	0.96	0.2	なし	不明	
2号溝	F5	N-18°-E	0.78	0.26	0.14	縄文十部・骨	縄文時代後期前～ 平安	土坑か?
3号溝	D9	N-50°-E	0.75	0.4	0.07	縄文土器・土師器・ 陶磁器・泥団子	近世	
4号溝	C9	N-80°-W	1.6	1.2	0.61	縄文十部	縄文時代中期?	土坑か?
5号溝	B9	N-80°-E	0.97	0.78	0.43	縄文十部・土師器・ 須恵器・土師	平安	

6号溝	B9	N - 78° - E	1.5	0.45	0.5	縄文土器・土師器・灰土器	平安	
7号溝	A10・11	N - 74° - W	1.65	1.25	0.17	縄文土器・かわらけ・鉄・陶磁器	15～16世紀	底面にピットを多数確認し、覆土は全体的に硬化。遺跡であった可能性が考えられる。
8号溝	A10・11	N - 82° - W	0.9	0.42	0.22	陶器(天目茶碗)	15～16世紀	
9号溝	A8・9	N - 72° - E	2.17	0.73	0.4	縄文土器・磨製石斧・環状？・須恵器・かわらけ・鉄・凝縮陶器・陶磁器	15～16世紀	覆土中に黒色土の硬化面を確認しており、道路跡と考えられる。
10号溝	A11	N - 79° - W	0.5	0.4	0.31	なし	15～16世紀?	道路跡とみられる7号溝と同様のピットが確認されており、こちらは道路跡に付随する遺構と考えられる。
11号溝	A10	N - 76° - W	0.43	0.18	0.19	縄文土器・石器	中世?	
12号溝	A7・8	N - 78° - E	2.32	0.28	0.95	縄文土器・土師器・須恵器・かわらけ・銅・灰土(？)・陶磁器・管	15～16世紀	複雑。底面の幅は狭く、深部伏を呈す。北四方向から堀び、シ字状に折れ曲がり北東方向に延びていく。自然の谷地形を利用していると考えられる。
13号溝	A6・7	N - 71° - W	(3.8)	1.28	1.67	縄文土器・土師器・凝縮土・土師器・鉄・陶磁器・管	15～16世紀	地跡とみられる。12号溝と違い、裏面状に掘り込まれておらず、底面は幅がある。1号井戸跡と重複しており、1号井戸跡が新しい。12号溝と同様に、自然の谷地形を利用していると考えられる。
14号溝	A8・9	N - 68° - E	0.65	0.33	0.18	縄文土器・須恵器・陶磁器	15～16世紀	硬化面を確認。道路跡と考えられる9号溝跡に付随する遺構とみられる。
15号溝	A4・5	N - 80° - W	(1.83)	(0.7)	1.35	縄文土器・陶磁器	15～16世紀?	覆土中に硬化面を確認。
16号溝	A5	N - 6° - W	2.05	0.4	0.55	縄文土器・土質	中世?	



第41図 3・5・7・8・10・11号溝跡



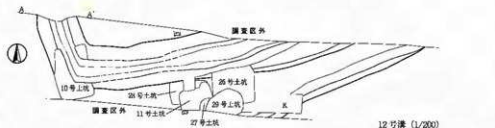
9・14号溝 (1/200)

9・14号溝土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。炭化物微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 5 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック微量。炭化物。洞隙として使用されているか？
- 6 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームアブリック少量。赤褐色粒少量。
- 7 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック多量。
- 8 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。赤褐色粒多量。
- 9 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。炭化物微量。赤褐色粒少量。
- 10 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。赤褐色粒少量。
- 11 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームアブリック多量。赤褐色粒中量。
- 12 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームアブリック多量。赤褐色粒中量。

14号溝土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームアブリック微量。赤褐色粒多量。
- 2 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームアブリック微量。
- 4 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。赤褐色粒多量。
- 5 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。赤褐色粒少量。
- 6 褐色土 しまり強い、粘性ややあり。ローム粒多量。赤褐色粒中量。ロームアブリックがマア粒に混ざる。
- 7 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5-2cmロームアブリック大量。
- 8 灰褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒中量。赤褐色粒多量。
- 9 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック多量。赤褐色粒少量。
- 10 暗褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック多量。



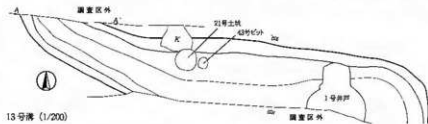
12号溝 (1/200)

12号溝土層説明 (A)

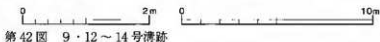
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック中量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームアブリック少量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 12 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。
- 13 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 0.5cmロームアブリック多量。
- 14 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 0.5-1cmロームアブリック多量。

12号溝土層説明 (B)

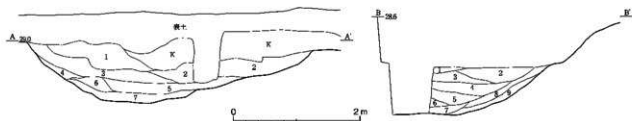
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5cmロームアブリック微量。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック中量。白色顔料混入。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック少量。φ 0.5cm褐色土アブリック少量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック中量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック多量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームアブリック多量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 0.5-3cmロームアブリック多量。
- 12 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームアブリック多量。白色顔料混入。
- 13 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 0.5cmロームアブリック多量。白色顔料混入。



13号溝 (1/200)



第42図 9・12～14号溝跡



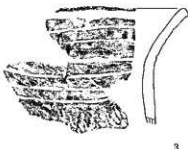
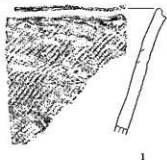
13号溝跡土層説明 (A)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック多量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック多量。根によるボクランを穿け。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック散在。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック散在。
- 7 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。

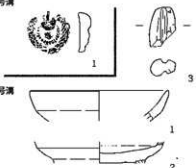
13号溝跡土層説明 (B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性なし。砂層。1号溝跡埋没時の天然面土。
- 2 同上 しまりやあり、粘性なし。φ0.5-1cm礫中量。砂層。
- 3 暗褐色土 しまりやあり、粘性なし。1号溝跡埋没時の天然面土。
- 4 褐色土 しまりやあり、粘性なし。φ0.5cm白色粘土ブロック少量。シルト層。
- 5 暗褐色土 しまりやあり、粘性なし。φ0.5-1cmロームブロック少量。砂層。
- 6 同上 しまりやあり、粘性なし。φ0.5-2cmロームブロック中量。砂層。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ0.5-2cmロームブロック中量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-3cmロームブロック多量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5-1cmロームブロック中量。

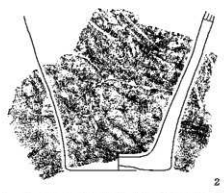
2号溝



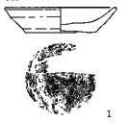
3号溝



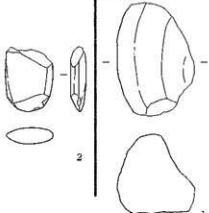
5号溝



7号溝



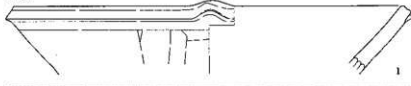
11号溝



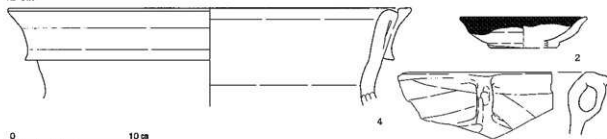
8号溝



9号溝

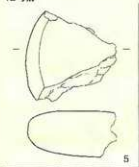


12号溝

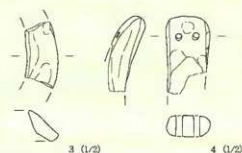
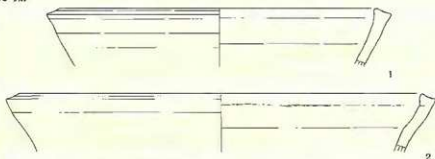


第43図 2・3・5・7~9・11・12号溝跡出土遺物

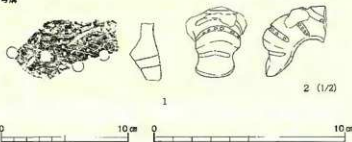
12号溝



13号溝



16号溝



第44図 12・13・16号溝跡出土遺物

表21 2号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (m)		胎土	色調	焼成	底・整形技法の特徴	備考
			口径	器高					
1	縄文土器	深鉢	—	<10.0>	—	石灰・白雲母・白色粒 外: 10YR5/2 灰黄緑 内: 10YR7/4 に多い黄 塵	良	外底: 口縁部に沈線を施す。底部し及 單筋縄文を施文。 内底: ナダ。	堀之内 I
2	縄文土器	深鉢	—	<12.6>	8.2	石灰・角閃石・白雲母 燻硝子針・赤色粒 SYR6/6産	やや良	外底: ミゴキ。前位の条線を2条纏繞。 内底: 懸いミゴキ。 内面: 平打沈線を施し、列点状の表筋 を加える。	堀之内 II
3	縄文土器	深鉢	—	<9.5>	—	石灰・燻硝子針・赤色 粒 外: 5YR5/6産 内: 7.5YR3/1 黒褐	良	外底: 平打沈線を施し、列点状の表筋 を加える。 内底: 懸いミゴキ。	加賀利 II 2

表22 3号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (cm)			重さ (g)	底・整形技法の特徴はか	備考
			長さ	幅	厚さ			
1	土製品	蓋蓋子	直径 3.5	—	0.9	6.87	底に粘土を充填して整形。裏面に指紋あり。文様は身とみられる。 石灰を含む。	

表23 5号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (m)			胎土	色調	焼成	底・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	土器器	皿	(11.0)	<2.8>	—	石灰・白雲母	2SYR4/2 暗灰黄	良	外底: ロク口整形。 内底: ロク口整形。	
2	土器器	高台杯	—	<1.7>	—	石灰・灰石	N5/ 灰	良	外底: ロク口整形。 内底: ロク口整形。	
No.	種別	器種	位置 (m)			重さ (g)	底・整形技法の特徴はか	備考		
長さ	幅	厚さ								
2	土製品	土鍋	<3.1>	2.1	1.3	7.68	ナダによる整形。石灰・白色粒を含む。			

表24 7号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (m)		胎土	色調	焼成	底・整形技法の特徴	備考
			口径	器高					
1	土器器上器	かわらけ	8.9	2.0	5.7	石灰・白色粒・赤色粒 SYR6/6産	良	外底: ロク口整形。底部回転糸取り。 内底: ロク口整形。ナダ。	

表25 8号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (m)		胎土	色調	焼成	底・整形技法の特徴	備考	
			口径	器高						
1	陶器	深鉢	—	<4.0>	—	白色粒	2SYR4/2 灰白	整熟	外底: ロク口整形。鉄線。 内底: ロク口整形。鉄線。	天目

表26 9号溝跡出土遺物観察表

No.	種別	器種	位置 (m)		胎土	色調	焼成	底・整形技法の特徴	備考	
			口径	器高						
1	陶器	深鉢	(3.8)	<5.4>	—	石灰・灰石	10YR5/2 灰黄緑	整熟	外底: 口縁部ヨコナダ。口器部に底による 押入。底部ヘラナダ。 内底: ヨコナダ。	

2	石製品	磨製石斧	<5.2>	3.7	1.3	36.75	基部欠損。結晶内層を使用。	
---	-----	------	-------	-----	-----	-------	---------------	--

表 27 11号溝跡出土遺物観察表

1	石製品	石鏃	<5.9>	<6.0>	6.2	306.46	表面1層使用。多孔質安山岩を使用。	
---	-----	----	-------	-------	-----	--------	-------------------	--

表 28 12号溝跡出土遺物観察表

1	土師質土器	灯明皿	(8.2)	2.3	4.2	白色粒	75YR6/6 黄	良	外面：ロクロ整形。口唇部油煙。底面原転染切り。 内面：ロクロ整形。口唇部油煙。	
2	土師質土器	灯明皿	(10.0)	2.4	5.2	白色粒・赤色粒	5YR6/6 黄	良	外面：ロクロ整形。口唇部油煙。底面原転染切り。 内面：ロクロ整形。口唇部油煙。	
3	土師質土器	鍋	—	<5.2>	—	石英・白雲母・赤色粒	外：10YR3/1 高黄 内：10YR6/6 黄	良	外面：ナデ。スス付着 内面：ナデ。	
4	陶器	甕	(32.0)	<7.1>	—	石英・長石	10YR4/2 灰黄褐	磁胎	外面：ココナデ。 内面：ココナデ。	管溝
5	石製品	磨石	<7.1>	<7.2>	3.5	215.06	赤・黄・黄褐色すり粉。雲山石。			

表 29 13号溝跡出土遺物観察表

1	土師質土器	鍋	(28.0)	<4.6>	—	石英・白雲母	外：7.5YR4/3 黄 内：7.5YR6/6 明黄	良	外面：ココナデ。 内面：ココナデ。
2	土師質土器	鍋	(32.0)	<4.6>	—	石英・白雲母	7.5YR5/6 明褐色	良	外面：ココナデ。 内面：ココナデ。
3	土製品	貝輪形	<3.5>	1.6	0.7	5.79	外面ナデ。内面ナズリ。石英・赤色粒を含む。		
4	土製品	手押形	<4.0>	2.3	1.1	9.17	手摺形土製品の駒とみられる。ナデによる整形。穿孔2箇所。石英・白雲母を含む。		

表 30 16号溝跡出土遺物観察表

1	縄文土器	台付鉢	—	<4.5>	—	石英・長石	10YR5/3 黄	良	外面：細かい織を施した後、刺状表現を加える。摩孔は一方から行われ、4ヶ所残存している。 内面：ナデ。	実行 3a~3b
2	土製品	土塊	<4.6>	2.5	1.8	33.97	ミミズ型土製品。ナデによる整形後、漆を施し、刺状表現を加える。 石英・長石・白雲母を含む。			実行 1

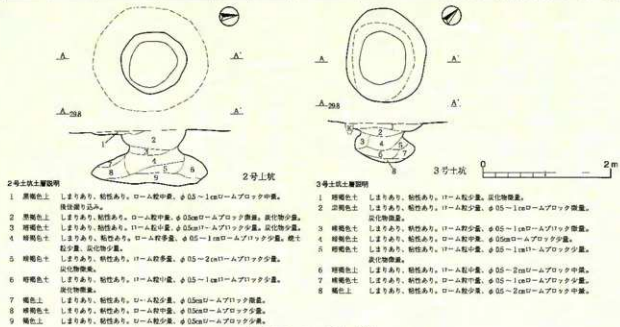
第3節 土坑 (第45～52図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認された土坑は27基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。確認された土坑のほとんどは縄文時代に属する土坑で、分布域に若干の差がみられる。調査区の南側～中央部にかけては袋状・フラスコ状土坑がみられ、分布状況は密ではない。調査区の北側に移ると、12号溝(堀)の西側で遺構が多く確認され、炉跡とみられる浅い土坑や検出面から底面までが1.5m以上を測る円筒形の土坑など、遺構数は増加し、分布状況は密となる。15・21・25号土坑はいずれも円筒形を呈す土坑で、15号土坑は深さが2mを超える。25号土坑は10号土坑に一部削平されていたものの、覆土中から注口土器と大量の貝が確認されたことが注目される。なお、貝の詳細は第7章にて記載する。

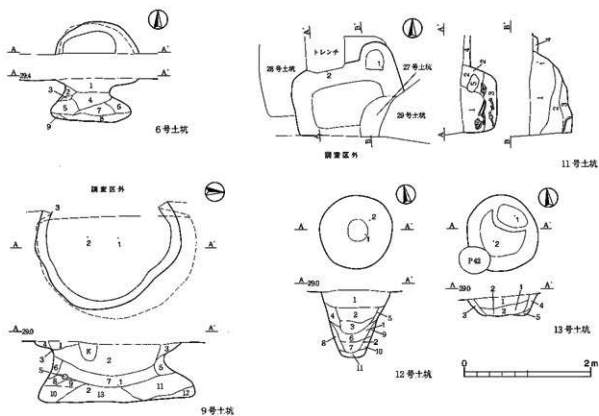
古墳時代、奈良・平安時代の土坑はほぼなく、中世の土坑が12号溝の周囲で確認されるに留まる。中でも12号溝に隣接する形で確認された11号土坑は馬が埋納された土坑で、ほぼ全身が出土している。

表 31 土坑一覽表

遺構名	位置 (グリッド)	軸方位	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形状	遺物	時期	備考
1号土坑	F 10	N・77°・W	1.66×1.28	0.32	方形	縄文土器・土師 器・鉄鏝	古墳～奈良	2号住居跡と重複。1号土坑が新しいと判断される。
2号土坑	F 9	N・5°・E	1.75×1.63	0.87	円形	縄文土器	縄文時代中期～中葉	袋状土坑。
3号土坑	F 9	N・44°・W	1.25×0.97	0.62	円形	縄文土器	縄文時代中期～中葉	袋状土坑。
5号土坑	F 9・10	N・84°・E	1.63×(0.73)	0.69	不整形	縄文土器(細片)	不明	
6号土坑	F 6・7	N・85°・E	1.10×(0.47)	0.69	円形	縄文土器	縄文時代中期～中葉	袋状土坑。カクランによって遺構の半分は消失している。
7号土坑	E 10	N・7°・W	1.96×(0.85)	0.66	円形	なし	不明	
8号土坑	E 9	N・58°・W	1.0×0.9	0.32	円形	縄文土器(細片)	不明	一部遺物を確認。分層か?
9号土坑	B 9	N・8°・W	2.5×(1.6)	0.96	円形	縄文土器	縄文時代中期～中葉、 後期～奈良	フラスコ状土坑。1層は首径式が出した通り入り込み、フラスコ状土坑自体は阿土台に属する。
10号土坑	A 8	N・8°・W	2.79×1.8	0.64	方形	なし	15～16世紀?	12号溝と重複。新旧関係は不明。地下式か?
11号土坑	A 8	N・77°・E	1.75×1.18	0.66	方形	かわらけ・銅・ 馬骨	15～16世紀	馬車納坑。胎骨と胎面の一部を除いて、ほぼ全身が出土。胴部は踏部をねじって無理矢理土坑内に押し込んで入っているような状況。また、後足も土坑内に収まらず、こちらは足がはみ出る部分のみ土坑を拡張している。
12号土坑	A 6	N・20°・E	1.18×1.14	1.11	円形	縄文土器・骨・ 獣骨角骨	縄文時代後期～前葉	
13号土坑	A 5	N・21°・W	1.2×1.11	0.42	円形	縄文土器	縄文時代後期～前葉、 後葉	堀之内期の土坑と安行期の土坑が重複。
14号土坑	A 5	N・66°・E	1.43×0.94	0.73	楕円形	縄文土器	縄文時代後期～前葉	
15号土坑	A 5	N・85°・E	1.2×1.0	2.25	円形	縄文土器	縄文時代晩期～前葉	大層土坑。16号土坑と重複。15号土坑が新しい。
16号土坑	A 5	N・68°・W	1.52×(1.19)	0.83	不整形	縄文土器	縄文時代後期～前葉	15号土坑と重複。16号土坑が古い。
18号土坑	A 6	N・84°・W	0.96×0.8	0.28	円形	縄文土器	縄文時代後期～前葉?	
19号土坑	A 5	N・6°・W	1.18×1.0	0.34	円形	縄文土器	縄文時代後期	
20号土坑	A 6	N・40°・W	0.97×0.82	0.22	円形	縄文土器	縄文時代後期	
21号土坑	A 7	N・8°・E	1.16×1.11	1.53	円形	縄文土器	縄文時代後期～後葉 ～晩期前葉	大層土坑。遺物少量。
22号土坑	A 5	N・67°・W	1.32×0.97	0.86	楕円形	縄文土器	縄文時代後期～中葉	
23号土坑	A 5	N・84°・W	1.18×(0.63)	0.55	円形	縄文土器	縄文時代後期～前葉	
24号土坑	A 6	N・8°・E	2.0×0.9	1.51	長楕円形	縄文土器	縄文時代後期	
25号土坑	A 8	(不明)	(0.84)×0.79	0.53	円形	縄文土器・注口 土器貝輪・貝・ 銅骨・魚骨	縄文時代晩期～前葉	隙し穴。別遺構(ピット?)と重複か? 大層土坑?貝が大量に埋められた層の直上には貝輪部と注口跡が欠損した注口土器が正位置で出土。貝輪は底面直上から出土。10号土坑と重複。25号土坑が古いと判断される。
26号土坑	A 8	N・85°・E	2.22×(1.93)	0.49	方形	なし	15後半～16世紀	29号土坑と重複。26号土坑が古いと判断される。ピット2基を確認。表面で一部被熱範囲を確認しているが、部分分である。
27号土坑	A 8	(不明)	(0.7)×(0.54)	0.16	(円形)	縄文土器・骨角 部	縄文時代後期～後葉 ～晩期前葉	11・29号土坑と重複。両土坑より古いと判断される。
28号土坑	A 8	N・86°・E	1.98×(1.2)	0.2	方形	なし	15～16世紀?	11号土坑と重複。11号土坑より古い。
29号土坑	A 8	N・57°・E	1.85×(1.8)	1.43	方形	縄文土器	15～16世紀?	地下式。大井部は崩落。多くの縄文土器は流れ込みである。25号土坑と重複。29号土坑が新しいと判断される。



第45図 2・3号土坑



6号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中層、φ0.5cmロームブロック散見。焼土粒散見、炭化物散見。
- 2 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック散見。焼土粒散見、炭化物散見。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中層、φ0.5-5cmロームブロック多量。炭化物散見。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5cmロームブロック散見。焼土粒散見、炭化物少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック少量。焼土粒散見、炭化物少量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック散見。焼土粒散見、炭化物散見。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック散見。焼土粒散見、炭化物散見。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中層、φ0.5-1cmロームブロック中量。焼土粒散見、炭化物散見。
- 9 褐色土 しまり強い、粘性あり。ローム段少量、φ0.5-1cmロームブロック中量。焼土粒散見。

9号土坑土層説明(1-4層部分、5-13層別五右)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム中量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック散見。炭化物散見。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量。炭化物散見。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5cmロームブロック散見。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5cmロームブロック中量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック少量。炭化物散見。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック中量。
- 10 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック少量。
- 11 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 12 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 13 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック少量。

11号土坑土層説明(A・B)

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-3cm褐色土ブロック少量、φ0.5-2cm褐色土ブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック多量、φ0.5cm褐色土ブロック少量。
- 3 褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック多量。
- 4 褐色土 しまり中量あり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-2cmロームブロック中量、φ0.5-1cm褐色土ブロック多量。

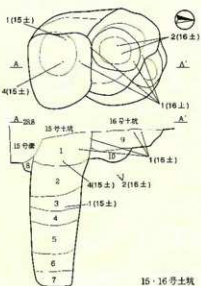
12号土坑土層説明

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5cmロームブロック少量。炭化物散見、焼土粒入。
- 2 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5cmロームブロック多量。
- 3 黒褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段少量。炭化物散見。
- 4 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、0.5cmロームブロック散見。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量。
- 6 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量。炭化物散見。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5cmロームブロック少量。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5-1cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 10 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック少量。炭化物入。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック少量。炭化物入。

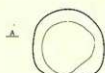
13号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段中量、φ0.5cmロームブロック散見。炭化物散見。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック中量。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5-1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム段多量、φ0.5cmロームブロック少量。

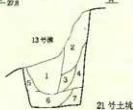
第46図 6・9・11～13号土坑



15・16号土坑



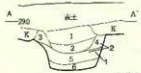
13号土坑



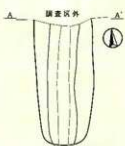
21号土坑



23号土坑



23号土坑



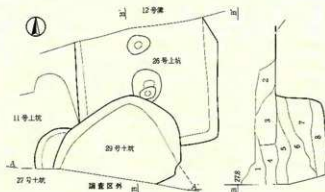
24号土坑



19号土坑



25号土坑



26・27・29号土坑

15・16号土坑土層説明

- 1 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 2 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 4 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 5 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 6 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。層内よりなる黄土(硬褐色土)混入。しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 8 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 9 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。
- 10 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。

21号土坑土層説明

- 1 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物少量。
- 2 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-3cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 3 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 4 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック多量。炭化物微量。
- 5 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-2cmロームブロック多量。
- 6 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。炭化物微量。
- 7 硬褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-3cmロームブロック少量。炭化物微量。

23号土坑土層説明(1-4層は層別記載済み)

- 1 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、層別記載。炭化物微量。
- 2 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。炭化物微量。
- 4 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、炭土少量、炭化物微量。
- 5 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量、φ 0.5-2cm層少量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。

24号土坑土層説明(1-4層は層別記載済み)

- 1 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物微量。
- 3 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック中量。
- 4 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 硬褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5cmロームブロック多量。
- 6 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量、φ 0.5-1cmロームブロック多量。
- 7 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5-3cmロームブロック多量。
- 8 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量、φ 0.5-1cmロームブロック多量。



第 47 図 15・16・21・23～27・29号土坑

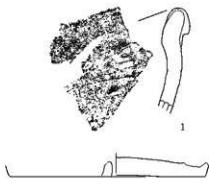
26号土坑土器説明

- 1 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-1cmロームブロック多量。
- 2 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05cmロームブロック少量。
- 3 刷白土 しまり中やあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05cmロームブロック少量。灰化物微量。底口上唇(正位器)直上。
- 4 刷白土 しまり中やあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-1cmロームブロック少量。灰化物微量。片大量。
- 5 刷白土 しまり中やあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05cmロームブロック少量。灰化物微量。

26・27・29号土坑土器説明 (B)

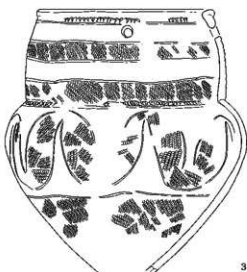
- 1 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 05-3cmロームブロック中量。
- 2 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-1cmロームブロック少量。26号土坑蓋土。
- 3 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-2cmロームブロック中量。26号土坑蓋土。
- 4 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-3cmロームブロック多量。
- 5 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-7cmロームブロック多量。
- 6 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 05-15cmロームブロック大量。大川原土。
- 7 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-2cmロームブロック少量。
- 8 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-4cmロームブロック多量。

9号土坑



26・27・29号土坑土器説明 (A)

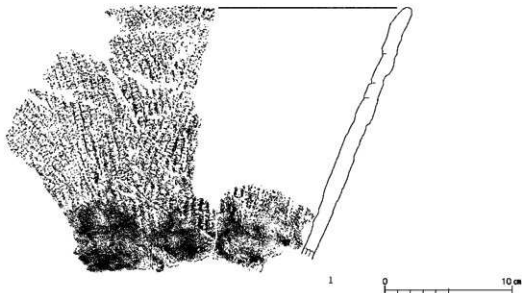
- 1 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-3cmロームブロック大量。刷白土。
- 2 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-2cmロームブロック多量。
- 3 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 05-3cmロームブロック多量。
- 4 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-2cmロームブロック少量。
- 5 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 05-15cmロームブロック多量。
- 6 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-3cmロームブロック多量。
- 7 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-3cmロームブロック少量。灰土微量。
- 8 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-3cmロームブロック少量。
- 9 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-2cmロームブロック少量。
- 10 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-10cmロームブロック多量。
- 11 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒大量。φ 05-15cmロームブロック大量。灰土微量。
- 12 刷白土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-4cmロームブロック多量。
- 13 刷白土 しまり中やあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 05-1cmロームブロック中量。27号土坑蓋土。



11号土坑

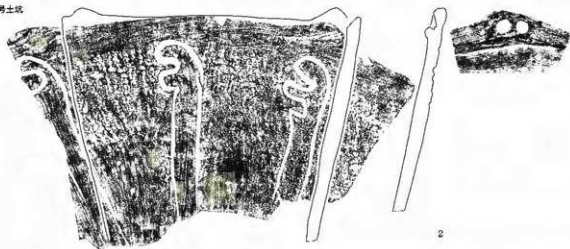


12号土坑

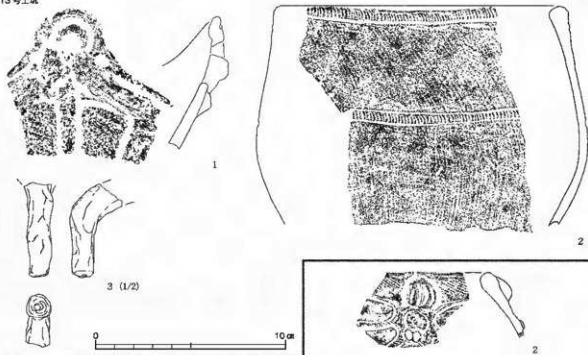


第48図 9・11・12号土坑出土遺物

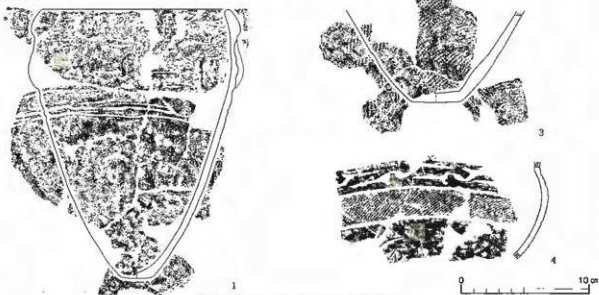
12号土坑



13号土坑



15号土坑

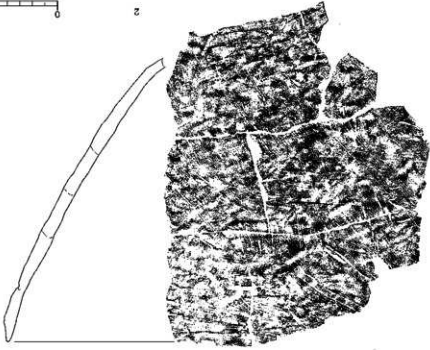


第49图 12·13·15号土坑出土遗物

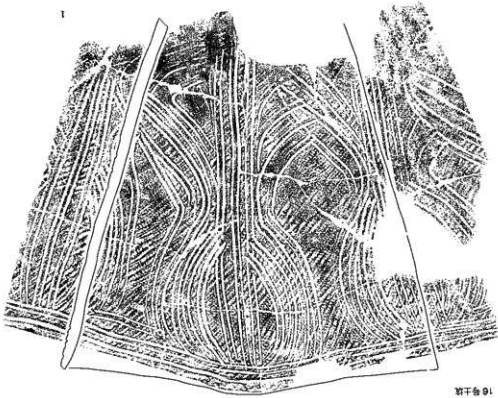
第50圖 15・16号土坑出土遺物



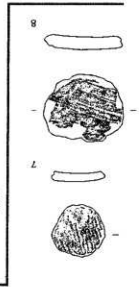
2



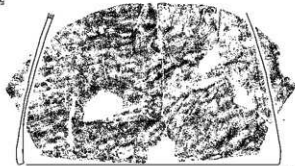
1



16号土坑

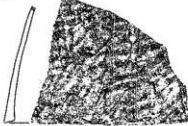


5

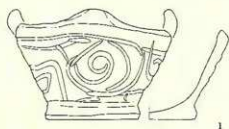


15号土坑

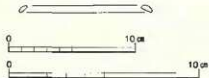
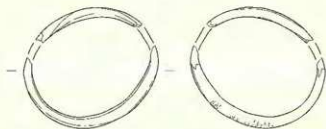
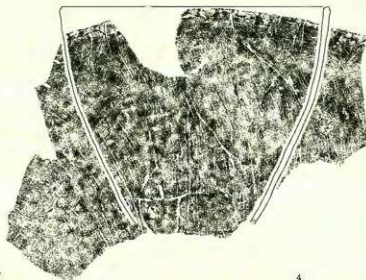
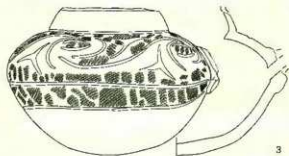
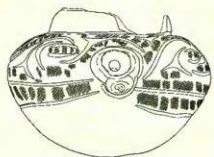
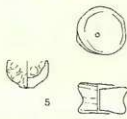
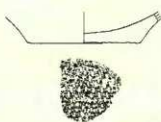
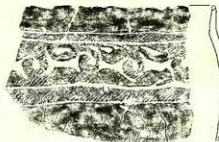
6



23号土坑



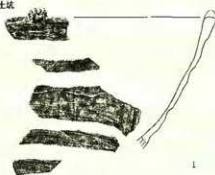
25号土坑



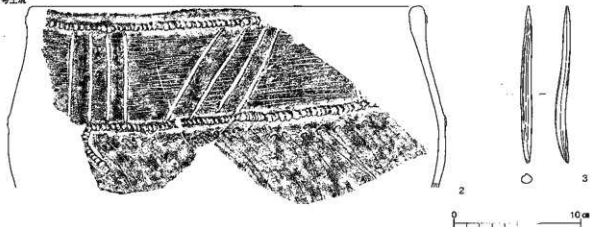
26号土坑



27号土坑



第51图 23·25~27号土坑出土器物



第52図 27号土坑出土遺物

表32 9号土坑出土遺物観察表

層	土質	深	幅	長さ	内容	出土品	特徴	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	<8>	—	石英・長石・白磁母・金雲母	10YR3/3 陶片	やや凸 外面：口縁部に隆起部付。 内面：ミガキ。	列玉台付
2	縄文土器	深鉢	—	<15>	154	石英・長石・白磁母・金雲母	10YR4/2 灰青陶	良 外面：文様帯を区画するための沈線を描す。 内面：ナデ	列玉台付
3	縄文土器	飯盛土器	(140)	<50>	—	石英・長石・白磁母	7.5YR3/2 陶片	良 外面：口縁部穿孔。底部にR.L.単純縄文を施した互連基文或縄文を施す。口縁部と底部には斜交表現が施る。 内面：ミガキ。	19号

表33 11号土坑出土遺物観察表

層	土質	深	幅	長さ	内容	出土品	特徴	備考	
1	土師質土器	かわらけ	85	21	57	金雲母・白色粒・赤色粒	外：5YR5/4 黄 内：7.5YR2/6 橙	良 外面：口付口型。底部部凹凸あり。 内面：口付口型。	
2	土師質土器	瓶	(34.0)	<5>	—	白色粒・赤色粒	5YR5/6 橙	良 外面：口縁部コナデ。 内面：口縁部コナデ。	

表34 12号土坑出土遺物観察表

層	土質	深	幅	長さ	内容	出土品	特徴	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	<30>	—	石英・長石・白磁母・白色粒	外：5YR6/4 に近い青陶 内：7.5YR4/2 灰陶	良 外面：R.L.単純縄文を施す。底部下ナデあり。 内面：悪いナデ。	称名寺2
2	縄文土器	深鉢	(23.6)	<18>	—	石英・白磁母・雑色骨針・白色粒	10YR6/3 に近い黄陶	良 外面：下字型の腹半状文を施す。 内面：ミガキ。L.縁部に3対あるとみられる突起の内面には斜交表現が施される。	隣取1

表35 13号土坑出土遺物観察表

層	土質	深	幅	長さ	内容	出土品	特徴	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	<5>	—	石英・長石・白磁母	外：7.5YR3/1 黒陶 内：10YR2/6 明赤陶	良 外面：沈線によって文様帯を区画。R.L.単純縄文を施す。口縁部に隆起部を付付。斜交の両面表現と穿孔を施す。 内面：ミガキ。	周之内
2	縄文土器	深鉢	(22.0)	<17>	—	石英・長石・白磁母・黒雲母	外：7.5YR5/6 明陶 内：7.5YR5/4 に近い陶	良 外面：濃い斜交の赤線を描し。口縁部と底部に斜交表現を施す。 内面：ミガキ。	安行
3	土製品	不明	<50>	12	1.6	11.87	粘土を棒状にして折り曲げる。動物あるいは土質の手か？先端に穿孔あり。 石英・石色粒を含有。		

表36 15号土坑出土遺物観察表

層	土質	深	幅	長さ	内容	出土品	特徴	備考	
1	縄文土器	鉢	(14.6)	21.4	2.6	石英・白磁母・白色粒	外：10YR4/1 黒陶 内：10YR6/4 に近い黄陶	やや凸 外面：粘土層が隆起でつながら。底部に横位の赤線が施るも、全体的に器壁薄減。 内面：器壁厚減。	安行3b
2	縄文土器	深鉢	—	<5>	—	石英・雑色骨針・白磁母	10YR6/4 に近い黄陶	良 外面：口縁部に粘土層を付付。隆起と隆起に沿う形で沈線を描し文様帯を区画。器底に沈線付。 内面：ナデ。	大淵b2

3	縄文土器	深鉢	—	<7.3>	3.8	石英・白雲母	外：10YR5/3 に近い黄褐色 内：7.5YR6/6 褐色	良	外面：底部下部まで黒い炭素織文を施す。 内面：ナダ。	大淵
4	縄文土器	注口土器	—	<7.7>	—	石英・白雲母	2.5Y4/1 黄灰	良	外面：注口により文様帯を区画。上部は上部三又文、下部は黒い炭素織文を施す。 内面：ミゴキ。	大淵 b 2
5	縄文土器	製塩土器 (20.5)	<12.0>	—	—	石英・長石・白雲母	7.5YR6/6 褐色	良	外面：口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面：ナダ。	安行 3b
6	縄文土器	製塩土器	—	<9.3>	—	石英・長石・白雲母	7.5YR6/4 に近い黄褐色	良	外面：口縁部ケズリ調整。体部ケズリ。 内面：ナダ。	安行 3b

No.	種別	器種	寸法 (cm)			重さ (g)	土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			長さ	幅	厚さ						
7	土製品	内盤	4.2	4.2	0.7	15.01	石英・角閃石を含む。				
8	土製品	内盤	5.4	6.3	1.0	40.01	口縁部片を利用。石英・白色粒を含む。				未製品。

表 37 16号土坑出土土物観察表

No.	種別	器種	寸法 (cm)			土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	29.5	<29.8>	—	石英・白雲母・白色粒	外：10YR4/2 灰青褐色 内：10.5Y6/7 黄褐色	良	外面：口縁部に3本の注線を施す。体部には黒い炭素織文を施す。黒い炭素織文を施す。 内面：ミゴキ。	堀之内 1
2	縄文土器	深鉢	—	<22.5>	—	石英・角閃石・金雲母 白色粒・赤色粒	外：7.5YR6/6 褐色 内：7.5YR6/2 灰褐色	やや良	外面：網・磨面技法による前後の条線が施される。 内面：ケズリ後、軽いミゴキ。	堀之内 1

表 38 23号土坑出土土物観察表

No.	種別	器種	寸法 (cm)			土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	11.2	8.8	7.0	石英・白雲母・白色粒 赤色粒	外：10YR7/4 に近い黄褐色 内：10YR6/2 灰青褐色	良	外面：注口による渦巻文を施す。 内面：ミゴキ。	
2	縄文土器	深鉢	—	9.2	8.8	石英・白雲母・白色粒	外：7.5YR6/6 褐色 内：10YR4/2 灰青褐色	やや良	外面：ミゴキ。横位の注線2条を施す。 内面：ミゴキ。	

表 39 25号土坑出土土物観察表

No.	種別	器種	寸法 (cm)			土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<10.8>	—	石英・白雲母・薄層黄斜・白色粒	5Y2/1 黒	良	外面：注口により文様帯を区画。注口内には、黒い炭素織文と上部三又文を施す。 内面：軽いミゴキ。	安行 3a
2	縄文土器	深鉢	—	<2.5>	(9.0)	石英・長石・角閃石・白色粒	5Y2/1 黒	良	外面：ミゴキ。底部網代文。 内面：ミゴキ。	安行 3a
3	縄文土器	注口土器	—	<11.7>	—	白雲母・薄層黄斜・白色粒	2.5Y2/1 黒	良	外面：体部上部は三又文・黒線文・磨り出し織文 (黒い炭素織文) を施す。下部は2本の平行注線が施される。 内面：ナダ。	安行 3a
4	縄文土器	製塩土器 (21.1)	<17.2>	—	—	石英・チャート・白色粒	外：5YR6/6 明赤褐色 内：5YR6/6 褐色	良	外面：口縁部ケズリ。体部ケズリ。 内面：ナダ。	安行 3a
5	縄文土器	手揉土器 (3.0)	2.2	2.2	1.1	石英・白雲母	7.5YR6/6 褐色	良	外面：指痕。 内面：指痕。点痕。	

No.	種別	器種	寸法 (cm)			重さ (g)	土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			長さ	幅	厚さ						
6	土製品	耳輪	直径 1.3	孔径 0.1	0.8	1.24	ナダによる整形。放射。石英・白雲母を含む。				
7	土製品	貝輪	7.1	(6.1)	0.4	5.36	風化が著しい。ペンケイガイを使用か?				

表 40 26号土坑出土土物観察表

No.	種別	器種	寸法 (cm)			土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	注口土器	—	<4.2>	—	石英・白雲母・白色粒 赤色粒	7.5YR3/1 黒褐色	良	外面：ミゴキ。4本の条線を施す。 内面：ナダ。	流れ込み

表 41 27号土坑出土土物観察表

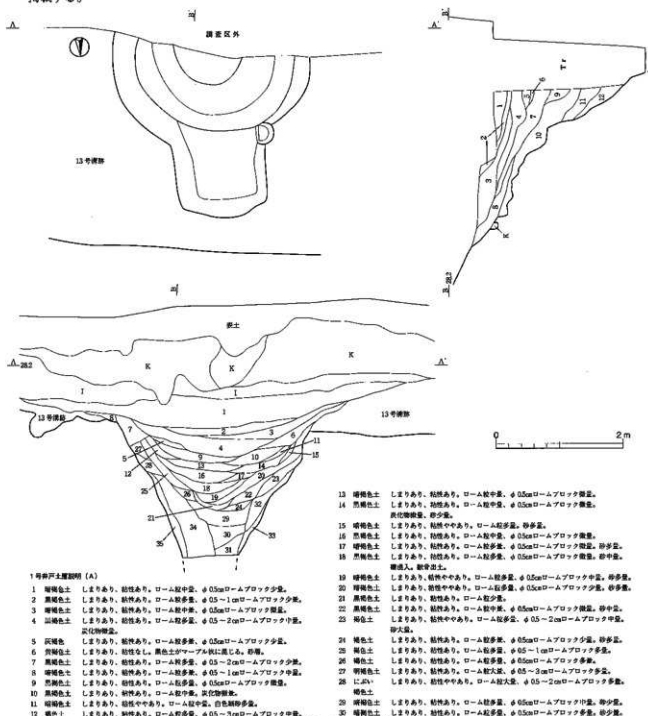
No.	種別	器種	寸法 (cm)			土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<10.4>	—	石英・白雲母・白色粒	7.5YR6/6 褐色	やや良	外面：口縁部に粗い磨り跡。太い注線を施す。 内面：ナダ。	安行
2	縄文土器	深鉢	(30.5)	<14.4>	—	石英・白雲母・薄層黄斜・白色粒・赤色粒	外：5YR5/4 に近い赤褐色 内：5YR5/6 明赤褐色	やや良	外面：口縁部と体部に縦横斜付後、体部上半は横位条線文を施す。縦位・斜位条線内の横位条線は4条施す。縦位・斜位条線内の横位条線は磨り跡。下部は軽い斜位条線を施す。 内面：ケズリ後、ナダ。	安行

No.	種別	器種	寸法 (cm)			重さ (g)	土質	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			長さ	幅	厚さ						
3	骨角器	ヤス	12.4	0.9	0.8	8.16	磨面を使用。経熱により曲がっている。				

第4節 井戸 (第53・54図)

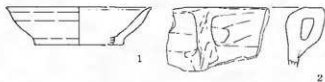
井戸跡は下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の北側、13号溝跡と重複する形で確認された。調査区幅の制約から全体像を窺い知ることは出来なかったが、推定直径3.1mの円形を呈するとみられ、北側には方形の平場を有している。掘削を行ったが、底面を確認することができず、検出面から約3.5m掘り下げたところで安全面を考慮し掘削を停止した。

調査区の壁面にて確認した土層から13号溝跡より新しいと判明。13号溝跡の覆土には井戸跡を掘削した時の粘土ブロックや砂が大量に混入していた。出土遺物はかわらけ・鍋・陶磁器が確認されており、15世紀後半～16世紀に属するものと思われる。また、流れ込みであるが、残存状態が良好な石製品が確認できたので掲載する。



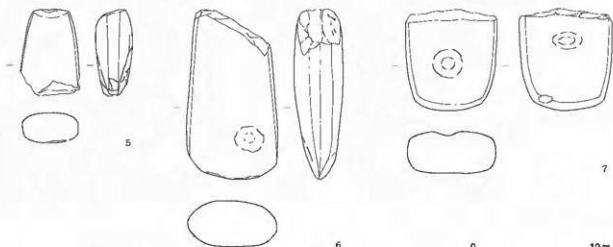
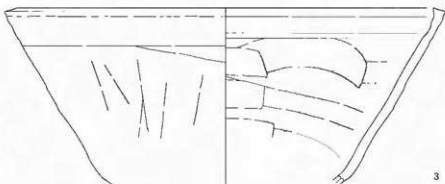
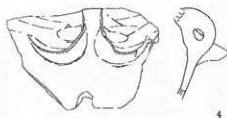
第53図 1号井戸跡

- 21 褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。砂中量。
- 22 灰褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量。
- 23 濃い 黄褐色土 しまりややあり、粘性なし。砂多。
- 24 褐色土 しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量。



1号井戸土層説明 (B)

- 1 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。灰化物微量。
- 2 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。灰化物微量。
- 3 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームブロック多量。
- 4 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-2cmロームブロック少量。灰化物微量。
- 5 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 6 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒中量。灰化物微量。
- 7 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 8 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック中量。
- 9 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック微量。
- 10 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック多量。砂少量。
- 11 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。砂多量。
- 12 濃い 灰褐色土 しまりややあり、粘性。砂多。



第54図 1号井戸跡出土遺物

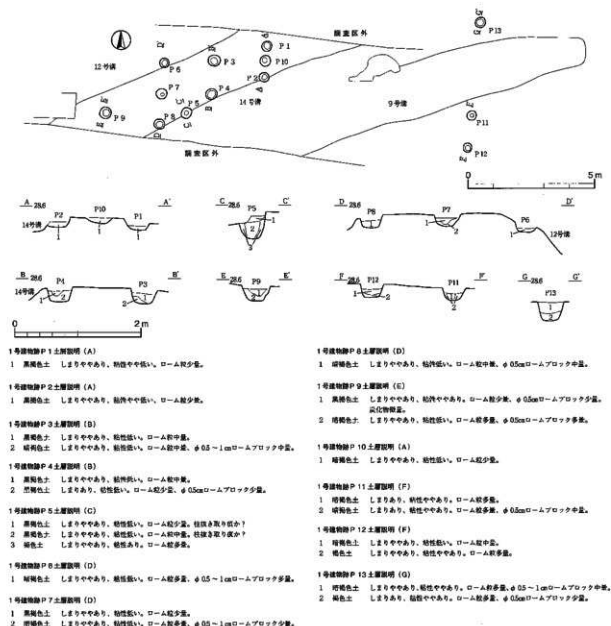
表 42 1号井戸跡出土遺物観察表

No.	種別	形状	寸法 (cm)			胎土	色調	底状	底・整形技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	土師質土器	かわらけ	(11.4)	3.0	(7.0)	白色粒・赤色粒	75YR/6 橙	丸	外面：ロタロ形。 内面：ロタロ整形。	
2	土師質土器	鍋	—	<4.7>	—	石美・白雲母	外：10YR3/1 黒褐 内：75YR6/6 橙	丸	外面：ナデ。スス付着。 内面：ナデ。	
3	土師質土器	鍋	(33.1)	<14.0>	—	石美・白雲母・赤色粒	外：75YR4/1 黒灰 内：5YR5/6 明橙	丸	外面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。 スス付着。 内面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	
4	土師質土器	茶碗	—	<7.2>	—	石美・白雲母	5YR4/4 に近い赤褐色	丸	外面：ナデ。 内面：ナデ。	

No.	種別	形状	寸法 (cm)			重さ (g)	底・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
5	石製品	磨製石斧	<6.8>	4.7	2.9	126	先端部欠損。砂岩。	流れ込み。
6	石製品	磨製石斧	<13.3>	7.1	3.9	630	基部欠損。緑色燧灰岩。	流れ込み。
7	石製品	磨石	<8.0>	7.2	3.3	330	表・裏・前面磨製。裏・裏面に磨打痕。安山岩。	流れ込み。

第5節 建物跡 (第55図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の北側、12号溝跡と9・14号溝跡の間で建物跡と考えられるピット群が確認された。いずれのピットも直径は40～50cm前後で、深さは20cm～50cmと浅く、柱痕が確認できたのはP5・11のみである。遺物の出土はなく明確な帰属時期は不明である。このような浅く軸方向を同じくするピットは、12号溝跡と9・14号溝跡の周囲においてしか確認できなかったため、溝に付随する施設(構列?)とも考えられる。



第55図 1号建物跡

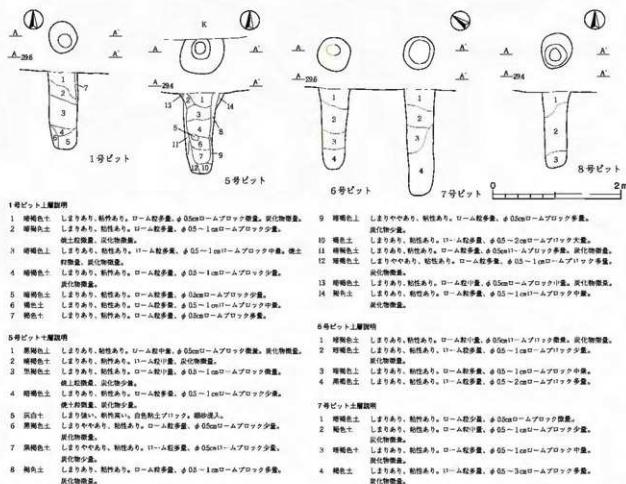
第6節 ピット (第56～59図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区で確認されたピットは36基である。ピットは調査区の南側と北西部に集中しており、南側に位置しているピットの半数は検出面から底面までの深さが1.0mを超えるもので、一部は柱のあたりとみられる硬化面も確認できた。明確に建物跡として組めるものはないが、1・6・7号ピット、20～24号ピットは近接しているため建物跡として機能していた可能性がある。また、遺物の出土が少なく明

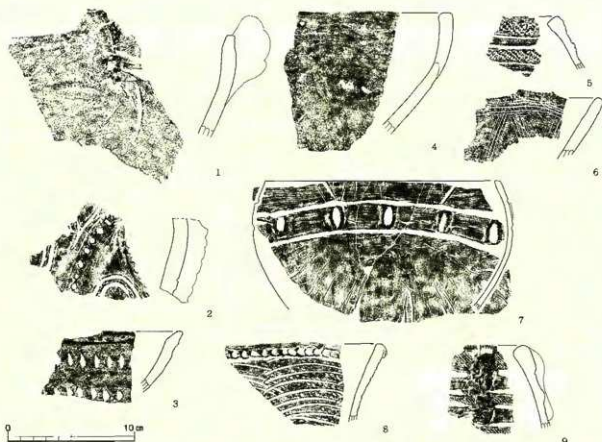
確な帰属時期は不明であるが、調査区の南側に位置しているピットは概ね縄文時代中期中葉～後期後葉に比定出来るとみられる。調査区北西部に位置しているピットは比較的浅く、32～42号ピットが密集しているが、こちらも建物跡として組めるものはない。P 35・36 から遺物が出土しており、概ね縄文時代後期中葉～晩期前葉に比定出来るとみられる。

表 43 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形状	備考	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m) 長軸×短軸	深さ (m)	平面 形状	備考
1号ピット	F 10	0.5 × 0.44	1.17	円形		22号ピット	E 9	0.45 × 0.45	1.18	円形	底面一部硬化。
3号ピット	F 9	0.51 × (0.1)	0.31	円形	4号ピットと重複。	23号ピット	E 9	0.71 × 0.62	1.6	円形	底面一部硬化。
4号ピット	F 9	0.46 × (0.37)	0.54	円形	3号ピットと重複。	24号ピット	F 10	0.78 × 0.64	1.27	円形	底面一部硬化。
5号ピット	F 7	0.66 × (0.34)	1.32	円形	底面一部硬化。	27号ピット	E 9	0.38 × 0.36	0.33	円形	
6号ピット	F 10	0.55 × 0.53	1.31	円形		29号ピット	E 9	0.32 × 0.29	0.6	円形	
7号ピット	F 10	0.5 × 0.48	1.67	円形		30号ピット	C 9	0.85 × 0.7	0.79	円形	
8号ピット	F 10	0.55 × 0.49	1.25	円形	底面一部硬化。	31号ピット	B 9	0.82 × 0.75	1.15	円形	
9号ピット	F 7	0.44 × 0.37	0.4	円形		33号ピット	A 6	0.55 × 0.5	0.53	円形	
10号ピット	F 6	0.52 × 0.45	1.44	円形	底面一部硬化。	34号ピット	A 6	0.6 × 0.55	0.96	円形	
11号ピット	F 5		0.66	円形		35号ピット	A 6	0.62 × 0.58	0.74	円形	
12号ピット	F 5	0.56 × 0.55	0.61	円形		36号ピット	A 6	0.47 × 0.44	0.34	円形	
16号ピット	F 5	0.5 × 0.47	0.65	円形		37号ピット	A 6	0.42 × 0.38	0.35	円形	
17号ピット	F 5	0.5 × (0.38)	0.61	円形		39号ピット	A 6	0.57 × 0.55	0.51	円形	
18号ピット	F 6	0.5 × (0.27)	0.58	(円形)		40号ピット	A 6	0.49 × 0.47	0.66	円形	
19号ピット	F 5	0.58 × (0.42)	0.56	楕円形		41号ピット	A 6	0.48 × 0.41	0.51	円形	
20号ピット	E 9	0.5 × 0.48	1.87	円形	底面一部硬化。	42号ピット	A 6	0.5 × 0.43	0.5	円形	13号土坑と重複。
21号ピット	E 9	0.52 × 0.48	1.42	円形	底面一部硬化。	43号ピット	A 7	0.58 × 0.49	1.12	円形	13号土坑と重複。



第 56 図 1・5～8号ピット



第59図 ビット出土遺物

表44 ビット出土遺物観察表

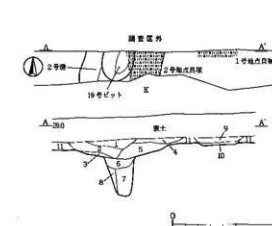
No	種別	形状	位置 (cm)			胎土	色調	焼成	底・裏面技法の特徴	備考
			口径	高さ	底径					
1	縄文土器	深鉢	—	<9.6>	—	石英・灰石・白雲母 外: 10YR3/2 黒褐 内: 2.5Y3/1 黒褐	やや良	外面: 口縁部に3線の軌土帯を刷付、突起を深溝。 内面: ナダ。	阿玉台 P 5 白土	
2	縄文土器	深鉢	—	<6.7>	—	石英・灰石・白雲母 7.5YR5/4 に近い黄褐	良	外面: 口縁部の把手、聚帯を刷付、周囲に沈線を施す。 内面: ナダ。	阿玉台 P 5 白土	
3	縄文土器	鉢	—	<4.8>	—	石英・灰石・白雲母 外: 10YR5/4 に近い黄褐 内: 7.5YR5/4 に近い黄褐	良	外面: ナダ整形後、角押文を施す。 内面: ナダ。	阿玉台 P 5 白土	
4	縄文土器	鉢	—	<3.6>	—	石英・チャート・白雲母・金雲母 7.5YR6/5 黄褐	やや良	外面: ミズギ。輪埴み痕。 内面: ミズギ。輪埴み痕。	阿玉台 P 17 白土	
5	縄文土器	陶質土器?	—	<4.2>	—	石英・白雲母・赤色粒 7.5YR3/1 黒褐	良	外面: 平行沈線を施し、文様帯を区画。 内面: ナダ。	後期後遺 P 20 白土	
6	縄文土器	深鉢	—	<4.9>	—	石英・白雲母・白色粒 外: 5YR5/4 に近い赤褐 内: 5Y2/1 黒	良	外面: 磨面状工具による斜位条線状、口縁部に横位条線を施す。 内面: ミズギ。	陶之内 P 33 白土	
7	縄文土器	鉢	—	<10.3>	—	石英・白雲母・海綿骨粒 10YR7/4 に近い黄褐	良	外面: 2本の平行沈線を施す。粘土層を刷付。 内面: 1重条ミズギ。	安行 P 25 白土	
8	縄文土器	深鉢	—	<8.1>	—	石英・海綿骨粒・白色粒 10YR5/4 に近い黄褐	良	外面: 横位条線を施す。口縁部に沈線を刷付。 内面: ミズギ。	安行 P 25 白土	
9	縄文土器	深鉢	—	<8.8>	—	石英・白雲母・海綿骨粒 外: 5YR5/6 別赤褐 内: 7.5YR5/4 に近い黄褐	良	外面: 粘土層、磨面刷付後、沈線を施して文様帯を区画。R1準跡刷文を施す。 内面: ナダ。	安行 P 26 白土	

第7節 地点貝塚 (第60図)

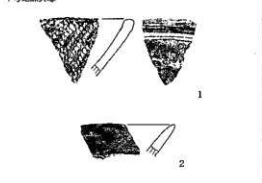
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区では、調査区の南西部で2ヶ所の地点貝塚を確認している。確認された地点貝塚は小規模なもので、試掘調査によって判明していた畑地帯の地点貝塚の一部であるとみられる。土層観察の結果、浅い窪地に貝が投棄されて貝塚が形成されたものと考えられる。出土した貝はヤマトシジミを主体としており、貝製品も確認されたが、貝塚の大部分は攪乱によって消滅している。

表 45 地点貝塚一覧表

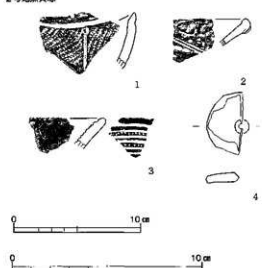
1号地点貝塚	F5	0.56 × 0.37	0.12	不整形	縄文土器・骨・貝	縄文時代後期
2号地点貝塚	F5	0.54 × 0.12	0.24	不整形	縄文土器・骨・貝・鹿角・貝輪	縄文時代後期 2号跡と重複。2号面が新しい。



1号地点貝塚



2号地点貝塚



第 60 図 地点貝塚・地点貝塚出土遺物

表 46 1号地点貝塚出土遺物観察表

1	縄文土器	漆黒	-	<43>	-	石英・白雲母	HYR6/4 による夾層	良	外面: LR 準平行縄文を施文。 内面: 2条の平行沈線を施す。	層之内 2 -加骨利 B1
2	縄文土器	漆黒	-	<25>	-	石英・白雲母	HYR2/1 属	良	外面: 5字角。沈線残存。 内面: 5字角。	層之内 2 -加骨利 B1

地点貝塚土器説明

(1~3層: 2号跡。4・5層: 2号地点貝塚。6~8層: 19号ピット。9・10層: 1号地点貝塚)

- 1 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
漆十割少量。炭化物微量。
- 2 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
漆土粒少量。炭化物微量。
- 3 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
漆土粒少量。
- 4 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05-1cmロームブロッコ少量。
漆土粒少量。
- 5 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
貝大骨 (ヤマトシジキ他、鹿角、反輪法土)。
- 6 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
- 7 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05-2cmロームブロッコ少量。
- 8 新土
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
- 9 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05cmロームブロッコ少量。
貝大骨 (ヤマトシジキ他)。
- 10 新土
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05-1cmロームブロッコ少量。
貝少量。
- 11 縄文土器
しまりあり、紋色あり。ローム紋多量。φ05-2cmロームブロッコ少量。
無彫刻とみられる。

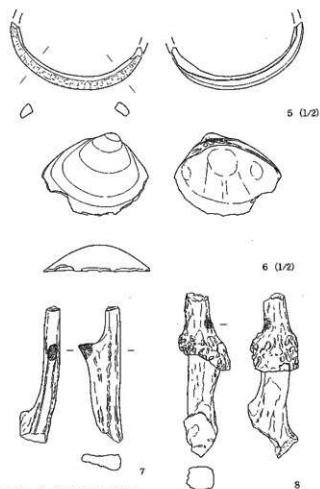


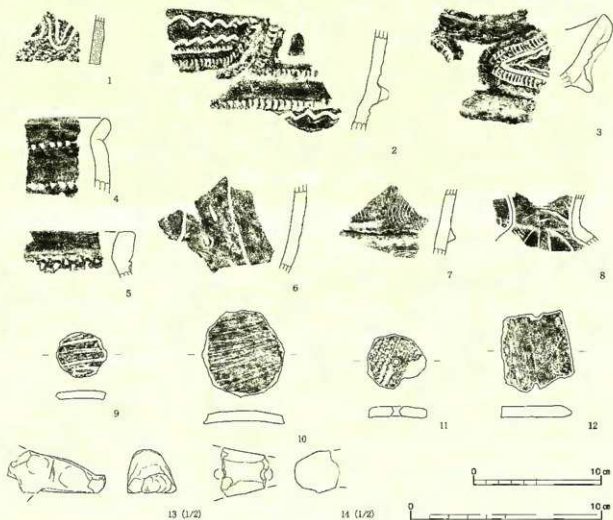
表 47 2号地点貝塚出土遺物観察表

No.	種別	図像	法量 (cm)			胎土	色調	構成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	筒高	底径					
1	縄文土器	鉢	—	<4.4>	—	G灰・白雲母・白色粒	外：5YR5/2程度 内：10YR5/4に多い雲母	良	外面：L系草筋縄文を施文後、反瀬と竹管状の刺突表現を施す。 内面：ミダリ。	堀之内1
2	縄文土器	浅鉢	—	<2.1>	—	G灰・白雲母・海綿骨粒	外：10YR3/2系調 内：10YR5/3に多い雲母	良	外面：斜位条痕を施す。L線部隆起貼付。 内面：ミダリ。	堀之内2 ～加賀利D1
3	縄文土器	浅鉢	—	<2.4>	—	G灰・白雲母	7.5YR5/3に多い焼	良	外面：ミダリ。 内面：平行沈線を高らし、沈線間に斜突表現を施す。	加賀利H1

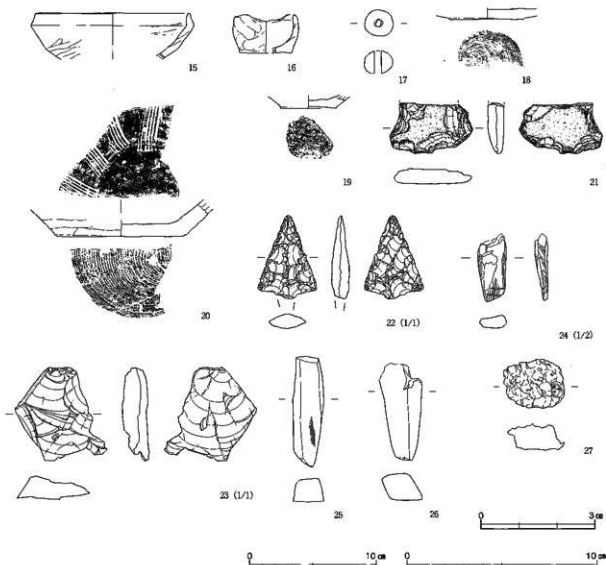
No.	種別	図像	法量 (cm)			重さ (g)	成・整形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
4	土製品	有孔円盤	5.0	<2.6>	0.7	12.15	両方向からの穿孔。石灰を含む。	
5	土製品	貝輪	<7.1>	0.7	0.7	6.54	約45研磨。完成品。磨損後の磨擦か?ペンケイガイを使用。	
6	土製品	貝笏	4.3	5.6	1.4	9.35	磨き部を除く約60%が笏部として使用。腹面の一部は使用によって減少。ハマダリを使用。	
7	軟骨	鹿角	<10.8>	3.3	1.2	19.11	一部軟熟により黒ずんでいる。上部は分割する際のみとみられる痕跡が確認できる。	
8	軟骨	鹿角	<13.0>	4.0	1.8	50.94	一部軟熟により黒ずんでいる。	

第8節 遺構外出土遺物 (第61図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から27点を掲載する。坂田台山古墳群と同様に縄文時代前期の上器がわずかに確認される。また、土製品・石器も多数確認された。古墳時代～中世にかけての遺物も出土するが、縄文時代の遺物に比べると出土数は少ない。また、椀形器も確認されたことから、調査区周辺にて小鍛冶が行われていた可能性が考えられる。



第61図 遺構外出土遺物



第 62 図 遺構外出土遺物

表 48 遺構外出土遺物観察表

品番	種類	形状	寸法	材質	特徴	備考	
1	縄文土器	深鉢	<4.0>	白磁母・緑釉・白色釉	外：5YR5/6 明赤褐色 内：10YR5/4 に近い黄褐色	良 外周：L.R. 草履縄文・基糸縹を施す。 内周：ミダギキ	黒沢
2	縄文土器	深鉢	<8.0>	石英・長石・白雲母・金鱗母	10YR7/4 に近い黄褐色	良 外周：隆帯を貼付け、隆帯の周囲に角押文・波状の法線を施す。 内周：ナデ。	藤取
3	縄文土器	深鉢	<6.1>	石英・長石・白雲母・金鱗母	10YR7/4 に近い黄褐色	良 外周：隆帯を貼付け、隆帯で区画された中に角押文・波状の法線を施す。 内周：ナデ。	阿玉台原
4	縄文土器	深鉢	<6.0>	石英・長石・白雲母・金鱗母	10YR7/6 明黄褐色	良 外周：角押文を施す。 内周：ナデ。	阿玉台原
5	縄文土器	深鉢	<3.7>	石英・長石・白雲母・金鱗母	7.5YR6/4 に近い黄褐色	良 外周：口縁部以下に斜交文が交互に施される。 内周：ミダギキ。	加賀野区
6	縄文土器	深鉢	<7.0>	石英・長石・白雲母	外：7.5YR5/6 黄褐色 内：10YR4/1 褐色	良 外周：北縁区画内に列点文を施す。 内周：ナデ。	赤名寺 2
7	縄文土器	深鉢	<5.3>	石英・長石	外：10YR5/3 に近い黄褐色 内：10YR5/4 に近い黄褐色	良 外周：隆帯を貼付け、樹皮状工具により懸垂文を施す。 内周：ナデ。	赤名寺 2
8	縄文土器	器形土器	<4.0>	石英・長石・白雲母	10YR3/1 黒褐色	良 外周：体部に縦位と斜位の法線で文様等を区画。L.R. 草履縄文を施す。 内周：ミダギキ。	安行 2
15	土師器	杯	(12.0) <3.6>	石英・白雲母・白色釉	外：7.5YR4/3 褐色 内：10YR5/4 に近い黄褐色	良 外周：ヘラケズリ肌、ヘラミダギキ。 内周：ヘラナデ。	

16	一作器	ミニシアブ 皿蓋	150	4.0	130	石英・白磁粉・白色粒	BYD4 6に白い薬片	真	外蓋：ナブ。 内蓋：ナブ。
18	十徳目土器	小皿	—	<1.5>	45	石英・白色粒	SYR6 6型	真	外蓋：ロタロ彫形。底部彫刻あり。 内蓋：ロタロ彫形。
19	陶器	皿	—	<0.9>	5.8	白色粒	SY7/白灰白	真	外蓋：ロタロ彫形。底部彫刻あり。 内蓋：灰釉。裏は焼痕あり。
20	陶器	漆鉢	—	<2.9>	110.2	白色粒・赤色粒	SYX7 6型	真	外蓋：ヘラケズリ風。ナブ。底部は彫刻あり。 内蓋：ナブ張。裏目6本。

No	種類	容積	法量 (cm)			重さ (g)	底・彫形技法の特徴ほか	備考
			長さ	幅	厚さ			
9	土製品	円盤	4.0	3.8	0.7	105	石膏・白色粒を含む。	
10	土製品	円盤	6.9	6.0	0.7	16.18	石膏・漆喰骨子・白色粒を含む。	
11	土製品	右丸円盤	4.7	4.3	0.8	17.96	四方筒からの穿孔。石英・白色粒を含む。	
12	土製品	土師片蓋	6.3	5.7	0.8	42.22	円筒部押を残留。2ヶ所に切り込みを入れる。石英・白色粒を含む。	
13	土製品	動物(?)	<5.2>	2.6	2.3	22.96	捺状粘土を指による押印で彫形。動物の尻?/裏・白色粒を含む。	
14	土製品	不明	<2.9>	2.6	<2.9>	13.78	捺状粘土を指による押印で彫形。2ヶ所の穿孔を彫形。黒漆不明。石膏・白色粒を含む。	
17	土製品	上下	直径 20	孔径 0.5	1.8	7.32	ナブによる彫形。一方筒からの穿孔。石膏・白色粒を含む。	
21	土製品	打割石鉢	<3.9>	0.4	1.3	42.05	底部欠損。	
22	石製品	打割石鉢	<2.1>	1.6	0.4	1.05	石膏・黒鉛欠陥。チャートを使用。	
23	土製品	石師削片	2.5	2.1	0.7	2.88	土製品か。チャートを使用。	
24	土製品	不明	<3.6>	1.0	0.7	4.89	石膏を残留。漆喰液を締結。黒漆不明。漆器行記を使用。	
25	石製品	研石	6.5	2.4	2.3	57.96	石膏を残留。一部にえとみられる彫刻を確認。留し穴を使用。	
26	石製品	砥石	7.6	3.1	2.1	51.68	石膏を残留。漆喰層を使用。	
27		彫形器	5.3	3.8	2.1	52.52	木炭粉を締結。	

第6章 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区

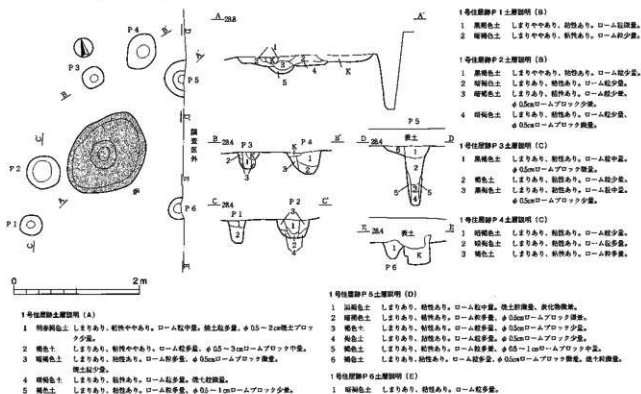
下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区の調査は平成24年3月2日～平成24年3月16日まで行われた。確認された遺構は、竪穴住居跡2軒、溝2条、土坑16基、ピット24基を数える。

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡(第63図)

位置 B1・2グリッドに位置している。床 硬化面等は確認できなかった。ピット 炉跡の周囲に6基のピットが巡るが、不規則でピットの深さも一定ではない。炉 長軸145cm×短軸110cm、深さ26cmを測る。

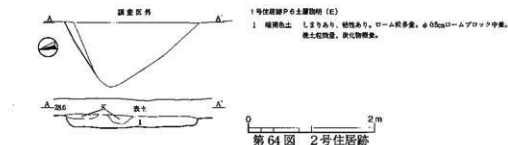
遺物 炉跡内から縄文土器の小片が出土したのみである。所見 検出された炉と、炉の周囲で確認されたピットから住居であると想定したが、明確に住居として捉えられる要素は少ない。帰属時期は不明である。



第63図 1号住居跡

2号住居跡(第64図)

位置 A2グリッドに位置している。規模 南北1.8m以上×東西1.25以上mの方形を呈すとみられる。主軸方位 N-20°-W。壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。床 ほぼフラットであるが、硬化面は確認できなかった。ピット 確認できなかった。遺物 覆土中から遺物の出土はみられなかった。所見 住居であると想定したが、明確に住居として捉える要素は少なく、帰属時期は不明である。



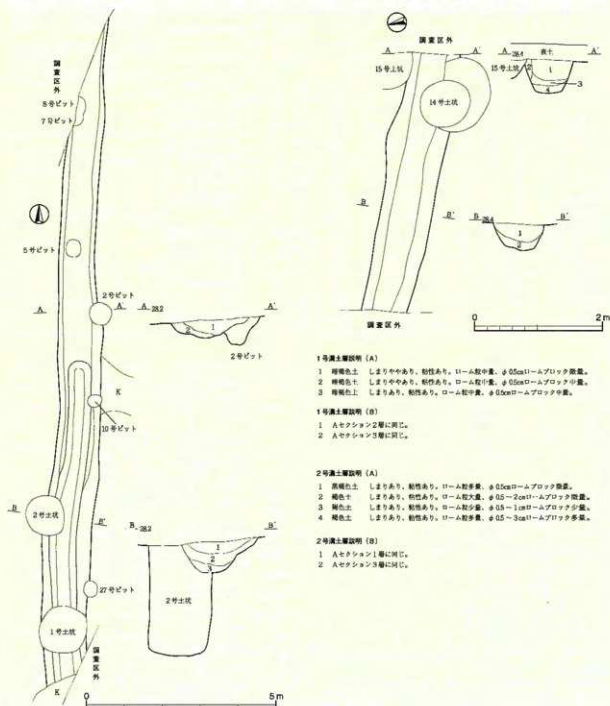
第64図 2号住居跡

第2節 溝跡 (第65図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された溝跡は2条である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。1号溝跡は南北方向に走行し、2号溝跡は東西方向に走行する。いずれも覆土中からは流れ込みとみられる縄文時代の土器片が出土するが、帰属時期は中世であるとみられる。

表 49 溝跡一覧表

遺跡名	位置 グリッド	軸方位	深さ (m)		深さ (m)	遺物	時期	備考
			上端幅	下端幅				
1号溝	I 3	N - 1° - E	1.3	0.34	0.82	縄文土器	中世?	1・2号十坑と重複。1・2号十坑より新しい。
2号溝	I 3	N - 63° - W	0.96	0.42	0.53	縄文土器・陶磁器	中世?	14・15号土坑と重複。15号土坑より古い。



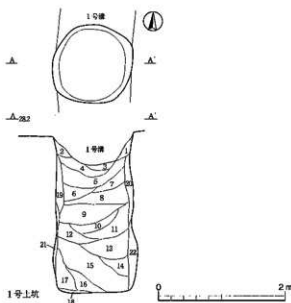
第65図 1・2号溝跡

第3節 土坑 (第66～70図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認された土坑は16基である。位置・軸方位などの詳細は一覧表にて記載した。出土した遺物から、確認された土坑のほとんどは縄文時代後期に属するとみられるが、1・2号土坑は縄文時代晩期前葉に比定される円筒形の土坑である。1区15・21・25土坑と同様の深い土坑で、覆土中に貝が混入している点では、1区25号土坑と類似している。ただし、1号土坑と2号土坑では覆土中の貝の量に大きな差がある。円筒形の土坑に関しては第7章にて記載する。

表50 土坑一覧表

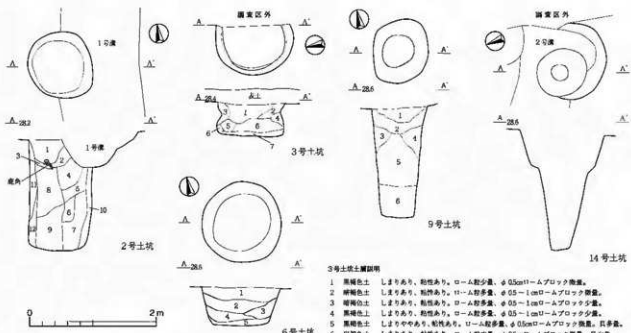
1号土坑	C1	—	1.25 × 1.25	2.5	円形	縄文土器・貝・炭骨魚骨	縄文時代晩期前葉	土坑内の覆土全体に大量の土器と貝が混入。覆土層は貝の混入が多く、下層はやや少なくなる。
2号土坑	B1	N・41°・W	1.08 × 1.0	1.78	円形	縄文土器・貝・鹿角獸骨・魚骨	縄文時代晩期前葉	土坑内の覆土に貝が混入している層が確認された。底層からはインシの遺骨とみられる骨が出土。一部後世掘り込み?
3号土坑	B2	N・16°・E	1.23 × (0.76)	0.45	円形	縄文土器・貝	縄文時代後期前葉	袋状土坑。一部に貝が混入している層を確認。
4号土坑	B1	N・33°・E	0.87 × 0.84	0.23	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
5号土坑	A2	N・14°・W	0.97 × 0.9	0.48	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
6号土坑	A2	N・66°・W	1.29 × 1.25	0.66	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
7号土坑	A2	N・69°・E	1.77 × 1.46	0.65	方形	縄文土器・陶器	縄文時代後期前葉～中葉	陶器は重複する13号土坑のものか?
8号土坑	A2	N・36°・E	1.36 × (0.73)	0.63	不整形	縄文土器	縄文時代後期	
9号土坑	A2	N・9°・W	1.03 × 0.87	1.56	円形	縄文土器	縄文時代後期後葉	
10号土坑	A2	N・9°・W	1.14 × 0.86	0.21	不整形	なし	不明	覆土中に縄文を確認。伊織?
11号土坑	A2	N・52°・W	0.64 × 0.6	1.34	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	
12号土坑	A2	N・52°・E	0.69 × 0.65	1.13	不整形	縄文土器	縄文時代後期後葉	
13号土坑	A2	N・41°・W	1.16 × 1.07	1.0	円形	なし	泥炭層?	後世掘り込み。井ノ跡か?
14号土坑	A2	N・29°・W	(1.22) × 1.18	1.82	円形	縄文土器	縄文時代後期前葉	2号溝と重複。14号土坑が古い
15号土坑	A2	N・17°・E	0.95 × (0.57)	0.3	円形	縄文土器	中世?	2号溝と重複。15号土坑が新しい。
16号土坑	A2	N・15°・E	1.06 × (0.37)	1.45	円形	縄文土器	縄文時代後期中葉～後葉	



- 1号土坑土層説明
- 1 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック中量。
 - 2 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量。貝少量。
 - 3 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～2cmロームブロック少量。貝少量。
 - 4 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。貝少量。炭骨混入。

- 5 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック少量。炭化物中量。貝少量。
- 6 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。φ0.5～3cmブロック少量。貝少量。
- 7 山崎土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。貝少量。
- 8 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック中量。炭化物少量。φ0.5cmブロック少量。貝中量。
- 9 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～2cmロームブロック少量。炭化物少量。φ0.5～1cmブロック少量。貝少量。
- 10 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。φ0.5cmブロック少量。貝少量。
- 11 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。φ0.5cmブロック中量。貝中量。
- 12 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒中量。φ0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。φ0.5cmブロック少量。貝少量。
- 13 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量。炭化物少量。φ0.5～4cmブロック少量。貝中量。
- 14 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。炭粒多量。炭化物少量。炭粒少量。貝中量。
- 15 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。炭粒少量。貝中量。
- 16 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5～2cmロームブロック少量。炭化物少量。炭粒少量。貝中量。
- 17 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5～2cmロームブロック中量。炭化物少量。炭粒少量。貝中量。
- 18 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。炭粒少量。貝少量。
- 19 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～3cmロームブロック少量。炭化物少量。炭粒少量。貝少量。
- 20 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～4cmロームブロック少量。炭土粒少量。炭化物少量。炭粒少量。貝少量。
- 21 腐植土 しまりやあり、粘性高い。ローム粒多量。φ0.5～2cmロームブロック中量。炭土粒少量。炭化物少量。炭粒少量。貝少量。
- 22 腐植土 しまりやあり、粘性あり。ローム粒多量。φ0.5～1cmロームブロック中量。炭化物少量。炭粒少量。貝少量。

第66図 1号土坑



2号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック散在。炭化物散在。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。炭化物散在。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 4 褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 5 暗色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。炭化物散在。
- 6 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック多量。炭化物散在。
- 7 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック多量。炭化物散在。
- 8 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。炭化物散在。貝多量。
- 9 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-0.8cmロームブロック少量。炭化物散在。貝多量。
- 10 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 11 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 12 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。

3号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック散在。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック散在。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック散在。貝多量。
- 6 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 7 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-1cmロームブロック少量。

6号土坑土層説明

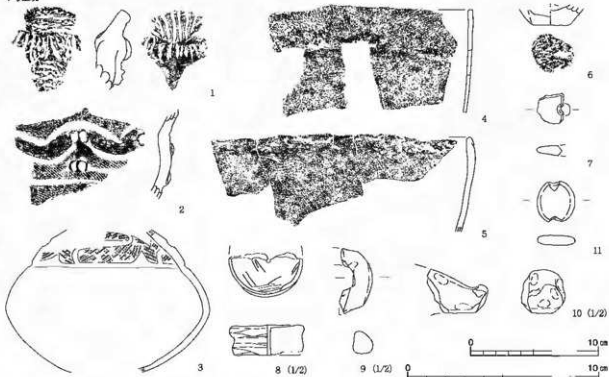
- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック多量。

9号土坑土層説明

- 1 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5cmロームブロック散在。炭化物散在。
- 2 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 3 暗褐色土 しまりあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-2cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 4 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒少量。φ 0.5-1cmロームブロック散在。
- 5 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-3cmロームブロック少量。炭化物散在。
- 6 暗褐色土 しまりややあり、粘性あり。ローム粒多量。φ 0.5-3cmロームブロック多量。

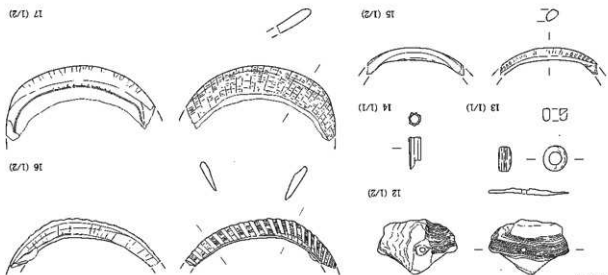
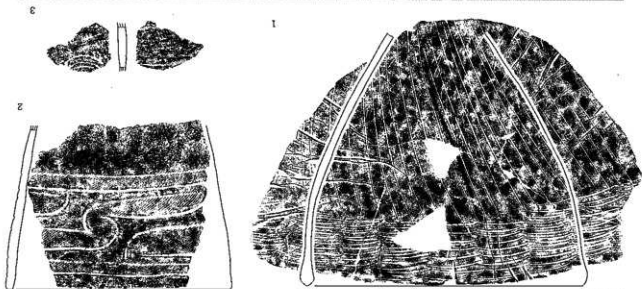
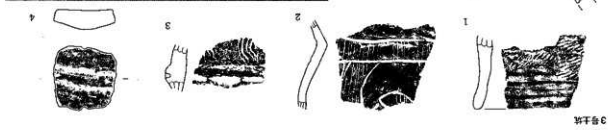
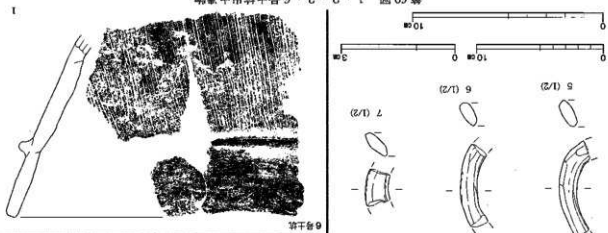
第67図 2・3・6・9・14号土坑

1号土坑

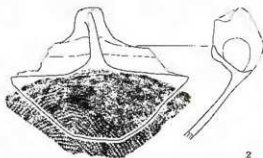


第68図 1号土坑出土遺物

第69圖 1·2·3·6号土坑出土遺物



6号土坑



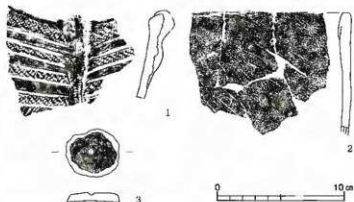
2

14号土坑



1

9号土坑



1

2

3

第70図 6・9・14号土坑出土遺物

表51 1号土坑出土遺物観察表

No.	種別	形状	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	織文土器	深鉢	—	<6.3>	—	石灰・白雲母・海綿骨 針	外: 75YR12/7 黒 内: 5YR5/9 明赤褐	良	外面: 波状口縁の縁部。軟土層の粘付付後、沈積を施す。 内面: 沈積を施す。	安行 3a
2	織文土器	深鉢	—	<7.1>	—	石灰・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	中や良	外面: 沈積を波状に施し採具痕跡付文を加える。少し彫刻織文を施す。 内面: 焼いとがみ。	安行 3a
3	織文土器	浅口土器	—	<11.3>	—	石灰・白雲母	10YR2/1 黒	良	外面: 沈積で文様帯を区画し、彫刻不明の附加帯織文 L8+2r を施す。 内面: ナデ。	安行 3a
4	織文土器	頸強土器	—	<8.2>	—	石灰・灰石・白雲母	5YR6/6 黄	良	外面: 器面摩滅。 内面: ナデ。	安行 2-3a
5	織文土器	頸強土器	—	<7.5>	—	石灰・白雲母・白色粒	10YR6/6 黄緑	良	外面: ナデ。 内面: ナデ。	安行 2-3a
6	織文土器	頸強土器	—	<1.6>	2.9	石灰・白雲母・赤色粒	5YR6/6 黄	良	外面: ナデ。 内面: ナデ。	安行 2-3a

No.	種別	形状	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
7	土製品	有孔円盤	<2.3>	<1.9>	0.8	4.08	陶方向からの穿孔。石灰・白雲母を含む。	
8	土製品	写筒形	直径 3.9	孔径 0.2	1.6	15.33	全面にゴキ調製。彫形。石灰・白雲母・金雲母・赤色粒を含む。	
9	土製品	写筒形?	直径 0.5	幅 1.0	1.2	5.19	ナデによる彫形。現状互食い形? 白雲母・金雲母を含む。	
10	土製品	動物?	3.3	2.3	2.4	11.86	ナデによる彫形。動物の痕か? 石灰・白雲母を含む。	
11	石製品	石錐	3.2	2.9	0.8	10.23	両端に削れ目。	
12	土製品	器蓋物?	4.2	2.8	0.3	2.95	陶方向からの穿孔。未製品? アフビを使用。	
13	土製品	平玉	直径 0.6	孔径 0.3	0.3	0.06	小巻目を輪切りにしている。ウミニナ盤を使用か?	
14	土製品	管玉	<0.8>	直径 0.3	孔径 0.25	0.03	上部欠損。ヤコソフノゴイを使用。	
15	土製品	貝輪	<5.0>	0.6	0.4	2.84	内外面磨蝕。ペンクイゴイを使用。	
16	土製品	貝輪	<7.8>	1.1	0.4	12.37	外面磨蝕。未製品。サカダウ盤を使用。	
17	土製品	スクリンター?	<7.8>	1.8	0.5	20.46	波面磨蝕。土器の文様付けに使用か? ハマダリの大皿か?	

表52 2号土坑出土遺物観察表

No.	種別	形状	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	底径					
1	織文土器	深鉢	(21.6)	<20.0>	—	石灰・白雲母・海綿骨 針・白色粒	外: 0YR6/6 緑 内: 5YR6/3 黄	良	外面: 波状口縁の縁部。波状縁を施す。 内面: ナデ。	安行 3b
2	織文土器	深鉢?	—	<7.1>	—	石灰・白雲母・角閃石	10YR2/1 黒	中や良	外面: 平行波状と入組文で文様帯を区画し、L 貝面彫刻文を施す。 内面: 焼いとがみ。	安行 3b
3	織文土器	鉢	—	<11.3>	—	石灰・灰石・白雲母	10YR2/1 黒褐	良	外面: 焼いとがみ。 内面: 焼いとがみ。風文帯を施す。	安行 3b

表53 3号土坑出土遺物観察表

1	縄文土器	深鉢	—	<3B>	—	石英・白雲母・赤色粒	75YR7/6黄	良	外面：L.R.卑部縄文を施す。 内面：ミガキ。	跡名寺2
2	縄文土器	深鉢	—	<7D>	—	石英・白雲母・角閃石	10YR2/3にふい黄橙	良	外面：沈澱によって文様帯を区画し、磨 蝕状工具で磨蝕文を施す。 内面：ミガキ。	跡名寺2
3	縄文土器	深鉢	—	<37>	—	石英・長石・白雲母	2.5YR4/6赤褐	良	外面：磨帯を貼付け、磨蝕状工具で磨蝕 文を施す。 内面：ナガ。	網取1

表54 6号土坑出土遺物観察表

4	土製品	土器内蓋	5.1	4.9	1.5	38.3	陶胎に削れ目。石英・長石・白雲母を含む。			
5	土製品	貝輪形	<7D>	1.4	2.1	20.79	外面：ケズリ後。ナガ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。			
6	土製品	貝輪形	<6D>	1.4	1.8	15.79	外面：ナガ。内面：ケズリ。石英・長石・白雲母を含む。			
7	土製品	貝輪形	<3D>	1.8	1.9	6.35	外面：ナガ。内面：ケズリ。石英・白雲母・赤色粒を含む。			

表55 9号土坑出土遺物観察表

1	縄文土器	深鉢	—	<14S>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/3にふい黄	やや良	外面：磨帯を貼付け、磨蝕状工具で磨蝕 文を施す。 内面：粗いミガキ。	網取1
2	縄文土器	深鉢	—	<10S>	—	石英・長石・白雲母	10YR6/4にふい黄橙	やや良	外面：口縁部に把手を取り付け、体部に はR.L.卑部縄文を施す。 内面：磨蝕文。	網取1

表56 14号土坑出土遺物観察表

1	縄文土器	深鉢	—	<67>	—	石英・白色粒・赤色粒	外：5YK5/3赤褐 内：7.5YR2/1黄	良	外面：磨帯と粘土粒を貼付け、沈澱で文 様帯を区画し、磨蝕状工具で磨蝕文 を施す。 内面：ミガキ。	実行1
2	縄文土器	深鉢	—	<97>	—	石英・角閃石・白雲母・ 輝石群片	外：10YR6/4にふい黄 内：7.5YR6/6黄	良	外面：ケズリ。 内面：ナガ。	実行1
3	土製品	有孔内蓋	3.8	4.1	0.6	13.32	穿孔途中で破断か？未製品。石英・白雲母・輝石群片を含む。			

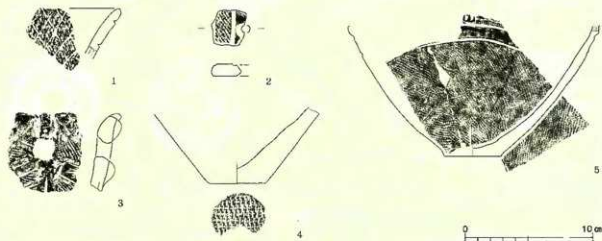
第4節 ビット (第72図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区で確認されたビットは24基である。遺物の出土量には差があり、個体となるものはほとんど見受けられなかった。出土した土器は縄文時代後期が主体となり、わずかに晩期前葉の土器を確認している。ビットは1区と比べると全体的に浅く、深さが1mを超えるビットは2基のみである。

表57 ビット一覧表

1号ビット	B1	0.52 × 0.46	0.45	方形	7号ビット	B1	0.37 × (0.21)	0.38	円形	8号ビットと重複。
2号ビット	B1	0.62 × 0.58	0.45	円形	8号ビット	B1	0.43 × (0.24)	0.48	円形	7号ビットと重複。
4号ビット	B1	0.81 × 0.74	0.96	円形	10号ビット	B1	0.4 × 0.34	0.44	円形	
5号ビット	B1	0.46 × 0.39	0.44	円形	11号ビット	B2	0.35 × 0.22	0.31	円形	1号住居跡P6
6号ビット	B1	0.4 × 0.42	0.48	円形	12号ビット	B1	0.35 × 0.33	0.48	円形	1号住居跡P1

遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	時期	遺構名	位置 (グリッド)	規模 (m)		深さ (m)	平面 形態	時期
		長軸×短軸	面積						長軸×短軸	面積			
13号ピット	B 1	0.54 × 0.54	0.35	円形	1号住居跡 P 2		20号ピット	A 2	0.7 × 0.58	1.15	円形		
14号ピット	B 2	0.37 × 0.32	0.29	円形	1号住居跡 P 3		21号ピット	A 2	0.5 × 0.44	0.67	円形		
15号ピット	B 2	0.58 × 0.45	0.38	円形	1号住居跡 P 4		22号ピット	A 2	0.52 × 0.47	0.44	円形		
16号ピット	B 2	0.58 × (0.3)	0.88	円形	1号住居跡 P 5		24号ピット	A 2	0.49 × 0.46	1.23	円形		
17号ピット	B 1	0.49 × 0.39	0.41	円形			25号ピット	A 2	0.6 × 0.58	0.51	円形		
18号ピット	A 2	0.47 × 0.41	0.29	円形			26号ピット	A 2	0.5 × 0.47	0.81	円形		
19号ピット	A 2	0.4 × 0.34	0.25	円形			27号ピット	B 1・C 1	0.64 × (0.42)	0.38	円形		



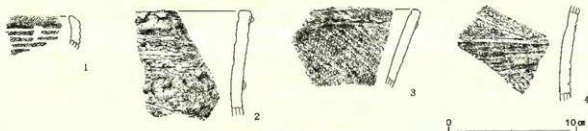
第71図 ピット出土遺物

表58 ピット出土遺物観察表

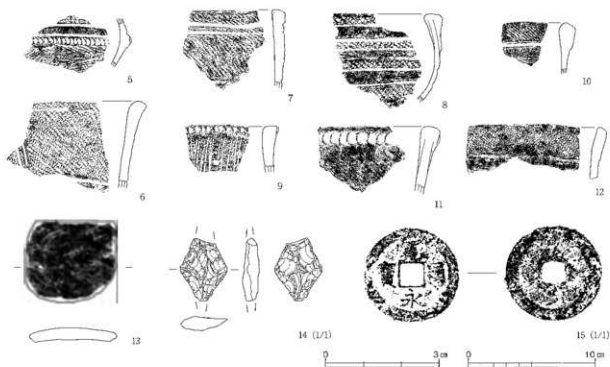
No.	種別	特徴	注量 (cm)			粘土	色調	焼成	成・整形技法の特徴	備考
			口径	器高	全径					
1	縄文土器	深鉢	—	<4.0>	—	石英・白色粒	10YR2/1 黒	良	外面：斜格子目文を施す。 内面：ミゴキ。	加賀利 B 2 P 1出土
3	縄文土器	深鉢	—	<6.1>	—	石英・長石・白色粒	外：5YR2/1 黒地 内：7.5YR4/6 赤地	良	外面：粘土層を貼付け、穿孔。沈澱によって文様帯を区画し、R L 準筋縄文を施す。 内面：ミゴキ。	安行 1 P 4 出土
4	縄文土器	深鉢	—	<6.0>	4.4	石英・長石・角閃石・白色粒	5YR6/6 橙	良	外面：ケズリ後、堀いミゴキ。底部磨代敷。 内面：ナダ。	安行(古) P 17 出土
5	縄文土器	深鉢	—	<10.3>	4.4	石英・長石・白色粒・赤色粒	10YR4/2 灰黄緑	良	外面：沈澱によって文様帯を区画。底部下平はR L 準筋縄文を、上平は沈澱上部に斜交縦線を加え、扉縁状を施す。 内面：ナダ。	安行 2 P 19 出土
2	土製品	有孔円盤	<2.7>	<2.6>	1.0	8.96	西方向から穿孔。石英・長石・白色粒を含む。		成・整形技法の特徴はか	P 2 出土

第5節 遺構外出土遺物 (第73図)

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区の調査で、遺構外より出土した遺物の中から15点を掲載する。2区においては縄文時代中期以前の土器は確認されておらず、掲載遺物のほとんどは縄文時代後期に帰属する。また、直接帰属する該期の遺構は確認できなかったが、「寛永通宝」が1点出土している。



第72図 遺構外出土遺物



第73図 遺構外出土遺物

表59 遺構外出土遺物観察表

品目	形状	数量	材質	色	寸法	重量	備考	出所		
1	綾文土器	鉢	—	<25>	—	石英・白雲母・赤色粒	7.5YR6-6程	良	外面：平行沈線を施らし、底縁周りに黒い刷目文を施す。 内面：ミダナ。	加賀利B 1
2	綾文土器	深鉢	—	<28>	—	石英・白雲母	5YR6/6程	良	外面：縦線文を貼付け、斜位の糸織を施す。 内面：ミダナ。3本の平行沈線を施す。	加賀利B 1
3	綾文土器	深鉢	—	<61>	—	石英・白雲母・海緑青針・白色粒	外：7.5YR4/2 灰褐 内：7.5YR6/6 橙	良	外面：R.L. 単刷目文を施し、口縁部に縦線文を貼付ける。 内面：粗いミダナ。口縁部に沈線を施す。	加賀利B 1
4	綾文土器	深鉢	—	<76>	—	石英・白雲母・白色粒	5YR4/6 赤褐	良	外面：R.L. 単刷目文を施した後、沈線で文様帯を採掘。沈線間には刷目文を施し、文様帯には斜格子目文を施す。 内面：ミダナ。	加賀利B 2
5	綾文土器	台付鉢?	—	<38>	—	石英・白雲母・赤色粒	外：7.5YR4/4 橘 内：7.5YR3/1 黒褐	良	外面：漆塗を貼付け、斜位の糸織を施す。 内面：ミダナ。3本の平行沈線を施す。	加賀利B 3
6	綾文土器	深鉢	—	<69>	—	石英・白雲母・白色粒	10YR3/4 赤褐	良	外面：R.L. 単刷目文を施し、沈線で文様帯を採掘。沈線間には刷目文を施す。 内面：ミダナ。	曾谷
7	綾文土器	深鉢	—	<69>	—	石英・白雲母・海緑青針・白色粒	外：10YR6/4 に近い黄褐色 内：7.5YR4/2 灰褐	良	外面：R.L. 単刷目文を施し、平行沈線を施す。 内面：ミダナ。	曾谷
8	綾文土器	深鉢	—	<70>	—	石英・長石・白雲母	10YR5/3 に近い黄褐色	やや良	外面：平行沈線で文様帯を区別し、R.L. 単刷目文を施す。 内面：ミダナ。	安行1
9	綾文土器	深鉢	—	<37>	—	石英・白雲母・白色粒	外：10YR4/2 灰黄褐 内：7.5YR4/2 灰褐	良	外面：口縁部に斜位の糸織を施し、体周りに刷目文を施す。 内面：ミダナ。	安行1
10	綾文土器	深鉢	—	<41>	—	石英	10YR6/4 に近い赤褐	良	外面：口縁部にR.L. 単刷目文を施す。 内面：ミダナ。	安行2
11	綾文土器	深鉢	—	<54>	—	石英・白雲母	5YR5/4 に近い赤褐	良	外面：粗い斜位の糸織を施し、口縁部を斜格子目文で採掘する。 内面：粗いミダナ。	安行2
12	綾文土器	深鉢	—	<61>	—	石英・長石・白雲母	10YR5/4 に近い黄褐	良	外面：口縁部にR.L. 単刷目文を施す。 内面：ミダナ。	安行3b
13	土製品	上部内型	6.5	7.1	0.9	61.5	口縁部片を利用。赤褐色。石英・白雲母、海緑青針、赤色粒を含む。			
14	石製品	石籠	<17>	1.3	0.4	2.72	有害。先端部と基部を欠損。チャートを使用。			
15	銅製品	古銭	直径26	—	0.15	3.13	「龍永通宝」			

第7章 まとめ

今回の坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚（1・2区）の調査は調査区に制約があり、遺構の全体像を窺い知ることが困難であった。調査の結果、縄文時代中期中葉～縄文時代晩期前葉・古墳時代～近世にわたる幅広い遺構を確認することができた。以下、時期別の遺構にみる下坂田地区の土地利用、確認された特殊な遺構について述べる。

第1節 遺跡の概観

縄文時代の下坂田地区において明確に人為的な痕跡が確認できるのは、縄文時代中期中葉～後葉からである。遺構の分布は調査区の南～東側にみられ、北～西側では遺構が確認できていない。後期になると遺構の分布は調査区の南側ではみられなくなり、北西側や東側で確認される。後期においては調査区外の桑畑を中心に地点貝塚が形成されるため、貝塚の周囲に遺構が展開しているものと考えられる。晩期の遺構数は少なくなるが、次節で述べるような円筒形の土坑が中心となる。おそらく、晩期の遺構分布の中心は調査区外であるとみられ、今回の調査区で確認された遺構は、その際にあたるものと考えられる。

弥生時代の遺構・遺物は確認することができず、古墳時代前期（4世紀）になると再び土地の利用が再開される。古墳時代における住居跡の展開は調査区の東側を中心としており、6世紀後葉まで集落が営まれたことが確認された。7世紀代になると住居跡はみられなくなり、屋敷付古墳を中心とした坂田台山古墳群が形成され、幕城として展開していったようである。

平安期（8世紀後葉以降）になるとわずかであるが調査区の東側で住居跡が確認される。古墳時代の住居が営まれた地点とほぼ同じであることから、居住域として調査区の東側が適していたということが窺える。その後、15世紀代になるまで土地の利用はなく、調査区の北側に柵や道路跡などが確認されたことから、中世期の下坂田地区は台地の縁辺よりも、内陸側の土地が利用されたようである。

第2節 馬埋納土坑について

1×12号溝跡（堀跡）に隣接する形で馬の埋納土坑（1区11号土坑）を確認した。出土した馬骨の詳細については付章にて掲載する。埋納土坑は東西方向に長軸を持ち、馬は背を南、足を北に向けた状態で出土している。頭部と後足部分は土坑に収まりきらず、後足部分は一部土坑を拡張することで埋納しており、頭部はねじって体部に乗せている。併伴する遺物から15世紀後半～16世紀のものと考えられる。

周辺において同様の埋納土坑を有している遺跡として、入ノ上遺跡¹⁾が挙げられる。入ノ上遺跡は土浦市沖宿町に所在しており、本遺跡から南東方向に約10kmほどの蔵ヶ浦沿岸の台地に位置する。入ノ上遺跡では馬埋納土坑が6基確認されているが、遺物が伴っているのは104号土坑のみで、出土した遺物は土師質土器の灯明皿で15世紀後半に位置づけられるものである。また、馬は全身が残っているものが多く、丁寧に埋葬された印象を受ける。入ノ上遺跡では複数の馬埋納土坑を確認していることから、周囲に牧が存在したことを裏付けるものであるとしている。

本遺跡の馬埋納土坑は肋骨と椎骨が消失しているものの、ほぼ全身が揃っている。また、頭骨の納め方は若干強引のようにも見受けられるが、遺構の掘り込みや後足の一部拡張など丁寧な部分も多い。出土した遺物も入ノ上遺跡とほぼ同時期である。当初は12号溝跡が築状の堀であること、周囲に館跡（上坂田館の内館）があることから、11号土坑も館跡に伴う堀に隣接した埋納土坑と考えられたが、埋葬の方法からすると入ノ

上遺跡と同様に、牧に伴う埋納土坑である可能性も否定できない。

第3節 縄文時代後期後葉～晩期前葉にみられる大型土坑について

今回1・2区の調査で円筒形の深い土坑を複数確認した。1区15・21・25号土坑と、2区1・2号土坑であるが、いずれも出土した土器から縄文時代後期後葉～晩期前葉に属すと考えられる。規模は、直径1m～1.5m、深さは1.5～2.5m、壁面は垂直に立ち上がる。1区25号土坑は検出できた深さが53cmと浅いが、中世の堀跡(12号溝跡)によって削平を受けているため、本来は他の土坑と同様に2m前後の深い土坑であったと考えられる。

このような円筒形の深い土坑は東関東でいくつか事例が確認されている。茨城県内の調査では、土浦市に隣接するつくば市上境旭台貝塚⁽²⁾で6基の円筒形土坑(縄文時代後期後葉～晩期前葉)を、境町本田遺跡⁽³⁾では4基の円筒形土坑(いずれも縄文時代後期後葉)が確認されている。他県に目を向けると、千葉県印西市馬場遺跡⁽⁴⁾(第5地点241号土坑:晩期前葉)、佐倉市井野長刺遺跡(第8次28号土坑:晩期前葉)、埼玉県馬場小室山遺跡(第5次調査51号土坑:晩期前葉、第32次調査1・13・14・36号土坑:晩期前葉)などでも類似が確認されている。中でも印西市馬場遺跡で確認された土坑は直径約2.3m、深さが5.46mを測る巨大な円筒形の土坑で、覆土中には貝・炭化物・灰・動物遺体を含み、晩期前葉のまとまった土器が出土している。加えて、中層からは注口土器が正位置で出土し、さらに下層からはシカの頭骨が正位置で出土している。上記(千葉・埼玉)の土坑を比較・検討した田中大介氏⁽⁵⁾は、円筒形の大型土坑に関して①規模が大きい、②若干の時期差はあるものの、晩期前葉の良好な遺物が一括して出土する、③覆土中に炭化物・灰が多量に認められる、としている。

そこで本遺跡の円筒形土坑を振り返ると、1区15号土坑は晩期前葉の土器が出土、1区21号土坑は13号溝跡に削平された影響もあってか遺物の出土量は少なく、確認できた遺物は後期後葉の土器を中心としている。1区25号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品を含み、注口土器(晩期前葉)が正位置で出土している。2区1号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・貝製品・動物遺体・灰、2区2号土坑は覆土中に晩期前葉の土器・貝・動物遺体が確認された。加えて2区2号土坑の底面からはイノシシの頭骨が出土している、などの特徴が挙げられる。規模は全体的に小振りな印象だが、晩期前葉の土器を主体とする点や、貝・動物遺体を大量に含む、正位置の遺物が出土する点など、他地域との共通点が多々見受けられる。また、遺構の性格が廃棄するためのものであるのか、もしくは埋納するためのものであるのかといった点については、明確な位置付けが困難である。1区25号土坑では正位置の遺物が出土しているが、他の土坑においては個体になるものは少なく大多数は破片であるといった差異も見受けられるため、個々の円筒形土坑によって用途を区別していた可能性も考えられる。共通して言えることは晩期前葉の東関東において、直径1～2m、深さが2mを超えるような円筒形の大型土坑を掘るという認識を持ち合わせていたということであろう。

第4節 1区25号土坑・2区1号土坑出土の貝について

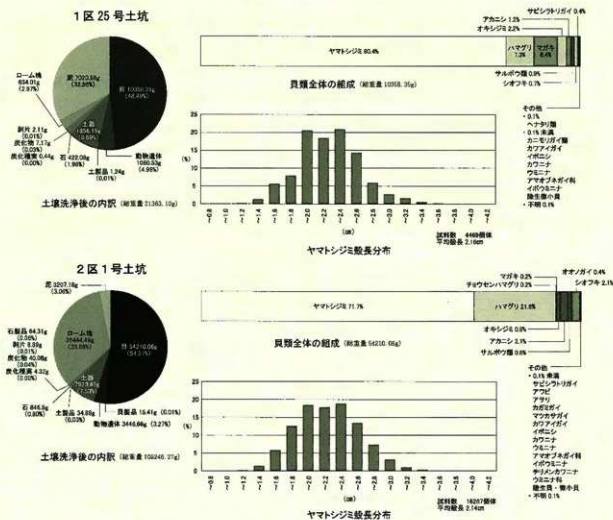
今回の調査を通して、1区地点貝塚(2地点)・1区25号土坑、2区1・2・3号土坑から貝を確認している。地点貝塚は攪乱を受けているため出土した量は多くなく、2区2・3号土坑も同様に出土量は少ないが、1区25号土坑と2区1号土坑は覆土に大量に貝が混入しており、出土量の8割ほどを占める。本節においては、貝が大量に出土した両土坑について、種別と出土量の表を掲載する。出土した貝の種別同定に関しては、西本豊弘氏に依頼した。1区25号土坑は圧倒的にヤマトシジミが多く、次いでハマグリ・マガキ・オキシジミ・アカニシと続く。2区1号土坑も圧倒的な出土量はヤマトシジミであるが、ハマグリ・マガキはほとんどなく

アカニシ・シオフキ・オキシジミ・サルボウ類と続く。両土坑に共通するのは汽水域の貝であるヤマトシジミがほとんどであるが、アカニシ・シオフキといった内湾水域の貝も採取している。また2区1号土坑については、わずかではあるがアワビやチョウセンハマグリといった沿岸水域（外洋）の貝もあることから、内陸の下坂田から霞ヶ浦を出て貝の採取を行っていたことが窺える。

註

- (1) 窪田恵一・黒川友紀・黒野春彦『入ノ上遺跡 一都市計画道路田村沖線沿道跡事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土壌市教育委員会 1997年8月
- (2) 江原美奈子『上境旭日台貝塚2 中境・金田台特定地区内埋蔵事業地内埋蔵文化財調査報告書XV』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第364号 2012年3月
- (3) 江原美奈子『本田遺跡 一秋田道465号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告書』第313号 2009年3月
- (4) 喜多能明『遺作古墳群（第2次）-馬場遺跡第5地点（第1次・第2次）-印西市道00-031号線遺作古墳群・馬場遺跡埋蔵文化財調査-』『財団法人 印旛郡古文化財センター 発掘調査報告書』第296号 2011年3月
- (5) 田中大介『資料紹介』印西市馬場遺跡第5地点241号土坑について—遺物出土状況と版位遺構の紹介—『印西の歴史』第6号 2012年3月

表 60 土壌洗浄・貝分類表



遺構名		殻長 (mm)																	総長 計測数	計測数 合計	殻長不明 個体数	總体数 合計		
		-0.8	-1.0	-1.2	-1.4	-1.6	-1.8	-2.0	-2.2	-2.4	-2.6	-2.8	-3.0	-3.2	-3.4	-3.6	-3.8	-4.0					-4.2	
1区 SK25	右殻	0	1	5	33	129	36	608	450	464	312	134	52	39	10	5	2	1	0	2147	4469		2878	9713
	左殻	0	0	2	26	122	318	414	394	480	326	130	66	32	11	1	0	0	0	2922				
2区 SK1	右殻	0	0	42	126	527	1075	1655	1490	1628	1122	622	247	77	26	5	0	0	0	8473	16287		11574	38375
	左殻	0	3	17	91	411	963	1440	1440	1425	1086	580	263	79	18	11	3	0	1	7614				

ヤマトシジミ殻長計測

付章 動物遺体について

国立歴史民俗博物館 西本豊弘

はじめに

2012年度の下坂田貝塚の発掘調査で少量の動物遺体が出土した。発掘区が1区と2区に分かれており出土遺体も異なるので、動物遺体の内容は遺構ごとに表にまとめた。それらの所属時期は縄文時代晩期前葉と中世の二時期に分けられる。縄文時代晩期はシカとイノシシが主体であり、中世はウマが主体である。

1. 縄文時代の動物遺体

哺乳類ではイノシシが最も多く、その次にシカが多い。その他にタヌキ・アナグマ・ノウサギ・ツキノワグマが見られた。鳥類は、カモ類とツル類、魚類はクロダイ・ボラ類・フグ類・エイ類・ウグイ類・ヒラメなどが少量出土している。

ヒトの骨や歯も少量見られた。2区1号土坑の頭蓋骨は薄く、女性かも知れない。2区2号土坑の頭蓋骨は厚く、男性であろう。雑合が閉じていないので20～30代であろう。

2. 中世の動物遺体

中世の遺構では、シカ・イノシシ・イヌ・ウマが出土している。1区11号土坑では、ウマ1体が埋葬されていた。出土状態から見ると、解体されずに遺体そのまま横倒しの状態で埋葬されたようである。消失した骨もあるが、大部分の骨格が保存されていた。ただし骨質の保存状態は悪く、骨は脆くなっていた。

ウマの形質を見ると、頭部は大きい歯が細くモウコウマ系であり在来馬である。四肢骨の長さから体高を推定してみると約120cmである。臼歯の磨耗は進んでいるが老年ではなく10～12歳程度であろう。犬歯を伴うので雄獣である。

表1 下坂田中台遺跡・下坂田貝塚1区出土動物遺体一覧表

遺構	時期	種類	部位	L/R	保存部位・形状	数量	備考
13号土坑	縄文	イノシシ	第4中骨骨	L/R	破砕品	1	
		イノシシ	後臼歯		破片	1	
		シカ	趾節骨		破片	1	
		鹿	骨片		破片	11	
		クロダイ	骨ノコギリ	L/R	歯 欠片	3	
20号土坑	縄文	鹿	骨片		破片	8	
21号土坑	縄文	鹿	骨片		破片	13	
25号土坑	縄文	イノシシ	頭蓋骨	L	頭蓋骨・破骨	3	
		イノシシ	上顎骨	L/R		1	
		イノシシ	上顎骨	L		1	
		イノシシ	上顎骨	L/R		1	
		イノシシ	下顎骨	L	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨	R	下顎骨	1	
		イノシシ	下顎骨		下顎骨破片	3	
		イノシシ	下顎骨		下顎骨骨片	1	
		イノシシ	下顎骨	R	口	1	
		イノシシ	下顎骨	R	門	1	
		イノシシ	下顎骨	R	dent	1	
		イノシシ	大臼歯	R	臼歯部	1	骨端はズレ
		イノシシ	臼歯	R	欠片	1	
		イノシシ	第4中骨骨		破砕品	1	
		イノシシ	末臼歯			1	
		シカ	趾節骨	L	破片	1	
シカ	趾節骨		ほぼ完整	1	大原		
シカ	中足骨	R	趾節部	1			
クモノワグマ	鼻骨			1			
タヌキ	上顎骨	R	M3	1			
カモ(中)	尺骨	R		1			
カモ(中央)	大翼骨	R		1			
ツル	鳥口骨	L	遠近部	1			
クロダイ	尾ノコギリ	L		6	中～大		
クロダイ	尾ノコギリ			2	中		
クロダイ	尾ノコギリ			2	中		
クロダイ	尾ノコギリ			2	中		
クロダイ	尾ノコギリ			2	中		
クロダイ	尾ノコギリ			2	中		
クロダイ	尾ノコギリ			1			
クロダイ	骨			1			
タイ	骨			1			

25号土坑	縄文	スズナ	骨片	L		1	
		フグ	上顎骨	R		2	
		ボラ	骨片			2	
		エイ	椎骨			1	大
		エイ	尾椎	破片		1	
		ヒラメ	骨片			1	
		鯉	魚鱗	破片		750	
		不明	破片			77	
		イノシシ	後臼歯		破片	4	
		鹿	骨片			2	成骨
27号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
28号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
29号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
30号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
31号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
32号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
33号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
34号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
35号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
36号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
37号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
38号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
39号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
40号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
41号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
42号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
43号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
44号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
45号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
46号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
47号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
48号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
49号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
50号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
51号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
52号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
53号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
54号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
55号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
56号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
57号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
58号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
59号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
60号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
61号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
62号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
63号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
64号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
65号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
66号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
67号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
68号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
69号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
70号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
71号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
72号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
73号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
74号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
75号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
76号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
77号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
78号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
79号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
80号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
81号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
82号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
83号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
84号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
85号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
86号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
87号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
88号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
89号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
90号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
91号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
92号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
93号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
94号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
95号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
96号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
97号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
98号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
99号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
100号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
101号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
102号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
103号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
104号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
105号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
106号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
107号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
108号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
109号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
110号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
111号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
112号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
113号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
114号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
115号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
116号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
117号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
118号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
119号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	
120号土坑	縄文	シカ	上顎骨	L	M2	1	

表3 1区11号土坑出土ウマ

部位	LR	残存部位・番式	数量	備考	最大長(mm)	測定体高(cm)
頭骨		側頭骨位	1	1個体分		
上顎骨	LR	L.(I123CP234M123) R.(I2aaP234M123)	2	推定年齢:10~12歳	♂	
下顎骨	LR	L.(I123CP234M123) R.(I23CP234M123)	1			
環椎			1			
軸椎			1			
頸椎			5			
胸椎			7			
椎骨		椎体のみ	6	腰椎部分か		
肋骨		近位部	9			
肩甲骨	L	骨端と辺縁部破損	1			
肩甲骨	R	骨端と辺縁部破損	1			
上腕骨	L	近位骨端破損	1			
上腕骨	R	近位骨端破損	1		260 ±	130
桡骨	L	遠位部破損	1		305 ±	123
尺骨	L		1	検査に付着		
腕骨	R	近位部	1			
尺骨	R	遠位部	1	検査付着部分のみ残		
中手骨	LP	遠位部	1			
基節骨	LP	近位部	1			
寛骨	L	関節口-坐骨・腸骨	1			
寛骨	R	関節口-坐骨・腸骨	1			
大腿骨	L	近位骨端破損	1			
大腿骨	R	遠位部	1			
脛骨	L	骨幹部破損	1			
脛骨	R	骨端・骨幹部破損	1			
腓骨	L		1			
中足骨	L	骨幹部破損	1			
中足骨	R	骨幹部破損	1	第2・4中足骨あり		
趾骨	L	完存	1			
趾骨	L	完存	1			
趾骨	R	遠位部	1			
趾骨	R		1			
足根骨	L		3			
足根骨	R		5			
掌骨		近位部	1			

表4 1区11号土坑出土 ウマ歯計測表 (mm)

	歯種	左右	長さ		歯幅	歯種	左右	長さ		歯幅	後幅
			前	後				前	後		
上顎歯	P2	L	38.9	21.7		下顎歯	P2	L	31.1	—	13.7
	P3	L	25.8	25.3			P3	L	26.1	14.9	14.4
	P4	L	24.0	25.5			P4	L	25.5	15.0	15.3
	M1	L	22.2	25.5			M1	L	22.0	14.2	12.5
	M2	L	22.2	23.5			M2	L	24.1	13.4	12.1
	M3	L	27.0	21.9			M3	L	31.2	11.5	—
	P2	R	38.0	21.9			P2	R	30.3	—	13.5
	P3	R	26.4	25.3			P3	R	25.7	13.7	14.2
	P4	R	24.0	24.9			P4	R	24.6	15.0	14.6
	M1	R	21.4	24.6			M1	R	21.7	14.4	12.7
	M2	R	22.1	23.9			M2	R	23.3	13.6	11.8
	M3	R	26.1	22.1			M3	R	31.7	11.7	—

注: Pは前臼歯、Mは後臼歯、数字は歯の順番を示す。

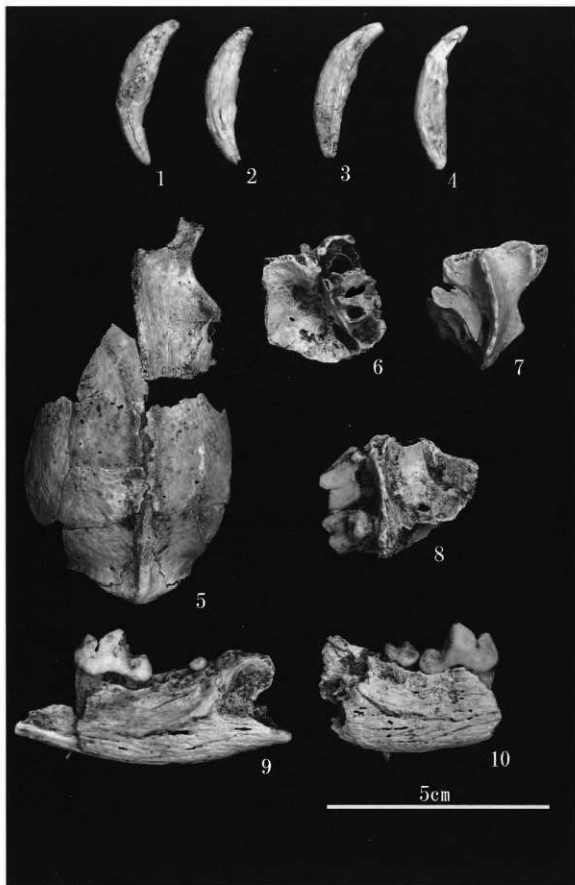


写真1 イノシシ

1：上顎骨（幼獣） 2：上顎骨（成獣） 3：後頭部 4：頸椎 5：尺骨 6：脛骨近位部（若獣） 7：脛骨遠位部 8：寛骨 9・10：下顎骨（雌獣）

（1・6・7・9は左側、2・5・8・9は右側。幼獣・若獣の記載がないものは成獣）



写真2 シカ

1・2：下顎骨 3：頸椎 4：肩甲骨 5・6：中足骨 7：距骨 8・9：基節骨 10・11：中節骨
 12：頭骨と角突起 13：鹿角 14：落角
 (1・4は左側、2・5・7・12は右側)



写真3 ウマ(1区11号土坑)

1: 左右上顎骨 2: 左側下顎骨 3a・b: 右側下顎骨



写真4 ウマ (1区11号土坑)

1: 第1頸椎 2: 第2頸椎 3: 肩甲骨 4: 上腕骨 5: 橈骨 6: 大腿骨 7: 脛骨 8: 寛骨

9: 中足骨 10: 中手骨遠位部 11: 踵骨 12: 距骨

(1・2・10以外は左側)

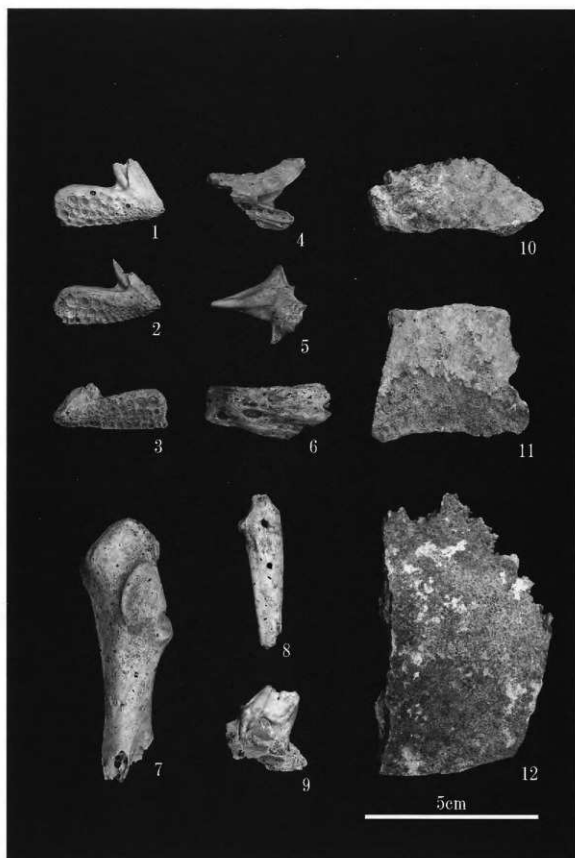


写真5 魚類 (1~6)・鳥類・哺乳類・ヒト (10~12)

1~3:クロダイ前上顎 4:クロダイ歯骨 5:タイ類関節骨(角骨) 6:スズキ歯骨 7:ツル類鳥口骨 8:
アナグマ尺骨 9:イヌ上顎骨 10~12:ヒト頭蓋骨
(1・2・4~9は左側、3は右側)

写 真 图 版



1号住居跡全景 (南西から)



1号住居跡遺物出土状況 (南西から)



1号・2号溝跡全景 (東から)



1号土坑 (陥し穴) 全景 (東から)



2号土坑全景 (北から)



3号土坑全景 (西から)



屋敷付古墳調査前全景 (北から)



1号墳周溝全景 (北から)



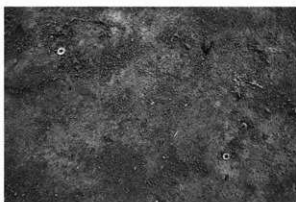
1号住居跡全景 (南東から)



1号住居跡カマド (南東から)



2号住居跡全景 (北西から)



2号住居跡白玉出土状況 (北東から)



3号住居跡全景 (南東から)



3号住居跡遺物出土状況 (北東から)



4号住居跡全景 (南東から)



4号住居跡遺物出土状況 (西から)



5号住居跡全景 (南東から)



5号住居跡遺物出土状況 (東から)



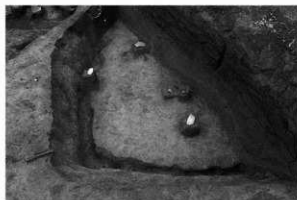
6号住居跡全景 (南東から)



6号住居跡遺物出土状況 (南東から)



7号住居跡全景 (南西から)



7号住居跡遺物出土状況 (南東から)



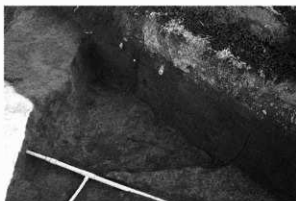
8号住居跡全景 (北西から)



8号住居跡遺物出土状況 (北西から)



9号住居跡全景 (北西から)



10号住居跡全景 (北西から)



11号住居跡全景 (南東から)



11号住居跡遺物出土状況 (南から)



13号住居跡全景 (南から)



13号住居跡遺物出土状況 (南から)



13号住居跡土製模造鏡出土状況 (南から)



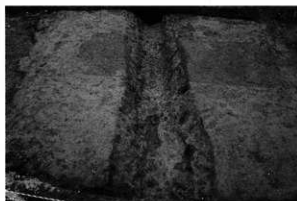
14号住居跡全景 (南西から)



14号住居跡石製模造品出土状況（西から）



2号溝跡遺物出土状況（南から）



6号溝跡全景（東から）



7・8・10号溝跡全景（東から）



9号溝跡硬化面検出状況（南西から）



12号溝跡（堀跡）全景（南東から）



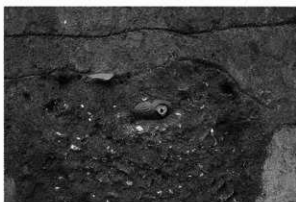
13号溝跡全景（東から）



11号土坑馬骨出土状況（北から）



24号土坑(陥し穴)全景(南から)



25号土坑注口土器出土状況(北から)



1号建物跡検出状況(南から)



1号井戸跡全景(北から)



地点貝塚検出状況(南東から)



20~23号ピット全景(南東から)



1区南側東西路線全景(西から)



1区北側東西路線全景(東から)



1号住居跡全景 (西から)



2号住居跡全景 (西から)



1号溝跡全景 (南から)



2号溝跡全景 (南東から)



1号土坑セクション (南から)



2号土坑セクション (南から)



3号土坑全景 (西から)



2区全景 (南西から)

坂田台山古墳群



1住-1



1住-2



1住-4



1住-3



1土-1



1土-3



1土-2



1土-4



P 3-1



遺外-1



遺外-2



遺外-3



遺外-5



遺外-6

遺外-4



遺外-7



遺外-8

下坂田中台遺跡・下坂田貝塚 1 区



1住-1



1住-4



1住-2



1住-5



1住-6



1住-3



1住-7



1住-9



1住-10



1住-11



1住-8



1住-13



1件-12



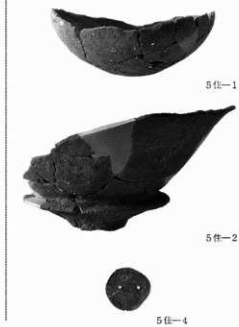
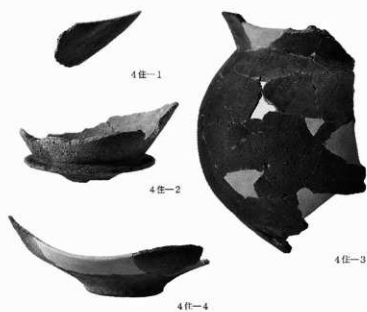
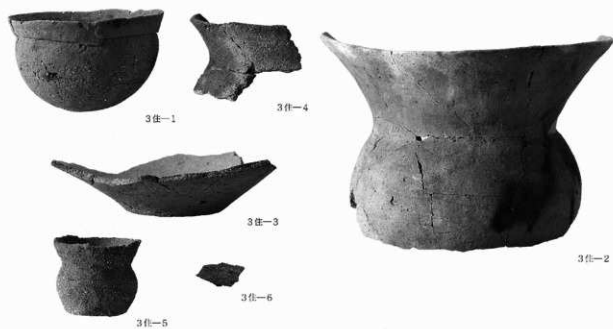
1件-14



1件-15



1件-16







8住-7



8住-8



8住-9



11住-1

11住-2

11住-3



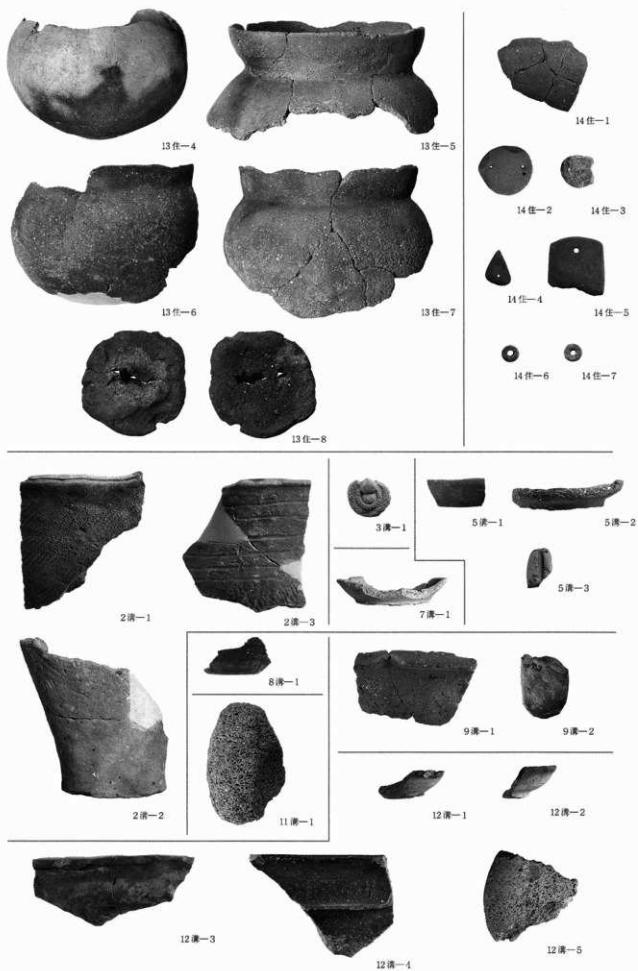
13住-1

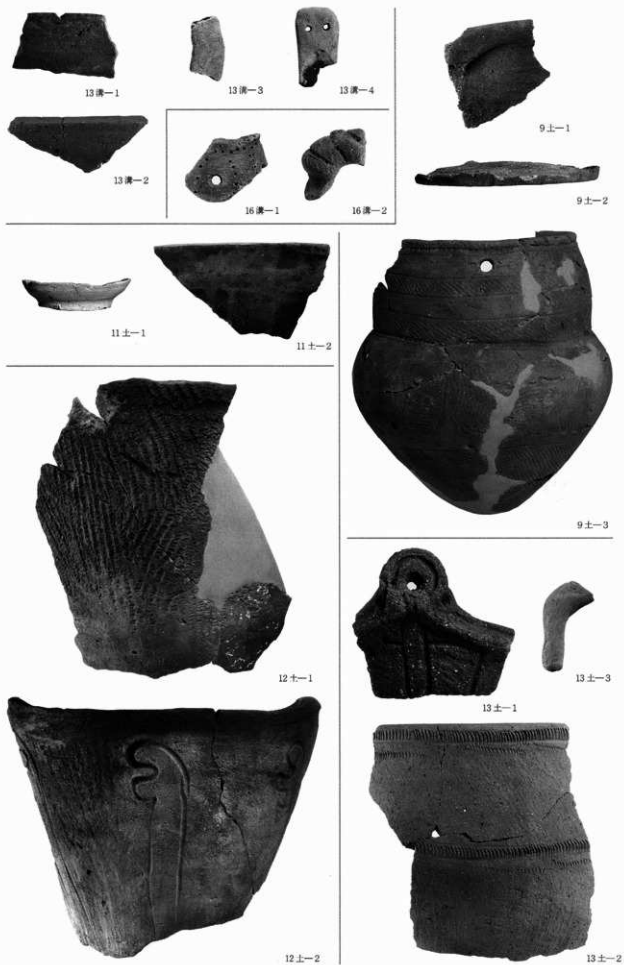


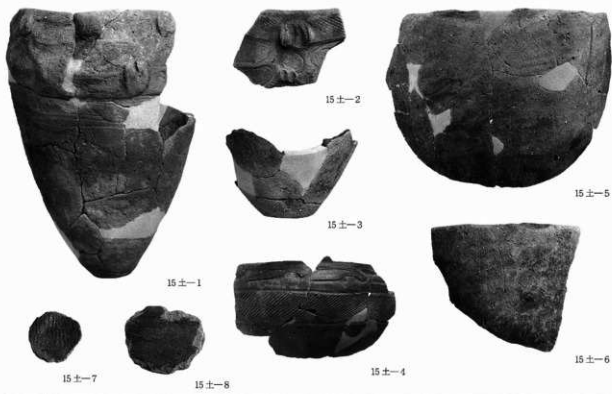
13住-2



13住-3









25上-1



25上-2



25上-4



25上-5



25上-6



25上-7



25上-3



26上-1



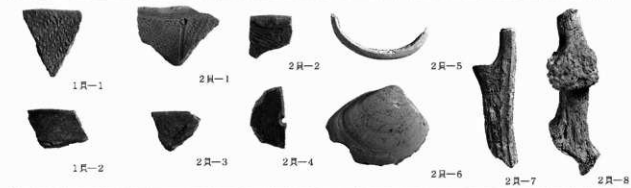
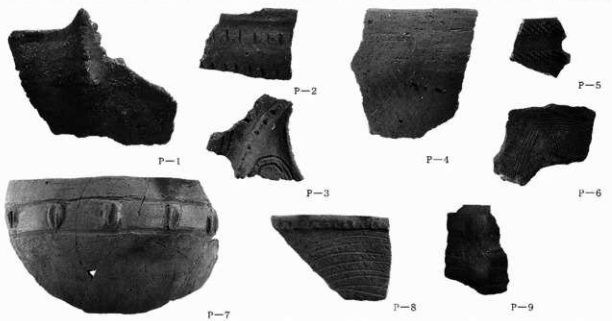
27上-1

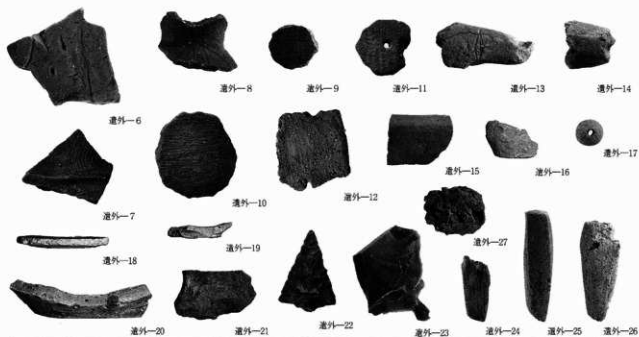


27上-2

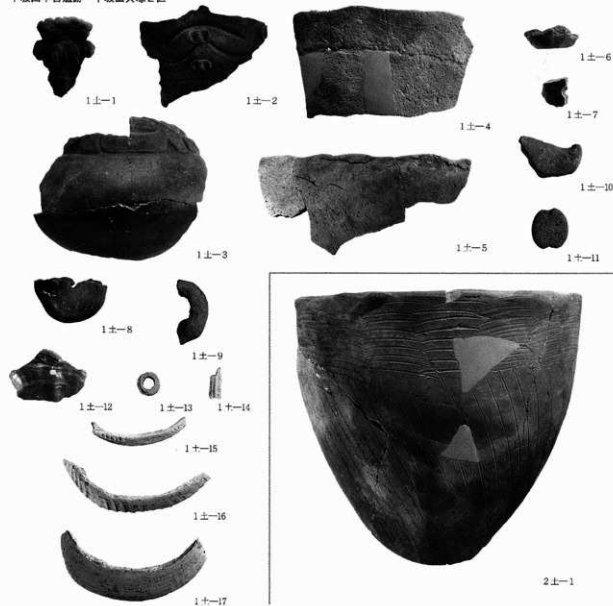


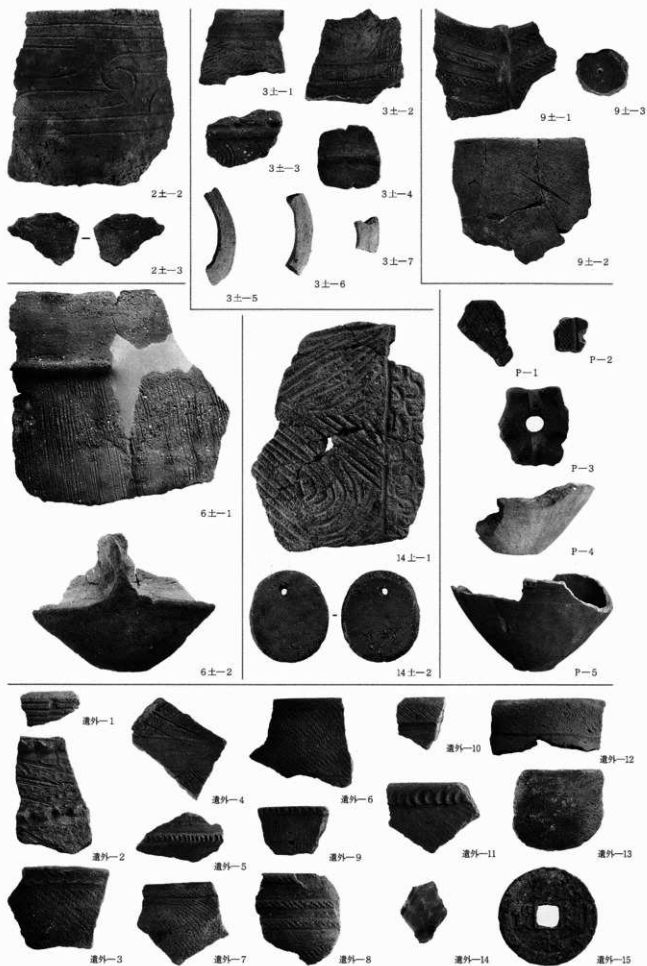
27上-3





下坂田中台遺跡・下坂田貝塚2区





報告書抄録

ふりがな	さかただいやまこふんぐん・しもさかたなかだいいせき・しもさかたかいづか							
書名	坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚							
副書名	坂田地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名								
編集者名	柴田洋孝							
著者名	比毛君男・西本豊弘・柴田洋孝							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 茨城支所							
所在地	〒300-0811 茨城県常総市菅生町2042-1 In.0297-27-0722							
発行年月日	平成25年3月8日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
坂田台山古墳群 土浦市下坂田 下坂田中台遺跡 下坂田貝塚	1467 番地外	465	008 005 006	36° 06' 31"	140° 10' 05"	2011.12.14 ～ 2012.03.21	2,760㎡	畑地帯総合 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
坂田台山古墳群	集落 古墳	縄文	堅穴住居跡 土坑	1軒 3基	縄文土器・石器（打製石 鏃）	縄文時代中期後葉の遺 構を確認。 屋敷付古墳の周溝は擾 乱の影響が著しい。		
		古墳	周溝	1基	縄文土器・土師器・陶磁 器			
		中・近世	溝跡 道路状遺構	1条 1条	縄文土器・陶磁器			
下坂田中台遺跡 下坂田貝塚	貝塚 集落 城域	縄文	堅穴住居跡？ 土坑 地点貝塚	3軒 36基 2ヶ所	縄文土器・土製品（土甕・ 腕輪・土版・土器片・円盤・ 土器片・鏃）・石器（打製 石鏃・打製石斧・磨製石 斧）・骨角製品（ヤス）・ 貝製品（貝輪）・貝・獣骨・ 魚骨	縄文時代中期中葉～晩 期前葉までの遺構を確認。 地点貝塚は後期前 葉～中葉にかけて形成 されたとみられる。晩 期前葉においては円筒 形の深い土坑を確認し ており、覆土中から完 形の注口土器や、大量 の貝・獣骨等を確認。 古墳時代の住居跡は前 期から後期までを確認。 1区13号住居跡 からは土製の模造鏡が 出土している。 中世期における黒跡は 館跡、もしくは牧に 関連するものとみられ る。また、馬の埋納土 坑を1基、堀跡に隣接 して確認している。		
		古墳	堅穴住居跡	11軒	土師器・土製品（紡錘車・ 模造鏡）・石製品（紡錘車・ 白玉・模造品）			
		奈良・平安	堅穴住居跡 溝跡 土坑	2軒 2条 1基	土師器・須恵器			
		中世	掘立柱建物跡？ 溝跡 堀跡 道路状遺構 土坑 地下式坑 馬埋納土坑 井戸跡	1棟 11条 2条 2条 3基 1基 1基 1基	かわらけ・土師質土器 （鍋・茶釜・陶器（蓋・甕）			
		近世	溝跡 井戸跡？	1条 1基	泥面子			

茨城県土浦市

坂田台山古墳群
下坂田中台遺跡
下坂田貝塚

畑地帯総合整備事業（担い手支援型）

坂田地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成 25 年 3 月 5 日

発行 平成 25 年 3 月 8 日

編 集 有限会社毛野考古学研究所 茨城支所
〒303-0044 茨城県常総市菅生町2042-1
TEL 0297-27-0722

発 行 土浦市教育委員会
〒300-0811 茨城県土浦市藤沢975
TEL 029-826-1111

印 刷 朝日印刷工業株式会社
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67
TEL 027-251-1212